

31001

教育人間学

S / W 北岡宏章

⑩教育人間学

〔概要〕 本講義は、教職を目指す受講者が、その教育実践の基盤として、自らの人間観をより広く深いものに形作る一助となるよう、人間存在の諸層・諸側面とその相互の連関、更には人間性の生成・発展について論じる。特に、科学技術と生命科学の進歩と意義、およびそれらが逆にもたらしている現代社会の混迷、宗教（性）と人間の関わりなど、現代を特徴付ける諸問題を中心に据え、学生自らが根本的に考え、そこから教育の問題を考察することができるように指導する。《授業形態》は、講義のほか小レポートや発表、討議も可能な限り織り込んでいく。

〔到達目標〕 今日の間人が直面している問題状況およびその教育的影響について理解し、解決を探るべき方向について考えを深める。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 人類の進化と人間性の発展 |
| 2 人間性の揺らぎと人間学 | 10 脳の成長と教育 |
| 3 人間学の歴史と方法 | 11 人間の成長と言語の獲得 |
| 4 生命科学の進歩と問題点 | 12 ランゲフェルト「子どもの人間学」(1) |
| 5 生殖医療の進歩と問題点 | 13 ランゲフェルト「子どもの人間学」(2) |
| 6 終末期医療と死生観の変化 | 14 ランゲフェルト「子どもの人間学」(3) |
| 7 ケータイの功罪 | 15 定期試験 |
| 8 ITがもたらす人間性の変容 | |

〔テキスト〕 林勲編著 『教育の原理』 法律文化社

〔参考文献〕 授業で指示。

〔授業形態〕 講義・発表・討議

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、平常点 30%

31002

特別支援教育

W 富永光昭

⑩特別支援教育

〔授業題目〕 特別支援教育の指導法

〔概要〕 通常学級に在籍するLD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性障害）等発達障害の子どもたちへの理解と支援が、通常学級担当教師にも求められている。本講義では、このような発達障害児や自閉症児、知的障害児の指導法等について、事例を中心に講義する。

〔到達目標〕 ・特別支援教育の基礎を理解する。・通常学校における特別支援教育の諸課題を捉える。・自閉症児・発達障害児・知的障害児の理解と指導法について理解する。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------------------|--------------------|
| 1 特別なニーズ教育、特別支援教育とは何か？ | 7～8 自閉症児の理解と指導法 |
| 2 障害についてのビデオの視聴 | 9～10 特別支援教育のビデオの視聴 |
| 3～4 障害・発達の捉え方 | 11～12 発達障害児の理解と指導法 |
| 5～6 個別の指導計画・個別の教育支援計画作成から教育課程の編成へ | 13～14 知的障害児の理解と指導法 |
| | 15 定期試験 |

〔テキスト〕 富永光昭・平賀健太郎編著、『特別支援教育の現状・課題・未来』、ミネルヴァ書房、2009年3月

〔参考文献〕 富永光昭著、『特別支援教育の授業づくり』、ミネルヴァ書房、2006年

〔授業形態〕 講義・双方向授業・備考 VTR、DVD 使用、一部パワーポイント使用

〔成績評価の方法〕 定期試験（60%）、平常点（40%）

31003

教職論

S / W 植田義幸

⑩教職論

〔概要〕 この科目では、教員を志望する受講者が各自の教育理念を確立し、教職の意義や教員の役割および職務内容に関する知識を修得することを通じ、あるべき教員像を明確にすることにより、教職を選択することの可否の判断に資することおよび教員としての資質能力の基礎を形成することを目指す。内容として、教職の本質、教職員の種類と資質、教職観、求められる資質能力、教員の人事、研修、勤務条件をとりあげ、学校ボランティアなどの各種の機会について情報提供をし、受講者が進路について熟慮することを求める。授業形式は、講義を基本とするが、一方向的な知識伝達のみでなく、主体的に学習を進める意欲を喚起するために、小グループによるレポート提出を求める。

〔到達目標〕 ・教職員に関する法令等の規定や文献等を通じ、教職員に対する社会の要請（求められる資質能力、教職観）を把握し、教職の意義および教員の役割を理解する。 ・法令等の規定を理解し、教員の研修や服務、身分保障の特殊性を把握し、教員の職務内容を理解する。 ・学校ボランティアなどについての情報を収集・整理し、教育実習に参加するまでの活動計画を確立する。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------------------------|--|
| 1 教職を考察することの意義 | 9 教員の研修 研修の義務と機会・特例 |
| 2 教職観 人々が教師をどう見ているか | 10 教員の身分保障 (1) 分限・懲戒の規定 |
| 3 求められる教師の資質能力 (1) 普遍的に求められる資質能力 (不易) | 11 教員の身分保障 (2) 勤務条件と職員団体 |
| 4 求められる教師の資質能力 (2) 現在求められる資質能力 (流行) | 12 適性を考える (2) 教員にふさわしい能力を育てるために学生のうちにすべきこと |
| 5 適性を考える (1) 相互批評による長所と短所の自覚 | 13 適性を考える (3) 教員 (卒業生)・学校ボランティア (上級生) 体験談、ボランティア参加手順 |
| 6 教職員の種類と資格 (1) 教職員の職種と免許状 | 14 どのような教師を目指すのか 教職への意思の確認と以降の活動計画の作成 |
| 7 教職員の種類と資格 (2) 新しい職種と役割 | 15 定期試験 |
| 8 教員の人事 任命・監督と給与負担 | |

〔テキスト〕 林勲・田原恭蔵 編著『教育概論』(法律文化社)

〔参考文献〕 浪本勝年他『ハンディ教育六法』(北樹出版)

〔授業形態〕 講義・対話

〔成績評価の方法〕 平常点 30%、定期試験 70%

31004

教育原論

S 碓井岑夫 北岡宏章

⑩教育原論

〔概要〕 「ヒトは教育によって人間となる」といわれる。他の高等哺乳動物よりもはるかに未熟で無力に生まれるヒトの子が、二足歩行を身に付け、言語を話し、更にはもろもろの非言語的コミュニケーションをも行なえるよう成長するのであるが、それにはどのようなプロセスを経ることが必要なのであろうか。人間の発達・成長・学習の事実を取り上げ、一生物種としてのヒトを真に人間らしい存在に高める「教育」の本質とは何かを、社会や文化の発展との関係も視野に入れつつ考究したい。更に、人間にふさわしい発達・成長を実現するために構想されてきた教育の思想・内容・方法を具体的に検討し、今日の学校教育をめぐる諸問題を、社会的・歴史的・教育学的な視点から講義する。小学校教諭、中・高等学校教諭・養護教諭のそれぞれの立場における留意点を含めて論じる。

〔到達目標〕 学校教員を目指す学生に、さしあたり教育(学)全般についておおまかに解説し、今後それぞれの分野を深めて行くための準備と展望を与えると同時に、教育とはそもそも何であるのかという最も基本的でかつ重要な問題を詳しく論じると同時に学生自身にも深く考えさせる。更に、学校教育の発展の後を辿り、学校教育のなしうること、達成してきたことと、困難なことについても考えさせる。

〔授業計画〕

- | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------|
| 第1回 オリエンテーション | 第6回 日本の近代化と学校 | 第11回 生活指導の実践と原則 |
| 第2回 教育とは何か (1) | 第7回 現代の子どもと学校教育 | 第12回 生涯学習社会と学校 |
| 第3回 教育とは何か (2) | 育 | 第13回 現代社会と家庭、地域 |
| 第4回 人間の発達と教育・学習 | 第8回 教育権の思想 | 第14回 教師の仕事 |
| 第5回 近代学校の歴史 | 第9回 教育課程 | 第15回 定期試験 |
| | 第10回 教育内容と方法 | |

〔テキスト〕 『キーワードで読む教育学』、田原恭蔵・林勲編、法律文化社(碓井)『教育の原理』、林勲編、法律文化社(北岡)

〔参考文献〕 授業中に指示

〔授業形態〕 講義・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験 60%、ミニレポート等平常点 40%

31005

教育心理学

S / W 八木成和

⑩教育心理学

〔概要〕 本講義は、児童・生徒の心理的な側面を理解し、教師としての児童生徒の様々な問題行動に対応できるようにすることを目標とする。そのため、児童生徒の認知能力の発達と学習過程、教師－児童生徒間関係および児童生徒間関係という対人関係や学級集団の特質、授業の計画・実施・評価の教授過程、発達障害児の特徴、いじめ・不登校・学級崩壊等の教育問題などの内容について講義する。授業形式は講義を中心とするが、受講者の考えや理解を把握するために小テストや小レポートなどを取り入れる。

〔到達目標〕 教育心理学における基本的な専門用語を理解する。知能、認知、動機づけ、集団、教師の役割、授業の計画・実施・評価、教育評価と測定に関する基本的な理論を学ぶ。その後、基本的な知識をもとに、いじめ、不登校、学級崩壊、発達障害などの応用的な内容について理解を深めていく。到達目標として、専門用語の理解、知能指数と偏差値の計算、基本的な実験や調査の理解およびその結果と示された図表の読解、発達障害児の特徴とその対応の理解を目指すものとする。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------------------|-------------------------------|
| 1 教育心理学の研究領域と今後の課題 | 8 教育評価の意義と機能 |
| 2 幼児・児童・生徒の知能の測定・評価と発達障害児のアセスメント | 9 教育評価の問題点と発達障害児の評価方法 |
| 3 幼児・児童・生徒の認知的発達と学習障害（LD） | 10 教育心理に関する統計学（学力の測定方法および偏差値） |
| 4 児童・生徒の動機づけに関する理論および動機づけを高める教師の行動 | 11 いじめの現状と原因およびその対策 |
| 5 児童・生徒間関係の測定方法および教師－児童・生徒間関係 | 12 児童・生徒の不登校の現状とその対策 |
| 6 教師が授業において果たす役割と教師の力量 | 13 学級崩壊の過程と対策 |
| 7 授業の計画・実施・評価（PDCA サイクル） | 14 発達障害児の二次的障害としてのいじめ・不登校 |
| | 15 定期試験 |

〔テキスト〕 本郷一夫・八木成和（編）著『シードブック教育心理学』（建帛社 2008年）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 専門用語や理論の理解度を評価するために定期試験を実施する（80％）。専門用語の理解度と教育問題に対応する方法の理解度を評価するために小テストと小レポートを実施し、平常点（20％）とする。

31006

教育制度論

S / W 林 勲 植田義幸

⑩教育制度論

〔授業題目〕 教育制度の意義と課題

〔概要〕 この科目では、公教育が制度に裏付けられた教育であることを踏まえ、わが国の教育制度について受講者が基本的な知識を獲得することを目標とする。内容として、学校制度、義務教育制度、社会教育制度、教育行財政制度を取り上げる。特に、最近の教育改革動向について、政策文書などを参照して言及する。授業形式は、講義形式を基本とするが、一方向的な知識伝達のみでなく、主体的に学習を進める意欲を喚起するために、小グループによるレポート提出を求める。担当者は、林、植田の2名であるが、それぞれが異なるクラスについて、学期を通じて担当する。共通のテキストを使用し、内容は共通している。

〔到達目標〕 ・学校制度について、歴史的な発展を踏まえ、典型的な構造があることを理解し、わが国の学校制度の特徴と改革動向を理解する。・義務教育の基本理念を知り、制度上の問題点を理解する。・社会教育制度の概要を理解する。・教育行政の理念および原則と制度の概要を知り、現在の問題と改革動向を理解する。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1 教育制度研究の意義 | 9 戦後教育行政の原則と変遷 |
| 2 学校制度の構造と歴史 | 10 中央教育行政の組織と役割 |
| 3 わが国の学校制度の特徴 | 11 地方教育行政の組織と役割 |
| 4 学校制度改革の動向と課題 | 12 中央と地方、都道府県と市町村の関係 |
| 5 義務教育制度の意義 | 13 教育財政制度の役割と問題点 |
| 6 わが国の義務教育制度と問題点 | 14 教育行財政制度改革の動向と課題 |
| 7 社会教育制度の概要 | 15 定期試験 |
| 8 教育行政の理念・原則 | |

〔テキスト〕 田原恭三・林勲編著『教育概論（4訂版）』（法律文化社）

〔参考文献〕 赤尾勝己他『教育データブック』（時事通信社）

〔授業形態〕 講義・発表

〔成績評価の方法〕 定期試験 70％、平常点 30％

31007

教育課程総論

S / W 北岡宏章

⑩教育課程総論

〔概要〕 学校教育は目標や価値の実現を目指した意識的・目的的な活動である。その目標に即して子ども・青年を教授・学習指導するために、人類の文化遺産から選んだ教育内容を組織的・体系的に編成した教育計画を教育課程という。教育課程の本質や理論を述べ、学校における教育計画や教育課程の編成の仕方を具体的に考える。小学校教諭、中・高等学校教諭、養護教諭のそれぞれの立場における留意点を含めて論じる。

〔到達目標〕 学校教育で取り上げる教育内容の選択の仕方と教育課程としての編成の仕方について、理論的に理解を深めると同時に、自らも編成する能力を養う。学習指導要領についての理解を深め、重要なポイントを押さえて学習を指導できるようにする。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------|-----------------------------|
| 第1回 オリエンテーション | 第9回 学習指導要領と教科書 |
| 第2回 教育課程とは何か | 第10回 教科書と授業 |
| 第3回 現代の学校と教育課程 | 第11回 総合的な学習の時間 |
| 第4回 教育課程の編成主体 | 第12回 開かれた学校、教育課程 |
| 第5回 教育課程の構成と類型 | 第13回 教育課程と学力問題 |
| 第6回 教育課程の歴史と理論 | 第14回 ヒドゥンカリキュラム論、クロスカリキュラム論 |
| 第7回 教育課程と学習指導要領 | 第15回 定期試験 |
| 第8回 学習指導要領と教科書 | |

〔テキスト〕 『教育の原理』、林勲編、法律文化社（北岡）

〔参考文献〕 授業で指示

〔授業形態〕 講義・演習・対話・双方向授業

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、ミニレポート等平常点 40%

31008

教育の方法・技術

S / W 谷口政己

⑩教育の方法・技術

〔授業題目〕 教育現場で使える方法と技術

〔概要〕 教育の目標や理念は、教育課程によって構造化され、具体的な方法・技術によって実現される。本講義ではワークシートを利用して、教育方法・技術に関する基本的な知識を講義・演習する。

〔到達目標〕 ワークシートで示された知識および技術を理解し、それらを学校現場で活用するための基礎的な技術を習得する。

〔授業計画〕

- | | |
|---|---|
| 1 オリエンテーション。全体の講義の内容と進め方および評価について説明。 | 9 発問と板書の技術。発問と板書に関する総合的な技術とその理解。 |
| 2 教育内容と方法・技術。教育内容と方法・技術の概念規定と相互の関係。 | 10 系統学習と経験学習。2つの典型的な学習論と教育方法・技術との関係を分析。 |
| 3 教育技術とはなにか。学校や教室で使われる教育技術の内容を紹介。 | 11 授業研究の方法。学校で授業研究を行う場合の視点やねらいの研究。 |
| 4 教授と学習過程。授業は教授活動と学習活動を含むので、その具体的過程の分析。 | 12 教育内容（1）—入門期の国語指導。教育内容と方法・技術の関係を具体的に分析。 |
| 5 教授＝学習過程の理論。教材を使いながら2つの過程の役割を講義。 | 13 教育内容（2）—入門期の算数指導。教育内容と方法・技術の関係を具体的に分析。 |
| 6 授業の理論と実際。VTRで実際の授業を分析しながら、授業の枠組みから教材研究まで。 | 14 情報機器と授業。学校現場で用いられている情報機器の種類、使用方法、効果など。 |
| 7 教材選択と授業研究。国語教材を使って教材選択、分析を経て、学習指導案へ。 | 15 教育評価。学校で使用されている教育評価の方法と技術。 |
| 8 授業と教具としての視聴覚機器。教室で用いられている教具や機器の使用目的と操作。 | |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 林勲ほか編 『キーワードで読む教育学』（法律文化社） その他

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 定期試験（60%）、ワークシート・課題の提出、平常点（40%）

31009

道徳教育の研究

S / W 塩見能和

㊤道徳教育の研究

〔授業題目〕 道徳教育の指導法

〔概要〕 学校の道徳教育は全教育活動を通じて行うものである。そのためには心に響く教材の開発を行い、家庭や地域社会との連携や体験も重視して道徳性の育成を図らなければならない。その方策を考える。

〔到達目標〕 道徳教育の意義と必要性を理解し、学校における道徳教育の実践力をつける。

〔授業計画〕

- | | |
|--|---|
| <p>1 道徳教育は社会の変化の激しい中での「生きる力」を育む核である。道徳の概念を明らかにし、道徳教育の必要性について考える。</p> <p>2 いじめ、不登校等、現在の学校における人間関係や、子どもの実態について考察する。</p> <p>3 道徳教育を考えるに当たって、道徳教育の歴史について考察することは欠かせない。時代背景と道徳教育の流れについて学習する。</p> <p>4 道徳教育は全ての教育活動の中で行われなければならない。学習指導要領全体の体系を明らかにしながら、道徳教育の位置について考察する。</p> <p>5 道徳教育の全体計画、年間計画の立て方について学習し、具体的な場面を例示しながら、道徳の時間における「補充・深化・統合」の意義について考える。</p> <p>6 学習指導要領における「道徳の内容」の4つの視点について、児童生徒の発達段階を考慮しながら考察する。</p> <p>7 道徳教育を進めるために必要な資料や教材の種類とその内容について、実践事例もまじえて学習する。</p> <p>8 「心のノート」の作成過程やその内容について</p> | <p>学習し、児童生徒の発達段階や実態に合わせた活用方法について、活用事例をもとに考える。</p> <p>9 道徳の時間の指導案について必要項目とその主旨について学習し、実際の作成の演習をする。</p> <p>10 指導案にもとづいて道徳の授業の展開の学習をする。①</p> <p>11 指導案にもとづいて道徳の授業の展開の学習をする。②（ビデオ等の視聴する）</p> <p>12 他の教科の評価と道徳教育の評価の違いを考え、励ましや賞賛、反省や児童生徒同士の相互評価等、道徳教育の評価の実際の方法について学習する。</p> <p>13 キリスト教を中心とした西欧諸国の道徳教育と儒教やイスラム教、伝統文化等を中心とした東洋諸国の道徳教育の特色について考える。</p> <p>14 これからの道徳教育は家庭や地域社会との連携が欠かせない。ボランティア活動や地域活動、自然体験の事例を学習し、さらに地域の人々が参加した道徳の時間の在り方についても考える。</p> <p>15 定期試験</p> |
|--|---|

〔テキスト〕 プリント配布、文部科学省『学習指導要領「道徳」解説書』東洋館出版

〔参考文献〕 宇井治郎・吉澤良保編 「人間理解と道徳教育」

〔授業形態〕 講義・対話・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、ミニレポート等平常点 30%

31010

特別活動の研究

S 北岡宏章 中園大三郎

㊤特別活動の研究

〔概要〕 歴史的に「課外活動」ないし「教科外活動」として発展してきた特別活動は、戦後、児童・生徒の自治的・自発的活動を促進し、民主主義社会に相応しい市民を育てる、学校教育の重要な領域と考えられるようになったが、「生きる力」の育成を急務とする今日的状況の下、その重要性はますます高まっている。本講義では、特別活動の歴史、理論、実践方法を解説するが、方法としては集団指導に重点を置き、実践方法では、小学校教諭、中・高等学校教諭、養護教諭のそれぞれの立場における留意点も含めて論じる。

〔到達目標〕 特別活動の学校教育における意義を十分に理解し、特に、集団として活動させることの必要性と重要性を理解し、自ら創意工夫して、豊かな特別活動を具体的に計画し実施していけるだけの意欲と能力を養う。

〔授業計画〕

- | | | |
|---|---|--|
| <p>1 特別活動の変遷（戦前）</p> <p>2 特別活動の変遷（戦後）</p> <p>3 特別活動の目標</p> <p>4 集団の特質</p> <p>5 個人と集団の関係</p> | <p>6 集団の指導</p> <p>7 学級活動（1）</p> <p>8 学級活動（2）</p> <p>9 児童・生徒会活動（1）</p> <p>10 児童・生徒会活動（2）</p> | <p>11 クラブ活動</p> <p>12 学校行事（1）</p> <p>13 学校行事（2）</p> <p>14 指導計画の作成</p> <p>15 定期試験</p> |
|---|---|--|

〔テキスト〕 山崎英則 南本長穂編著、『新しい特別活動の原理』、ミネルヴァ書房（近刊）

〔参考文献〕

〔授業形態〕 講義・対話・討論・双方向授業

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、平常点 30%

31021

生徒指導論（進路指導を含む）

W 林 勲 奥 始

⑩生徒指導論（進路指導含む）

〔授業題目〕 生徒指導の意義と課題

〔概要〕 生徒指導の意義と目的、生徒指導の原理、生徒指導の組織、生徒理解、教育相談、進路指導など生徒指導・進路指導の基礎的・基本的事項について講述するとともに、“いじめ”・不登校、懲戒と体罰など生徒指導上の諸問題を取り上げ、研究協議を行う。

〔到達目標〕 生徒指導は積極的にすべての生徒のそれぞれの人格のよりよき発達を目指すとともに、学校生活が有意義に興味深く、充実したものになるようにすることを目指す総合的な活動であることを理解し、実践できるようにすること。

〔授業計画〕

- | | | |
|--------------|-------------|------------|
| 1 生徒指導の意義と歴史 | 6 児童生徒理解 | 11 出席停止 |
| 2 生徒指導の目的 | 7 教育相談 | 12 “いじめ” |
| 3 生徒指導の原理 | 8 進路指導 | 13 不登校 |
| 4 生徒指導の組織と職務 | 9 懲戒の種類と手続き | 14 生徒指導の課題 |
| 5 規律指導 | 10 体罰の禁止 | 15 定期試験 |

〔テキスト〕 林勲編著『教育の原理（2訂版）』（法律文化社）

〔参考文献〕 文部省『生徒指導の手引（改訂版）』

〔授業形態〕 講義・発表

〔成績評価の方法〕 定期試験 90 %、平常点 10 %

31022

教育相談の理論と方法

S / W 茂木 洋

⑩スクールカウンセリング

〔概要〕 教育相談の理念と実際について講義する。学校において相談活動を行う意義と課題や、学校現場で遭遇する臨床的諸問題、教育相談の理論と技法、関係する他機関・他職種との連携等のテーマについて、解説していく。

〔到達目標〕 教員として児童・生徒への深い理解や適切なかわり方を実現し、スクールカウンセラーや関係専門機関との連携を円滑に行うために必要な、教育相談の意義や理論・技法に関する基礎的な知識を持つことを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------|---------------------------|
| 1 学校における相談とは何か | 9 児童・生徒の発達と援助の実際 |
| 2 “問題行動”のとりえ方 | 10 学校での援助活動の工夫 |
| 3 臨床的問題と実践①いじめ | 11 保護者・教員・スクールカウンセラー等の関わり |
| 4 臨床的問題と実践②不登校 | 12 関係機関との連携 |
| 5 臨床的問題と実践③軽度発達障害 | 13 教育相談の留意点 |
| 6 臨床的問題と実践④児童虐待 | 14 子どもたちの話をいかに聞くか |
| 7 教育相談の理論 | 15 定期試験 |
| 8 教育相談の技法 | |

〔テキスト〕 特に指定しない。適宜プリントを配布する。

〔参考文献〕 適宜授業内で紹介する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 100 %

31023

総合演習（3人ローテーション）

S

北岡宏章 山本 誠 松岡 弘

⑩総合演習（3人ローテーション）

〔授業科目〕 国際理解・異文化理解と保健・安全教育

〔概要〕 本演習では、現代の世界が直面する重要な諸問題（国際化、少子高齢化と福祉、健康問題、文化交流など）をテーマに取り上げ、参加者には、調査・資料収集、収集した情報の精選および分析、諸結果の総合的な考察と結論としての集約化、研究結果の効果的な発表方法などを、自ら工夫しながら体験的に習得させ、教員としての問題解決能力を向上させることに努める。また同時に、児童・生徒にもそうした力の基礎を育成するにはどのように工夫すべきかを考えさせる。本演習は3人の教員のオムニバス形式で進める。小学校教諭、中・高等学校教諭、養護教諭のそれぞれの立場における留意点を含めて論じる。

〔到達目標〕 世界が直面し、解決が必要とされている諸問題について、学生自身の認識を深めると同時に、そうした問題に関する情報を収集し、調査・研究を進め、発表形式にも習熟することで、児童・生徒に問題解決学習を指導し、調査研究方法とプレゼンテーション能力を育てる具体的な方法を習得させる。

〔授業計画〕

- | | | |
|---------------|------------------|------------------|
| 1 オリエンテーション | 6 異文化への誘い | 11 性・エイズ教育と方法（2） |
| 2 国際理解教育と国際教育 | 7 異文化への構え方 | 12 安全教育と方法（1） |
| 3 地球温暖化 | 8 異文化を知る（1） | 13 安全教育と方法（2） |
| 4 世界の水不足 | 9 異文化を知る（2） | 14 指導計画の作成 |
| 5 難民問題 | 10 性・エイズ教育と方法（1） | 15 定期試験 |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 授業で指示。

〔授業形態〕 講義・演習・実習・発表

〔成績評価の方法〕 定期試験 80 %、平常点 20 %

31023

総合演習（3人ローテーション）

W

戸田文明 石上浩美 松岡 弘

⑩総合演習（3人ローテーション）

〔概要〕 人類に共通する問題や我が国の社会全体にかかわる問題をめぐって、専門を異にする3人の教員がローテーション形式で授業を担当する。具体的には、教育学を専門とする松岡はエイズ問題や安全教育を扱い、心理学を専門とする大西は思考をテーマとして取り上げ、日本史を専門とする戸田は日本史上の人物をテーマとして取り上げる。

〔到達目標〕 現代はきわめて変化の激しい時代であると同時に、価値観の多様化した時代である。児童生徒にとって、絶えず自己の置かれた社会と自己自身を見つめ直す能力が必要とされる時代であるともいえよう。この演習は、こうした時代の要請に応えるべく、具体的テーマを通し、受講生の視野を拡大し、自己を社会の中でとらえ直す力を培うことを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1 オリエンテーション 松岡・大西・戸田 | 9 批判的思考（2） 大西 |
| 2 性・エイズ教育指導の方法（1） 松岡 | 10 歴史的な考え方 戸田 |
| 3 性・エイズ教育指導の方法（2） 松岡 | 11 日本史上の人物（1） 戸田 |
| 4 安全教育の方法（1） 松岡 | 12 日本史上の人物（2） 戸田 |
| 5 安全教育の方法（2） 松岡 | 13 日本史上の人物（3） 戸田 |
| 6 人間の思考 大西 | 14 まとめ 松岡・大西 |
| 7 思考のエラー 大西 | 15 まとめ 戸田 |
| 8 批判的思考（1） 大西 | |

〔テキスト・参考文献〕 テキストはプリントを中心とし、参考文献などについては適宜指導する。

〔参考文献〕

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 受講生の発表・小テスト 100 %

31024

発達心理学

S 八木成和

⑩発達心理学

〔授業題目〕 発達心理学

〔概要〕 子どもの知的発達や情緒発達を心理学の観点から取り上げる。時間軸にそって人間を理解する上で基礎となる視点を身につけていただきたい。主として乳幼児期から児童期までの発達過程について検討する。本講義の内容は、小学校教員採用試験の試験範囲にも含まれる。

〔到達目標〕 主として乳幼児期から児童期にかけての発達の過程、メカニズムについて理解できることを目標とする。

〔授業計画〕

- | | | |
|-------------|----------------|-----------------|
| 1 発達の定義と考え方 | 6 知能の発達とLD | 11 思いやり行動と道徳性 |
| 2 運動能力の発達 | 7 数概念の発達 | 12 「自分」の発達 |
| 3 認知能力の発達 | 8 子どもの遊びの発達 | 13 ADHDの特徴と対応 |
| 4 ことばの発達 | 9 親子関係と愛着の形成 | 14 高機能自閉症の特徴と対応 |
| 5 情動の機能と発達 | 10 仲間関係と社会性の形成 | 15 定期試験 |

〔テキスト〕 本郷一夫編「シードブック 発達心理学」建帛社

〔参考文献〕 本郷一夫・八木成和（編）「シードブック教育心理学」建帛社 2008年

〔授業形態〕 講義・その他（視聴覚教材を使用）

〔成績評価の方法〕 定期試験80%、出席等平常点20%

31026

日本語表現

W 高橋美奈子

〔授業題目〕 日本語表現力を磨く

〔概要〕 現代文法、文・発話の構造、文章・談話の組立て、読み手・聞き手意識、視点、コミュニケーション論等について学ぶ。また、論理的文章や文書の作成、プレゼンテーション等の実践を行う。

〔到達目標〕 言語表現論の原理的考察をするとともに、言語表現の実践を通して、教育に携わる者としての日本語表現能力を培う。

〔授業計画〕

- | | | |
|----------------|-------------|---------------|
| 1 Introduction | 6 文章の組立て2 | 11 発表準備 |
| 2 レポートの形 | 7 パラグラフを作る | 12 口頭発表1 |
| 3 構想、調査 | 8 論述 | 13 口頭発表2 |
| 4 テーマの絞込み | 9 引用 | 14 学んだことを振り返る |
| 5 文章の組立て1 | 10 文章・表現の点検 | |

〔テキスト〕 大島弥生他『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』ひつじ書房

〔参考文献〕 適宜指示する。

〔授業形態〕 講義・演習・対話・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験に代わるレポート60%、課題等平常点40%

31026

日本語表現

W 船所武志

〔概要〕 言語表現論の原理的考察をするとともに、言語表現の実践を通して、教育に携わる者としての日本語表現能力を培うことを目標とする。現代文法の理解、語彙の選択、文・発話の構造、文章・談話の組立て、語り手の視点、読み手・聞き手意識、待遇表現、コミュニケーション論やプレゼンテーションなどの内容を取り上げる。講義・演習を中心とするが、受講者相互のコミュニケーション能力の開発を図る授業を展開する。

〔到達目標〕 実用的文章や論理的文章の作成法に加えて、校正や添削指導の方法なども習得できるようにする。

〔授業計画〕

- | | | |
|-----------|--------------|----------------|
| 1 日本語の特色 | 6 敬語 | 11 原稿用紙の使い方 |
| 2 主語をめぐって | 7 仮名と漢字の使い分け | 12 評論文の作成 |
| 3 文末の工夫 | 8 文章表現とことば遊び | 13 手紙と事務文書 |
| 4 接続の方法 | 9 表現の工夫 | 14 挨拶・スピーチのことば |
| 5 句読点 | 10 要約の方法 | |

〔テキスト〕 吉村稠他編『新訂 日本語と表現の工夫』（双文社出版）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 定期試験に替わるレポート60%、平常点（提出物等）40%

31027

学校インターンシップ実践研究

S / W 塩見能和 植田義幸 今井 進 坂口 豊 富岡 玲

〔概要〕 この科目は、近隣の学校でインターンシップ体験を行う。事前指導と事後指導を通して自らの体験を整理し、インターンシップ後の報告会によって、各人の体験を共有する。

〔到達目標〕 学校インターンシップ活動を行い、教員の職務や学校の仕組み等について理解する。また、教職への志向を高める。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1 事前指導 (1) 学校現場の基礎知識 | 4 事前指導 (4) 教育委員会講師による研修 |
| 2 事前指導 (2) マナー講座 | 5 事前指導 (5) 受入校訪問・説明 |
| 3 事前指導 (3) 教員の心得・受入校の通知 | 6 事後指導 報告会 |

〔テキスト〕 なし

〔参考文献〕 適宜指示する。

〔授業形態〕 講義・実習

〔成績評価の方法〕 平常点 70 %、提出物・報告会等の評価 30 %

31030

国語（書写を含む）

S 船所武志

㊤国語（書写を含む）

〔概要〕 小学校国語科の基礎的・基本的な指導内容について、学習指導要領・国語科編の内容をふまえて解説する。指導方法については、現行の言語事項を中心に具体的に解説するとともに、新指導要領にも配慮する。書写指導のポイントについても、実技を取り入れながら詳述する。

〔到達目標〕 現行ならびに新・学習指導要領の内容が理解できるようにする。「話す・聞く」「書く」「読む」内容の重要な事項を中心に、可能な限り実践的に理解が深まるようにする。書写指導については、実習を取り入れ、書写力の向上を図る。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------------|-----------------|
| 1 現行ならびに新・学習指導要領の内容解説 | 8 日本語の文字と書写の実習 |
| 2 学習指導要領の変遷と現在の国語科教育の課題 | 9 日本語の文字と書写の実習 |
| 3 学習指導要領の内容「話す・聞く」について | 10 日本語の語彙と書写の実習 |
| 4 学習指導要領の内容「書く」について | 11 日本語の語彙と書写の実習 |
| 5 学習指導要領の内容「読む」について | 12 日本語の文法と書写の実習 |
| 6 学習指導要領の内容〔言語事項〕について | 13 日本語の文法と書写の実習 |
| 7 日本語の音声・音韻 | 14 日本語の文章と書写の実習 |
| | 15 定期試験 |

〔テキスト〕 文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』（東洋館出版社、平成20年8月発行）ほか適宜紹介する。

〔参考文献〕 小学校 国語科教科書

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 60 %、レポート等提出物 40 %

31030

国語（書写を含む）

S / W 今井 進 坂口 豊

㊤国語（書写を含む）

〔授業題目〕 国語科の基礎と書写

〔概要〕 小学校国語科の基礎的・基本的な指導内容について解説する。指導方法については国語の特質に関する事項を中心に具体的に解説するとともに、書写指導のポイントについても実技を取り入れながら詳述する。

〔到達目標〕 学習指導要領の内容が理解できるようにする。書写力（毛筆を含む）の向上をめざす。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------------------------|--------------------------|
| 1 各人が小学校時代に受けた印象的な国語の授業を振り返り、作文にする。 | 7 書写の実習（1学年） |
| 2 漢字の部首を理解する。 | 8 書写の実習（2学年） |
| 3 誤り易い漢字を理解する。 | 9 書写の実習「毛筆」を中心に行う。（3学年） |
| 4 慣用句・ことわざを理解する。 | 10 書写の実習「毛筆」を中心に行う。（4学年） |
| 5 平仮名・片仮名の字源を知り、整った形の文字が書けるようになる。 | 11 書写の実習「毛筆」を中心に行う。（5学年） |
| 6 入門期の言語事項、特に長音の仮名遣いについて解説する。 | 12 書写の実習「毛筆」を中心に行う。（6学年） |
| | 13 学習指導要領の内容を理解する（1） |
| | 14 学習指導要領の内容を理解する（2） |
| | 15 定期試験 |

〔テキスト〕 文部科学省編著『小学校学習指導要領解説国語編』（東洋館出版社）

〔参考文献〕 小学校国語教科書

〔授業形態〕 講義・実習

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、平常点 30 %

31041

社会

S / W 谷本 哲郎

㊤社会

〔授業題目〕 教育観、人生観の再構築のために

〔概要〕 各テーマに添った評論及び新聞記事を基に、その本質を理解し、多角的なもの見方、考え方を養い、意見発表をすることによって、社会科教育の基本精神を鍛え、自分自身の生き方をも考察する。

〔到達目標〕 借り物でない自分自身の考え方ができるか。それにより教育現場に立てる自信を得るか。

〔授業計画〕

- | | | |
|---------------|-------------|--------------|
| 1 学ぶ喜び、教える楽しみ | 6 矛盾を引き受ける | 11 「私」とは何ものか |
| 2 常識を疑う | 7 発想をしばるもの | 12 命をいとおしむ |
| 3 異郷の発見 | 8 拒絶の勇氣 | 13 私の流儀 |
| 4 違いにこだわる | 9 生き方をみちびく力 | 14 明日を問う |
| 5 作るよろこび | 10 思考するまなざし | 15 定期試験 |

〔テキスト〕 事前にプリント資料を配布する。

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義・発表・対話

〔成績評価の方法〕 定期試験 60 %、発表等平常点 40 %

31041

社会

S / W 中本和彦

㊤社会

〔授業題目〕 社会のわかり方と社会科授業

〔概要〕 この授業は、社会科教育に必要な社会的事象についての多面的・多角的なもの見方、考え方、自己の社会認識の仕方について、社会的事象を取り扱ったテレビ番組、授業理論に基づいた授業実践例などを具体的に分析することを通して理解、再認識する。

〔到達目標〕 ①社会のわかり方について理解している。②社会のわかり方と社会科の授業理論との関係について理解している。③社会科の授業実践を分析することができる。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------------|-----------------------------|
| 1 社会のわかり方と社会科の授業理論（1） | 9 「問題解決」に基づく授業理論と授業実践分析（1） |
| 2 テレビ番組にみる社会のわかり方（1） | 10 「問題解決」に基づく授業理論と授業実践分析（2） |
| 3 「理解」に基づく授業理論と授業実践分析（1） | 11 テレビ番組にみる社会のわかり方（4） |
| 4 「理解」に基づく授業理論と授業実践分析（2） | 12 「社会参加」に基づく授業理論と授業実践分析（1） |
| 5 テレビ番組にみる社会のわかり方（2） | 13 「社会参加」に基づく授業理論と授業実践分析（2） |
| 6 「説明」に基づく授業理論と授業実践分析（1） | 14 社会のわかり方と社会科の授業理論（2） |
| 7 「説明」に基づく授業理論と授業実践分析（2） | 15 定期試験 |
| 8 テレビ番組にみる社会のわかり方（3） | |

〔テキスト〕 授業毎に資料プリント等を配布する

〔参考文献〕 棚橋健治『社会科の授業診断—よい授業に潜む危うさ研究—』明治図書

〔授業形態〕 講義・演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験 50 %、レポート等平常点 50 %

31042

算数

S / W 川口隆雄

⑩算数

〔授業題目〕算数科内容の理解

〔概要〕これまでに学習してきた数学を基にして、小学校算数科の4つの領域（数と計算・図形・量と測定・数量関係）に関連した数学的内容を解説するとともに数学的な話題を幅広く取り入れる。講義と演習で、知識だけでなく実際に演習問題を解くことによってより深く理解できるよう配慮する。

〔到達目標〕受講者が小学校教師として算数教育に携わるとき必要になる数学的能力を養いさらに基礎となる数学的背景を理解することを目標とする。

〔授業計画〕

1 算数科指導内容	6 分数・小数	11 図形と定理 2
2 数の概念	7 量と測定（単位）	12 図形の話
3 記数法	8 量と測定	13 数量関係（関数・式）
4 四則計算の導入	9 平面図形	14 数量関係（統計）
5 筆算、整数の性質	10 図形と定理 1	15 定期試験

〔テキスト〕プリントを配布する。

〔参考文献〕文部科学省「小学校学習指導要領解説」算数編，東洋館，2008

クーラント，ロビンス，森口繁一 監訳「数学とは何か」原書第2版，岩波書店，2001

〔授業形態〕講義・演習

〔成績評価の方法〕定期試験 60 %、平常点 40 %

31043

理科（3人でリレー）

S / W 蓮間忠芳 羽多野隆美 宮永健史

⑩理科（3人でリレー）

〔授業題目〕理科の基礎的知識の習得と思考能力の育成

〔概要〕自然科学の物理、化学、生物、地学の各領域で、生物と環境、物質とエネルギー、地球と宇宙などの基礎的諸現象について、それぞれの事象の内容、性質、規則性などを身近な話題や最近の話題を含めて講義を通して紹介するとともに、計画的な実験、観察を通してその方法、客観的な思考方法などを養う。また、物事を科学的に考え処理する能力を育成する。

〔到達目標〕自然科学の各分野における諸現象について身近な話題や最近の話題を含めて講義と実験を通してその基礎的内容を理解、習得する。また、自らが積極的、計画的に実験、観察を行うことにより、客観的な結論を導く資質や能力の育成し、自然科学的な筋道だった考え方ができるようにする。

〔授業計画〕

1 自然科学的思考方法	8 物質の溶け方と水溶液の性質
2 自然科学的な疑問の解決方法と報告書の作成	9 燃焼と炎色反応
3 生物実験の器具、器械の使用法	10 電気、磁石、電磁石の実験と教材作成
4 生き物の生活	11 ふりこの運動の実験
5 植物のからだのしくみ	12 力学の基礎（てこと天秤を中心に）
6 アルコールランプ、ガスバーナーなどの加熱器具等の使用方法	13 熱、温度、光に関する実験と教材作成
7 物質の量のしかた。重さと体積	14 身近な物を使った実験と教材作成
	15 定期試験

〔テキスト〕講義や実験の際に印刷資料を配布する。

〔参考文献〕講義や実験の際に随時、紹介する。

〔授業形態〕講義・実習・実験

〔成績評価の方法〕定期試験 80 %、レポート、小テスト、受講中の態度等 20 %

31044

生活

S 奥始 丹羽孝昭

㊦生活

〔授業題目〕生活科の目標と指導内容

〔概要〕まず、これからの小学校教育と生活科誕生の経緯を取り上げ生活科の意義を明らかにする。次に、生活科の目標や目指す子ども像、基本的な指導内容について『小学校学習指導要領・生活編』を踏まえて解説する。また、「総合的な学習の時間」を取り上げ、生活科との関連について考察する。講義方法については、常に生活科の授業の実践例を取り上げ、具体的に詳述していく。

〔到達目標〕生活科の意義や目標、目指す子ども像についての理解を図るとともに、生活科の指導内容についての認識を深め、生活科に対する識見を高める。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------------------|----------------------------|
| 1 「生きる力」とこれからの小学校教育 | 共施設の利用 |
| 2 生活科の誕生とその意義 | 9 指導内容(5) 季節の変化と生活 |
| 3 教科目標と生活科が目指す子ども像 | 10 指導内容(6) 自然物や物を使った遊び |
| 4 学年の目標(1) ① 身近な人々と社会のかわりについて | 11 指導内容(7) 動植物の飼育・栽培 |
| 5 学年の目標(2) ② 自然とのかかわり ③ 表現活動について | 12 指導内容(8) 生活や出来事の交流 |
| 6 指導内容(1) 学校と生活 | 13 指導内容(9) 自分の成長 |
| 7 指導内容(2) 家庭と生活 | 14 生活科と「総合的な学習の時間」との関連について |
| 8 指導内容(3) 地域と生活、(4) 公共物や公 | 15 定期試験 |

〔テキスト〕文部科学省編『小学校学習指導要領解説・生活編』(日文出版)奥始著『生活科教育法』(ゼロックスドキュメンタリーセンター)

〔参考文献〕講義中適宜紹介

〔授業形態〕講義・演習

〔成績評価の方法〕次の事項に基づく総合評価 (1) 定期試験 80% (2) 課題提出物等 平常点 20%

31045

音楽

W 石田陽子 恒川裕子

㊦音楽

〔授業題目〕音楽に対する感性と知識を豊かにする

〔概要〕音楽科教材研究を効果的にすすめる予備的科目として、初等科音楽教材で扱われる内容に関する基礎的知識、すなわち、西洋音楽、日本音楽および民族音楽の歴史的背景、諸様式や音楽構造、楽器学、サウンドスケープ理論などを概説するとともに、鑑賞を通して音体験を深める。同時に、声楽実習およびリコーダーやキーボードなどの楽器実習指導も行なうので受講生は自主的かつ継続的な実技練習が求められる。なお、知識の定着と演奏能力確認のための小テストや実技テストも適宜実施する。

〔到達目標〕音楽に関する基礎的かつ幅広い知識の習得と鑑賞、実技演習を通して、教育現場において教科目標を実現するための適切な教材の選択や指導ができるための基礎的能力を育てる。

〔授業計画〕

- | | |
|---|--|
| 1 オリエンテーション「音楽がわかるとは？」
読譜力確認のための復習と小テスト | リングなど基礎的技法を学ぶ |
| 2 歌をうたう：発声法の基礎と歌唱法、世界の声を聴く | 9 リコーダー実習(2)：音楽的表現をめざして——アーティキュレーションを考える |
| 3 歌唱表現を工夫しよう | 10 リコーダー実習(3)：アンサンブルの試み——二重奏、三重奏をしよう |
| 4 実技テスト①：独唱 | 11 実技テスト②：リコーダー独奏 |
| 5 楽器の種類とその奏法(1)：西洋音楽の楽器紹介と打楽器によるアンサンブル実習 | 12 サウンドスケープ入門(1)：身の回りの音を集める |
| 6 楽器の種類とその奏法(2)：諸民族の楽器紹介とラテン系打楽器によるアンサンブル実習 | 13 サウンドスケープ入門(2)：自然からのイメージを音楽にする |
| 7 多様な響きを聴く：西洋音楽・日本音楽・諸民族の音楽を比較する | 14 実技テスト③：キーボードによる伴奏 |
| 8 リコーダー実習(1)：タンギング、フィンガ | 15 定期試験(筆記試験) |

〔テキスト〕初等科音楽教育研究会編、『初等科音楽教育法』、音楽之友社

〔参考文献〕授業時に授業内容に関する自作の補助プリントを適宜配布する。

〔授業形態〕講義・実習・発表・双方向授業・実技テストを含む

〔成績評価の方法〕定期試験 50%、実技テスト 30%、平常点(小テストを含む) 20%

31046

音楽理論

S 石田陽子

⑩音楽理論

〔授業題目〕 音楽の実践能力をつける

〔概要〕 音楽を理解し実践するためには、まず、音楽を構成している様々な要素と、その構成原理（理論）を知らなければならない。授業では、主に西洋音楽理論を扱うことになるが、単に知識として理論を学ぶのではなく、将来、教育現場でその知識を活用できるように、初見演奏、簡易伴奏付け、アレンジなどの実践に役立つ理論と技術の習得をめざす。なお、読譜力を確実なものとするため、授業では、毎回キーボード実習も並行して行なう。

〔到達目標〕 主として西洋音楽理論の習得を通して読譜力を確実なものとし、知識を教育現場で活用するための応用力、すなわち初見演奏、簡易伴奏付け、アレンジなど音楽指導の基礎となる実践能力を身につけることを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------------|---------------------------|
| 1 五線譜の規則：五線、加線、音部記号、譜表、音名と階名 | 8 様々なコードとコードネーム（1） |
| 2 音符・休符：音符、休符の種類と長さ | 9 様々なコードとコードネーム（2） |
| 3 拍・拍子・リズム | 10 いろいろなコード進行：ハーモニー（和声）の話 |
| 4 音程について：全音と半音、完全・長・短音程 | 11 コードを読み取る、コードをつける |
| 5 音階の構造：長音階と短音階の原理 | 12 アレンジの実習（1）：伴奏形の研究 |
| 6 調性と調号について（移調と転調を含む） | 13 アレンジの実習（2）：ピアノ伴奏を作る |
| 7 和音（コード）とは何か？ | 14 発表会：自作曲を演奏しよう |
| | 15 定期試験（筆記試験） |

〔テキスト〕 橋本晃一編、『初心者入門シリーズ：12楽譜の見方早わかり』、ドレミ楽譜出版社

〔参考文献〕 使用テキストの内容を補うためのプリントを適宜作成し配布する。

〔授業形態〕 講義・実習・実技テストを含む

〔成績評価の方法〕 定期試験 60%、実技試験 20%、小テストおよび平常点 20%

31047

図画工作

S / W 村田夕紀

⑩図画工作

〔授業題目〕 表現技法の基本を実技中心に学ぶ

〔概要〕 小学校学習指導要領・図画工作の内容は、A 表現（1）楽しい造形活動をすること、A 表現（2）絵や立体・工作に表すこと、そして B 鑑賞（1）関心をもって見ることである。低学年（第1学年・第2学年）の学年目標は「並べる、つなぐ、積むなど、体全体を働かせて造形遊びをすること」で満ちし、中学年（第3学年・第4学年）の目標は「組み合わせる、切ってつなぐ、形をかえてつくる」に発展し、さらにそれは高学年（第5学年・第6学年）の目標「材料や場所などに進んでかかわり合いそれらをもとに構成したり、つくる物と周囲の様子を考え合わせて表したりしながら造形遊びをすること」に発展するのである。以上を順次組み込んで材料を選び実技し、鑑賞部分はビデオを見せ講義する。その他授業の中で色の三属性やデザイン的な美術の常識なども講義する。授業の形式は実技主体に進める。

〔到達目標〕 小学校新学習指導要領・図画工作の低学年・中学年・高学年の指導目標と内容の理解であり主たる平面技法を生かした工作実技をマスターすることが目標で、まず実習現場で各学年の実技が指導できること、さらにその内容や美術の常識や技術が採用試験に役立つことが望ましく、やがて、採用後の現場授業指導に大きく役立つことが本来の目標である。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 1 世界の美術教育・日本の美術教育の流れについて | 8 第3・4学年〈造形遊び〉版表現 |
| 2 学習指導要領に示す基礎・基本と学習指導の工夫について | 9 第3・4学年〈造形遊び〉版表現 |
| 3 第1・2学年〈造形遊び〉平面技法を使って | 10 第3・4学年〈造形遊び〉絵具を使って |
| 4 第1・2学年〈造形遊び〉平面技法を使って | 11 第3・4学年〈絵立体〉ダンボールを使って |
| 5 第1・2学年〈絵立体〉紙を使った立体表現 | 12 第3・4学年〈鑑賞〉季節の移り変わり・・・ |
| 6 第1・2学年〈絵立体〉紙を使った立体表現 | 13 第5・6学年〈造形遊び〉フォトコラージュ |
| 7 第1・2学年〈鑑賞〉友達作品を見て・・・ | 14 第5・6学年〈絵立体〉自然物を使って |
| | 15 第5・6学年〈鑑賞〉ビデオを見て・・・ |

〔テキスト〕 文部科学省著『小学校学習指導要領解説 図画工作編』（日本文教出版）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 実技作品 70%、平常点 30%

31047

図画工作

S / W 黒田紀久子

㊦ 図画工作

〔授業題目〕 表現技法の基本を実技中心に学ぶ

〔概要〕 小学校新学習指導要領・図画工作の「感性を働かせながらつくりだす喜びを味わう」という目標を中心に A 表現 (1) 楽しい造形活動をすること、A 表現 (2) 絵や立体・工作に表すこと、そして B 鑑賞 (1) 関心をもって見ることである。低学年 (第1学年・第2学年) の学年目標は「並べる、つなぐ、積むなど、体全体を働かせて造形遊びをすること」で満ち、中学年 (第3学年、第4学年) の目標は「組み合わせる、切ってつなぐ、形をかえてつくる」に発展し、さらにそれは高学年 (第5学年、第6学年) の目標「材料や場所などに進んでかかわり合いそれらをもとに構成したり、つくる物と周囲の様子を考え合わせて表したりしながら造形遊びをすること」に発展するのである。以上を順次組み込んで材料を選び実技し、鑑賞部分はビデオを見せ講義する。その他授業の中で色の三属性やデザイン的な美術の常識なども講義する。授業の形式は実技主体に進める。

〔到達目標〕 小学校新学習指導要領・図画工作の低学年・中学年・高学年の指導目標と内容の理解であり主たる平面技法を生かした工作実技をマスターすることが目標で、まず実習現場で各学年の実技が指導できること、さらにその内容や美術の常識や技術が採用試験に役立つことが望ましく、やがて、採用後の現場授業指導に大きく役立つことが本来の目標である。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 1 世界の美術教育・日本の美術教育の流れについて | 8 第3・4学年<造形遊び>版表現 |
| 2 学習指導要領に示す基礎・基本と学習指導の工夫について | 9 第3・4学年<造形遊び>版表現 |
| 3 第1・2学年<造形遊び>平面技法を使って | 10 第3・4学年<造形遊び>絵具を使って |
| 4 第1・2学年<造形遊び>平面技法を使って | 11 第3・4学年<絵立体>ダンボールを使って |
| 5 第1・2学年<絵立体>紙を使った立体表現 | 12 第3・4学年<鑑賞>季節の移り変わり・・・ |
| 6 第1・2学年<絵立体>紙を使った立体表現 | 13 第5・6学年<造形遊び>フォトコラージュ |
| 7 第1・2学年<鑑賞>友達の作品を見て・・・ | 14 第5・6学年<絵立体>自然物を使って |
| | 15 第5・6学年<鑑賞>ビデオを見て・・・ |

〔テキスト〕 文部科学省著『小学校学習指導要領・図画工作編』(日本文教出版 K.K)

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 実技70%、平常点30%

31048

美術理論

S 富岡 玲

㊦ 美術理論

〔概要〕 単に知識として理論を学ぶのではなく、教育現場での応用も視野に入れ、実践に役立つ講義と実習を行う。乳児から幼児へ、幼児から小学生につながる子どもの造形表現の発達を理解し、それを援助していきけるような教育者としての基礎をつくる。

〔到達目標〕 子どもの造形表現の発達を軸に、造形教育の理念と理解を図る。また、そのために必要な基礎的な知識を習得する。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------------------|---------------|
| 1 造形表現の目的と理念 | 8 鑑賞 (表現の多様性) |
| 2 造形表現の内容 | 9 色彩に関する基礎知識 |
| 3 描画の発達段階と幼児画の特徴 | 10 色彩理論に基づく演習 |
| 4 幼児画の理解 | 11 平面表現 |
| 5 小学校へと続く子どもの造形表現の発達 (乳児から幼児へ) | 12 平面表現 |
| 6 小学校へと続く子どもの造形表現の発達 (幼児から小学校へ) | 13 立体表現 |
| 7 鑑賞 (日本の美術と世界の美術) | 14 立体表現 |
| | 15 定期試験 |

〔テキスト〕 ①花篤 實・岡田愨吾 編著『造形表現 理論・実践編』三晃書房

②財団法人 日本色彩研究所 監修『色彩 造形のたのしさ』日本色研事業株式会社

〔参考文献〕 『美術の表現と鑑賞』(秀学社)

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 定期試験50%、演習作品(提出物)及び平常点50%

31049

家庭

W 鈴木洋子

㊦家庭

〔授業題目〕 小学校家庭科の指導内容

〔概要〕 基礎的基本的な指導内容（家庭生活と家族・日常の食事と調理の基礎・快適な衣服と住まい・身近な消費生活と環境）を、新学習指導要領をふまえて概説する。

〔到達目標〕 小学校家庭科の指導に必要な知識を習得する。家族・家庭の意義、家庭と社会とのかかわりを理解し、自己の生活改善意識を高める。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| 第1回 ガイダンス | 野菜) |
| 第2回 現行及び新学習指導要領による教育課程 | 第10回 食生活の学習（食品加工と表示・調理用具の扱い） |
| 第3回 家庭科教育の変遷と目標・授業設計と特徴 | 第11回 住生活の学習（機能・環境） |
| 第4回 衣生活の学習（着用目的・機能） | 第12回 家庭生活と家族（家族・家事労働・ジェンダー） |
| 第5回 衣生活の学習（衣服素材の性能） | 第13回 家庭科と消費者教育 |
| 第6回 衣生活の学習（洗濯・管理） | 第14回 家庭科と生活文化 |
| 第7回 食生活の学習（食育と家庭科） | 第15回 定期試験 |
| 第8回 食生活の学習（栄養と栄養素・食品群・献立作成） | |
| 第9回 食生活の学習（食品の調理性・米・卵・緑黄色 | |

〔テキスト〕 鈴木洋子編『初等家庭科教育法ワークブック』、櫻井純子他著『わたしたちの家庭科5・6年』（開隆堂）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、平常点 30%

31049

家庭

W 田中暎子

㊦家庭

〔授業題目〕 小学校家庭科の概説

〔概要〕 小学校家庭科の目標と内容、教育的意義を認識し、家庭科の指導者として必要な専門知識を深めるとともに、小学校家庭科で取り扱う内容について学習指導要領の理解と教科書分析を行うことにより、授業に対する実践力を養う。

〔到達目標〕 家庭科の指導者として必要な専門知識を深め、学習指導要領の理解と教科書分析を行うことにより、授業に対する実践力を身に付ける。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1 家庭科の目標および内容 | 9 食生活（2） 食品の分類 |
| 2 家庭生活（1） 家庭の機能 | 10 食生活（3） 食事の計画 |
| 3 家庭生活（2） 家族関係 | 11 住生活（1） 住まいの管理 |
| 4 家庭生活（3） 地域社会と環境問題 | 12 住生活（2） 住まいの快適性 |
| 5 衣生活（1） 被服の材料 | 13 計画的な生活（1） 生活時間 |
| 6 衣生活（2） 被服の機能 | 14 計画的な生活（2） 消費生活 |
| 7 衣生活（3） 被服の管理 | 15 定期試験 |
| 8 食生活（1） 栄養素とその働き | |

〔テキスト〕 プリント配布

〔参考文献〕 櫻井純子代表『小学校家庭5・6「私たちの家庭科」』（開隆堂出版）、文部科学省編『小学校学習指導要領解説 家庭編』（東洋館出版社）

〔授業形態〕 講義中心（必要に応じて、演習・実習を取り入れる）

〔成績評価の方法〕 定期試験 60%、レポート等提出物 30%、平常点 10%

31049

家庭

S / W 菱田道代

㊦家庭

〔授業題目〕 小学校家庭科の指導内容

〔概要〕 基礎的基本的な指導内容（家庭生活と家族・日常の食事と調理の基礎・快適な衣服と住まい・身近な消費生活と環境）を、新学習指導要領をふまえて概説する。

〔到達目標〕 小学校家庭科の指導に必要な知識を習得する。家族・家庭の意義、家庭の社会とのかかわりを理解し、自己の生活改善意識を高める。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| 第1回 この授業のめざすもの | 野菜) |
| 第2回 現行学習指導要領による教育課程 | 第10回 食生活の学習（食品加工と表示・調理用具の扱い） |
| 第3回 家庭科教育の変遷と目標・授業設計と特徴 | 第11回 住生活の学習（機能・環境） |
| 第4回 衣生活の学習（着用目的・機能） | 第12回 家庭生活と家族（家族・家事労働・ジェンダー） |
| 第5回 衣生活の学習（衣服素材の性能） | 第13回 家庭科と消費者教育 |
| 第6回 衣生活の学習（洗濯・管理） | 第14回 家庭科と生活文化 |
| 第7回 食生活の学習（食育と家庭科） | 第15回 定期試験 |
| 第8回 食生活の学習（栄養と栄養素・食品群・献立作成） | |
| 第9回 食生活の学習（食品の調理性・米・卵・緑黄色 | |

〔テキスト〕 鈴木洋子編『初等家庭科教育法ワークブック』、櫻井純子他著『わたしたちの家庭科5・6年』（開隆堂）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、平常点 30%

31050

専門体育

S 奥野暢通

㊦専門体育

〔授業題目〕 基本的運動

〔概要〕 小学校段階で学習する走・跳運動、鉄棒運動、マット運動、跳び箱運動、水中身体動作、各種泳法を取り上げ、その技術習得を目指した実技指導を行い、技能の習得と示範方法の研究を行う。また、補助方法や危険防止策の学習を目的に適宜グループ学習を導入する。

〔到達目標〕 本講義は、初等教育「体育科」の学習内容の中で特に陸上運動、器械運動、水泳について受講生自身の運動技能を高めるとともに、それぞれの運動技術について有効な示範、補助、危険防止の方法を具体的に習得することを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1 初等教育における「体育」 | 8 鉄棒・跳躍運動の技能と補助 (1) |
| 2 「示範」の考え方と実際：ラヂオ体操を題材に | 9 鉄棒・跳躍運動の技能と補助 (2) |
| 3 マット・跳び箱運動の技能と補助 (1) | 10 鉄棒・跳躍運動の技能と補助 (3) |
| 4 マット・跳び箱運動の技能と補助 (2) | 11 鉄棒・跳躍運動の技能と補助 (4) |
| 5 マット・跳び箱運動の技能と補助 (3) | 12 鉄棒・跳躍運動の技能と補助 (5) |
| 6 マット・跳び箱運動の技能と補助 (4) | 13 水泳技術と練習法 (クロール) |
| 7 マット・跳び箱運動の技能と補助 (5) | 14 水泳技術と練習法 (平泳ぎ) |

〔テキスト〕 文部科学省編著『小学校学習指導要領』

〔参考文献〕

〔授業形態〕 実習

〔成績評価の方法〕 実技テスト 80 %、平常点 20 %

31061

体育理論

W 奥野暢通

㊦体育理論

〔授業題目〕 小学校教員のための体育

〔概要〕 現代生活における身体運動の重要性を踏まえたうえで、運動学習にかかわる体育学諸領域（体育心理学、体育社会学、運動生理学、運動学など）の諸理論を講ずる授業計画を作成する。授業形態は講義を主にするが、初等教育現場における体育授業事例をもとに討論を行ったり、小テストを実施するなどして、より実践に即した知識の習得を試みる。

〔到達目標〕 本講義は受講者が初等教育における「体育」の意義と重要性について理解し、心身の健全な発達を促す運動指導に必要な知識を習得するとともに、意欲的に子どもの身体に係わっていく姿勢を身につけることを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------------|--------------------------------------|
| 1 現代社会と教科「体育」 | 9 「体育」における人間関係：体育社会学 |
| 2 「体育」の哲学的基礎：体育原理 | 10 「体育」の心理学的基礎：体育心理学Ⅰ（動機づけ、意欲など） |
| 3 「体育」の歴史の変遷：体育史Ⅰ（世界） | 11 「体育」の心理学的基礎：体育心理学Ⅱ（運動に影響する心理要因など） |
| 4 「体育」の歴史の変遷：体育史Ⅱ（日本） | 12 運動中のからだ 運動生理学Ⅰ |
| 5 「体育」の目標・内容：体育科教育Ⅰ | 13 運動による身体変化の諸条件：運動生理学Ⅱ |
| 6 「体育」の指導計画・学習指導・評価：体育科教育Ⅱ | 14 運動学、スポーツ栄養学、スポーツ医学など |
| 7 「体育」の指導法：体育科教育Ⅲ | |
| 8 「体育」の環境設定と安全：体育管理 | |

〔テキスト〕 文部科学省著『小学校学習指導要領』『小学校学習指導要領・体育編解説』

〔参考文献〕

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 試験 60 %、小レポート 30 %、平常点 10 %

31062

保健

W 楠本久美子

〔授業題目〕 小学校教員が行う保健教育

〔概要〕 小学校体育科保健領域の身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容を児童の発達と関連づけて小学校学習指導要領に沿って解説する。

〔到達目標〕 児童の興味、関心を重視した教材の工夫について理解する。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------|------------------|
| 1 新学習指導要領の解説 | 8 登下校の安全教育 |
| 2 現行学習指導要領の解説 | 9 心の健康 |
| 3 毎日の生活と健康 | 10 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 |
| 4 「育ちゆく体とわたし」の解説 | 11 指導案作成 |
| 5 調和のとれた食事と運動 | 12 教材作り |
| 6 けがを防ぐ体のしくみと限界 | 13 模擬授業 I |
| 7 交通事故の防止 | 14 模擬授業 II |

〔テキスト〕 文部省編著『小学校学習指導要領 体育科解説』（東山書房）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義・発表

〔成績評価の方法〕 定期試験 60%、発表 40%

31065

教育行財政学

W 植田義幸

⑩教育行財政学

〔概要〕 臨時教育審議会以降の教育改革について検討する。中教審答申等の基本的文書を精読し、近年の教育課題について、社会状況や課題解決に至るための方策等について、法令・制度を中心に理解を深める。

〔到達目標〕 近年の教育改革の概要を知り、特に初等・中等教育に関する教育施策についての理解を深める。法令等の概要を知る。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------------|-------------------------|
| 1 教育行財政学の研究対象と方法 | 9 文科省発足以降の審議会答申の検討 (2) |
| 2 臨時教育審議会答申の検討 (1) | 10 文科省発足以降の審議会答申の検討 (3) |
| 3 臨時教育審議会答申の検討 (2) | 11 文科省発足以降の審議会答申の検討 (4) |
| 4 15、16 期中教審答申の検討 (1) | 12 文科省発足以降の審議会答申の検討 (5) |
| 5 15、16 期中教審答申の検討 (2) | 13 文科省発足以降の審議会答申の検討 (6) |
| 6 15、16 期中教審期の他の審議会答申の検討 (1) | 14 文科省発足以降の審議会答申の検討 (7) |
| 7 15、16 期中教審期の他の審議会答申の検討 (2) | 15 定期試験 |
| 8 文科省発足以降の審議会答申の検討 (1) | |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 適宜指示する

〔授業形態〕 講義・発表

〔成績評価の方法〕 定期試験 60%、平常点等 40%

31067

数理特論 I

S / W 寺田幹治

〔授業題目〕 数学の基礎問題・演習

〔概要〕 本講義は、小学校の教師としてまた社会人として必要となる数学的能力問題解決能力を養うことを目標にする。そのため、これまで学習してきた中・高等学校の数学の内容を含み発展できるテーマを取り上げるとともに、問題演習に十分な時間を取り、自発的に問題を考え、解決する能力を身につけさせたい。授業形態は、講義と問題演習を中心とした演習で多くの問題を解くことによって内容が確実に身につくようにし、小テストやレポートにより内容の理解を確実にしたい。

〔到達目標〕 算数の基礎としての数学が理解できたか。与えられた問題の理解および解答の構成がうまくできるか。

〔授業計画〕

- | | | |
|----------------|----------|-------------|
| 1 はじめに | 6 背理法 | 11 面積と体積 |
| 2 数学の用語について | 7 関係と関係式 | 12 順列と組み合わせ |
| 3 数学における「定義」とは | 8 一次関数 | 13 パラドックス |
| 4 数 | 9 グラフ | 14 鳩の巣箱の定理 |
| 5 小数 | 10 逆関数 | 15 定期試験 |

〔テキスト〕 こんどこそ！わかる数学 新井紀子 岩波書店

〔参考文献〕 教員採用試験問題集（講義中適宜指示する）

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 60%、レポート等を含む平常点 40%

31068

数理特論Ⅱ（3人でリレー）

S / W 蓮間忠芳 羽多野隆美 宮永健史

〔授業題目〕 科学の基礎的課題と最近の話題から
 〔概要〕 物理、化学、生物、地学などに関する自然科学的な基礎的諸現象について学習する。特に物理領域ではエネルギーの変換と保存について、化学領域では化学反応の意味について、生物領域では生命の連続性について理解を深める。また、理科教育とのかかわりについても議論を進め小学校理科の授業実践につなげる能力を養えるようにする。
 〔到達目標〕 自然科学的事象の基礎的知識を習得するとともに自然科学的な思考ができる能力を培い、あわせて、理科の魅力を児童に伝えるための理科教育的指導能力を養う。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1 運動の法則 | 9 化学的变化 |
| 2 仕事とエネルギー | 10 細胞の分裂 |
| 3 熱エネルギー | 11 DNAの構造とその複製 |
| 4 電気エネルギー | 12 遺伝子の発現機構 |
| 5 さまざまなエネルギーとその変換・保存 | 13 生態系の構成 |
| 6 物の性質 | 14 日本の植物自然 |
| 7 水溶液、気体 | 15 定期試験 |
| 8 熱、温度 | |

〔テキスト〕 講義時に印刷資料を配布する。

〔参考文献〕 講義時に随時、紹介する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 80%、レポート、小テスト、受講中の態度等 20%

31081

教育学・教科研究法

W 谷本哲郎

〔授業題目〕 学問の面白さとその方法
 〔概要〕 テキストの各部分を各学生が分担し、内容について要約し、関連する内容について調べたことをレジュメにまとめて授業時間ごとに発表する。更に全学生での討論により思考を深化させる。

〔到達目標〕 文献の読み方を習得し、関連する文献や資料の検索方法を習得し、自分の意見をまとめて発表できる。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1 オリエンテーション（この授業の進め方） | 8 文化遺産を継承する力 |
| 2 教えること、学ぶこと | 9 応答できる体 |
| 3 教育力の基本とは | 10 アイデンティティを育てる教育 |
| 4 真似る力と段取り力 | 11 ノートの本質、プリントの役割 |
| 5 研究者性、関係の力、テキストさがし | 12 呼吸、身体、学ぶ構え |
| 6 試験について考え直す | 13 論作文の作成方法について |
| 7 見抜く力、見守る力（第1回レポート提出） | 14 冬学期のまとめ（第2回レポート提出） |

〔テキスト〕 齊藤孝著 『教育力』 岩波新書

〔参考文献〕 授業中に適宜指示する。

〔授業形態〕 演習・発表・対話・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験に替わる2回のレポート 60%、発表等平常点 40%

31081

教育学・教科研究法

W 石田陽子

〔授業題目〕 学ぶことの意味を考える
 〔概要〕 『学校って何だろう—教育の社会学入門』をテキストとして、勉強、校則、試験、教科書などをキーワードに「学ぶことの意味」を考える。各受講生はテキストの一部を分担し、内容を要約するとともに、関連する内容について調べたことをレジュメにまとめて発表し、発表者以外の受講生と質疑応答を行なう。また、第7回目と第15回目に、それまでの発表で関心を持った内容についてまとめたレポートを各自提出する。

〔到達目標〕 テキストの内容を理解し、それについて考察するとともに自らの考えをことばで表現する力を養う。また、テキストに関連した文献や資料検索の基礎的方法も習得する。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------------------|---------------------------------------|
| 1 オリエンテーション：テキスト内容の概説と講読
分担を決める | レポート（1）提出 |
| 2～3 発表と討論：「どうして勉強するの？」文献検索の基礎について | 8～9 発表と討論：「教科書って何だろう」 |
| 4～5 発表と討論：「試験の秘密」
レポートの書式について | 10～11 発表と討論：「隠れたカリキュラム」 |
| 6～7 発表と討論：「校則はなぜあるの？」 | 12～13 発表と討論：「先生の世界」「生徒の世界」 |
| | 14 発表と討論：「学校と社会のつながり」
第1回レポート返却と解説 |
| | 15 レポート（2）提出 |

〔テキスト〕 荻谷剛彦、『学校って何だろう—教育の社会学入門』（ちくま文庫）、筑摩書房

〔参考文献〕 授業時に紹介する。

〔授業形態〕 講義・演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験に替わるレポート（2回）評価 60%、平常点（発表・討論など） 40%

31081

教育学・教科研究法

W 埋橋玲子

〔授業題目〕 大学での学びへの導入・続き

〔概要〕 素材をもとに研究的な文献の読み方の習得。関連文献や資料の探索。素材となる文献のまとめ方の習得。自分の意見をまとめ、発表し、レポートとして記述する。

〔到達目標〕 小グループの演習形式の授業をとおして、学問の面白さを知りその学問の研究方法を身につける。

〔授業計画〕

- | | | |
|-------------|--------------|---------------|
| 1 夏休みの課題発表 | 6 中間まとめ | 11 発表・討論 (9) |
| 2 発表・討論 (1) | 7 発表・討論 (5) | 12 発表・討論 (10) |
| 3 発表・討論 (2) | 8 発表・討論 (6) | 13 まとめ (1) |
| 4 発表・討論 (3) | 9 発表・討論 (7) | 14 まとめ (2) |
| 5 発表・討論 (4) | 10 発表・討論 (8) | |

〔テキスト〕 小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕

〔成績評価の方法〕 レポート 60%、平常点 40%

31081

教育学・教科研究法

W 川口隆雄

〔授業題目〕 学問の面白さとその方法

〔概要〕 テキストは「数学入門 (上)」を使用する。テキストの各部分を学生が分担し、内容について要約し、関連する内容について調べたことをレジюмеにまとめて発表する。さらに、他の学生との質疑応答をして思考を深める。

〔到達目標〕 ①文献の読み方の習得、②関連する文献や資料の検索方法の習得、③自分の意見をまとめて発表し、討論をする中で各自の思考を深める。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------------|-------------------|
| 1 オリエンテーション (テキストの概説、分担) | 8 代数一ずるい算数 |
| 2 文献の読み方と関連資料の検索 | 9 図形の科学 |
| 3 レジюмеの作り方、研究レポートの書き方 (1) | 10 円の世界 |
| 4 数の幼年期 | 11 複素数 |
| 5 分離量と連続量 | 12 これまでのまとめ |
| 6 数の反意語 | 13 研究レポートの書き方 (2) |
| 7 これまでのまとめ、レポート提出 (1回目) | 14 1回目のレポート返却と解説 |

〔テキスト〕 遠山啓著『数学入門 (上)』岩波新書 (岩波書店)

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義・演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験に替わる2回のレポート 60%、平常点 (発表・討論) 40%

31081

教育学・教科研究法

W 船所武志

〔授業題目〕 日本語の歴史を知る

〔概要〕 テキスト『日本語の歴史』の内容を、分担して発表することによって、学問の方法を体得し、自ら探究することで学問の面白さを知る。発表・討論を通して、発表の方法や教科としての国語研究のあり方を学ぶ。2回のレポートを課す。

〔到達目標〕 取り上げるテキストを素材に、研究的な文献の読み方、関連文献や資料の探し方、内容のまとめ方と自分の意見や表現方法などを発表やレポートの演習形式で習得する。

〔授業計画〕

- | | | |
|-------------|---------------------|---------------|
| 1 漢字にめぐりあう① | 7 うつりゆく古代語②、レポート提出① | 12 言文一致をもとめる① |
| 2 漢字にめぐりあう② | 8 うつりゆく古代語③ | 13 言文一致をもとめる② |
| 3 文章をこころみる① | 9 近代語のいぶき① | 14 言文一致をもとめる③ |
| 4 文章をこころみる② | 10 近代語のいぶき② | 15 レポート提出② |
| 5 文章をこころみる③ | 11 近代語のいぶき③ | |
| 6 うつりゆく古代語① | | |

〔テキスト〕 山口仲美『日本語の歴史』(岩波新書)

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 発表・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験に替わるレポート 60%、平常点 (発表・討論等) 40%

31081

教育学・教科研究法

W 八木成和

〔概要〕 演習形式により、テキストの各部分を学生が分担し、その内容を要約し調べたことをまとめて、順次発表する。第7回にそれまでの内容をレポートとしてまとめ最後に2度目のレポートをまとめる。

〔到達目標〕 ①文献の読み方の習得、②関連する文献や資料の検索方法の習得、③自分の意見をまとめて発表し、討論することで思考を深めることを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1 発表用資料の作成及び発表方法の概説 | 8 変化に取り残された学校 |
| 2 文献検索の方法及び専門用語の調べ方 | 9 教師はなぜ力をなくしたのか |
| 3 文献の要約の仕方と引用方法 | 10 家庭の子育て力は低下したのか |
| 4 学級崩壊 | 11 大人と子どもの関係不全 |
| 5 新しい荒れ | 12 子どもが問いかけていること |
| 6 いじめ | 13 危機からどう脱出するか |
| 7 虐待 | 14 論文の記述に関する解説 |

〔テキスト〕 尾木直樹著『子どもの危機をどう見るか』岩波新書（岩波書店 2000年8月18日出版）

〔参考文献〕 尾木直樹著『『学力低下』をどうみるか』NHK出版協会 2002年

〔授業形態〕 演習・発表・対話・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験に替わるレポート2回（70%）、発表資料などの平常点（30%）

31081

教育学・教科研究法

W 植田義幸

〔概要〕 演習形式により、テキストの各部分を学生が分担し、内容を要約し調べたことをまとめて、順次発表する。第7回目にそれまでの内容をレポートとしてまとめ最後に2度目のレポートをまとめる。

〔到達目標〕 ①文献の読み方の習得。②関連する文献や資料の検索方法の習得。③自分の意見をまとめて発表し、討論することで思考を深めることを目標とする。

〔授業計画〕

- | | | |
|-------------|-------------|--------------|
| 1 オリエンテーション | 6 発表・討論（5） | 11 発表・討論（9） |
| 2 発表・討論（1） | 7 レポート講評 | 12 発表・討論（10） |
| 3 発表・討論（2） | 8 発表・討論（6） | 13 発表・討論（11） |
| 4 発表・討論（3） | 9 発表・討論（7） | 14 発表・討論（12） |
| 5 発表・討論（4） | 10 発表・討論（8） | |

〔テキスト〕 板倉聖宣・塚本浩司・宮地祐司著『たのしい知の技術』（仮説社）

〔参考文献〕 適宜指示する。

〔授業形態〕 講義・演習・実習・発表・対話

〔成績評価の方法〕 レポート60%、平常点40%

31081

教育学・教科研究法

W 中本和彦

〔授業題目〕 読み書きの技法

〔概要〕 各自が選択したテーマについて小論文を読み、レジメにまとめ、授業時間ごとに発表する。発表について全学生で質疑応答を行う。第7回、第14回に授業内容を踏まえたレポートを提出する。

〔到達目標〕 ①文献の読み方を修得する。②自分の意見をまとめて発表し、討論する中で各自の思考を深めることができる。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1 オリエンテーション | 8 文献講読・発表・討論（6） |
| 2 文献講読・発表・討論（1） | 9 文献講読・発表・討論（7） |
| 3 文献講読・発表・討論（2） | 10 文献講読・発表・討論（8） |
| 4 文献講読・発表・討論（3） | 11 文献講読・発表・討論（9） |
| 5 文献講読・発表・討論（4） | 12 文献講読・発表・討論（10） |
| 6 文献講読・発表・討論（5） | 13 文献講読・発表・討論（11） |
| 7 小論文作成—読みの技法— | 14 小論文作成—書きの技法— |

〔テキスト〕 小林康夫・船曳建夫編、『知の技法』、東京大学出版会

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験に替わるレポート60%、平常点40%

31102

生活科教育法 I

S 奥始 丹羽孝昭

㊦教材研究生活 I

〔授業題目〕生活科指導法

〔概要〕生活科の特質とそれを踏まえた学習指導と評価を中心に論述する。学習指導については、単元設定と学習指導の要点について説明し、学習指導案の立て方、授業の組み立て方については学習指導案の作成等の演習を通して明らかにする。次に、指導者の役割、評価、環境づくり等生活科の学習指導にかかわる基礎事項を取り上げる。最後に、模擬授業を行い相互批評を通して学習指導のあり方を実践的に追究する。

〔到達目標〕生活科の特質を捉え、それに基づく学習指導のあり方を実践的に追究し、受講者の学習指導能力を養う。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------|----------------------------|
| 1 生活科の特質 | 9 生活科の評価 (1) —評価の意義と目的— |
| 2 単元設計の要点と指導計画 | 10 生活科の評価 (2) —評価の観点と方法— |
| 3 学習指導における要点 (1) | 11 生活科の環境づくり (1) —学校環境づくり— |
| 4 学習指導における要点 (2) | 12 生活科の環境づくり (2) —地域環境の活用— |
| 5 生活科における指導者の役割 | 13 学習指導案の作成と模擬授業 (1) |
| 6 学習指導案づくりの基本 (1) | 14 学習指導案の作成と模擬授業 (2) |
| 7 学習指導案づくりの基本 (2) | 15 定期試験 |
| 8 学習指導案作成の演習 | |

〔テキスト〕奥始著『生活科教育法』(ゼロックスドキュメンタリーセンター) 文部科学省著『小学校学習指導要領・生活編』(日文出版)

〔参考文献〕講義中適宜紹介

〔授業形態〕講義・演習

〔成績評価の方法〕次の事項に基づく総合評価 (1) 定期試験 80% (2) 課題研究での提出物等 平常点 20%

31103

生活科教育法 II

W 奥始 丹羽孝昭

㊦教材研究生活 II

〔授業題目〕生活科の教材研究

〔概要〕まず、生活科の目標や目指す子ども像を捉え、新しい教育理念にたった生活科の教材観を明らかにする。次に、目標や目指す子ども像にせまる価値ある活動を生み出すため、受講者が実際に「探検活動」「飼育活動」「栽培活動」「製作活動」等様々な活動に体験的に取り組み、教材研究を実践的に深めていく。

〔到達目標〕生活科の目標や目指す子ども像にせまる価値ある活動を生み出すための教材研究を実践的に深め、受講者が新しい教育理念に立った生活科の教材観についての識見を高める。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------------|--------------------------------|
| 1 生活科の目標と育てたい子ども像 | 「草花遊び事典」の制作 |
| 2 生活科における教材研究のあり方 | 9 「栽培活動」(1) 「栽培活動」の指導のあり方 |
| 3 「家庭と生活」についての指導のあり方 | 10 「栽培活動」(2) 栽培の基本技術について |
| 4 「季節の変化と子どもの生活」についての指導のあり方 | 11 「製作活動」(1) 「製作活動」の指導のあり方 |
| 5 「探検活動」の指導のあり方 「〇〇探検記」の制作 | 12 「製作活動」(2) 「動くおもちゃ」の製作 |
| 6 「飼育活動」(1) 「飼育活動」の指導のあり方 | 13 「生活や出来事の交流」の指導のあり方 |
| 7 「飼育活動」(2) 小動物や昆虫の育て方 | 14 「自己の成長」の指導のあり方 「思い出アルバム」の制作 |
| 8 草花や木の葉・木の実を使った遊びの指導 | 15 定期試験 |

〔テキスト〕奥始著『生活科教育法』(ゼロックスドキュメンタリーセンター)

〔参考文献〕講義中適宜紹介

〔授業形態〕講義・演習

〔成績評価の方法〕次の事項に基づく総合評価 (1) 定期試験 80% (2) 課題提出物等平常点 20%

31104

音楽科教育法 I

S 太田みどり 大谷恵世

⑩教材研究音楽 I

〔授業題目〕音楽の「楽しさ」から「表現する喜び」への実践的指導方法の研究

〔概要〕音楽と人生そして社会との関係が今日ほど重要である時代はない。“胎教にいい音楽”と言われるように、胎児にまで遡れば、胎児は言語を受け入れるより前から“音楽”を受け入れる。音楽はすべての人間に受け入れられ“心”に作用するのである。したがって小学校期に人間形成にかかわる音楽を指導することは非常に重要である。社会にも個人にも大きな可能性を含んだ児童の音楽教育に当たる教師は自らが接する児童を深く理解し各人の個性を尊重して能力を高め引き出さなければならない。それには教師自らが高邁な見識を持ち個別授業内容にも基礎、基本を習熟し、より高度な専門知識と技術を有しなければならないと考える。具体的内容は次の通りである。現代社会の小学校教育における音楽科の役割と目的を理解し、小学校学習指導要領・音楽編「表現」「鑑賞」の領域について教材とその指導法を研究する。また様々な実践指導を通して小学校教師としての自覚、意欲を深め、子供たちが自分のよさを発揮し、主体的で創造的な学習活動ができるよう支援し、子供達の豊かな人間形成を導くことができる指導者の育成を目標とする。本講義では第1～3学年を中心に様々な音楽体験を「楽しさ」を通して、「表現する喜び」への、弾力的且つ創意工夫を生かした授業展開ができるよう幅広い知識、音楽教養、技能の向上に努める。そのため、各講義のはじめに音楽基礎学習として、毎回コールユーブンゲンと聴音、視唱を行う。教育実習や教職採用試験も視野に含め実技発表も行う。ピアノ学習については、レベルに応じた自習課題プリントを課す。必要に応じて教室を変更することがある(ML教室、リズム室)

〔到達目標〕各領域における基礎的、基本的な内容、指導法を習熟する。児童の興味、意欲、関心を引き起こせる工夫ができる。具体的には、歌唱：歌唱共通教材(第1～3学年)12曲 歌詞唱、階名唱による、範唱、模唱の交互唱指導ができる。ピアノ：ハ長調の簡易伴奏(I, IV, V及びV₇)ができ、バイエル66程度が弾ける。器楽：打楽器の正しい奏法を習得しリズム指導ができる。リコーダー、オルガン(キーボード)で簡単なアンサンブル教材化及び、導入指導ができる。創作：簡単なリズムや旋律をつくって表現できる。鑑賞：主な旋律、冒頭の楽譜を見て曲名がわかる。ワークシートが作れる。聴音：ハ長調旋律が聴き取れ、記譜できる。コールユーブンゲン：5度音程が正しく歌える。

〔授業計画〕

- | | |
|---|---|
| <p>第1回 オリエンテーション 講義内容の説明 アンケート調査(ピアノ経験 その他の楽器 教師志望の動機)聴音、視唱：正確な記譜について 鑑賞曲を聴く</p> <p>第2回 聴音、視唱 コールユーブンゲン 現代社会における音楽教育の役割と目的、音楽授業の“これまで”と“これから”小学校学習指導要領「表現」教科目標 第1～3学年 各学年の目標及び内容 鑑賞曲を聴く 歌唱教材伴奏法①</p> <p>第3回 聴音、視唱 コールユーブンゲン 授業づくりと学習指導案について 歌唱指導法：歌詞唱：呼吸法、発音の仕方、発声法 指導案例による実践：情景や気持ち、歌詞の内容にふさわしい表現(身体表現、視覚的教材)歌唱共通教材 その他 鑑賞曲を聴く 歌唱教材伴奏法②</p> <p>第4回 聴音、視唱 コールユーブンゲン 歌唱指導法：聴唱法 交互唱 階名唱への導入 指導案例による実践：身体表現 ドレミ体操 ハンドサイン 絵譜 歌唱共通教材 輪唱教材 鑑賞曲を聴く 歌唱教材伴奏法③</p> <p>第5回 聴音、視唱 コールユーブンゲン 器楽、創作指導法：打楽器の奏法と音色の工夫 指導案例による実践：リズム指導(リズム譜、リズム唱 リズム打ち)2拍子3拍子の違い リズム遊び(リズムカード)音遊び ふし遊び 鑑賞曲を聴く 歌唱教材伴奏法④</p> <p>第6回 聴音、視唱 コールユーブンゲン 器楽合奏と指揮法：器楽合奏 オスティナートによる合奏 グループ発表 音の特徴や響きを感じて演奏す</p> | <p>る 表現に合った指揮 鑑賞曲を聴く 歌唱教材伴奏法⑤</p> <p>第7回 ピアノ実技(1) 共通教材の弾き歌い 正確な歌唱と伴奏 伴奏は各ピアノレベルに合ったもの(簡易伴奏等)</p> <p>第8回 聴音、視唱 コールユーブンゲン 小学校学習指導要領「鑑賞」：第1～3年 各学年の目標及び内容 コンピューターを活用した指導事例 鑑賞曲を聴く 歌唱教材伴奏法⑥</p> <p>第9回 聴音、視唱 コールユーブンゲン 鑑賞教材指導法：教材の選択 指導上の留意点 行進曲 踊りの音楽 指導案例による実践：曲の感じにあわせて表現する ワークシートを作る 歌唱教材伴奏法⑦</p> <p>第10回 聴音、視唱 コールユーブンゲン 鑑賞教材指導法：教材の選択 劇の音楽 管弦楽の音楽 郷土の音楽 指導案例による実践：楽器の響きを聴く ワークシートを作る 歌唱教材伴奏法⑧</p> <p>第11回 聴音、視唱 コールユーブンゲン グループによる学習指導案作成 歌唱教材伴奏法⑨</p> <p>第12回 聴音、視唱 コールユーブンゲン 学習指導案・グループによる模擬授業と検討 歌唱教材伴奏法⑩</p> <p>第13回 聴音、視唱 コールユーブンゲン 学習指導案・グループによる模擬授業と検討</p> <p>第14回 ピアノ実技(2) バイエル66 共通教材の弾き歌い 個人の学習指導案提出</p> <p>第15回 定期テスト(筆記)</p> |
|---|---|

〔テキスト〕初等科音楽教育研究会編『初等科音楽教育法』(音楽之友社)文部科学省『小学校学習指導要領解説 音楽編』(教育芸術社)

〔参考文献〕コールユーブンゲン(学生版)(音楽之友社)、バイエルピアノ教則本(全音)、バイエルとツェルニーによる歌唱教材伴奏法(教育芸術社)、小学校新しい音楽科教育(教育出版)、小学校音楽科の指導と評価(暁教育図書)、音楽科授業論(東洋館出版社)

〔授業形態〕講義・演習・実習・発表

〔成績評価の方法〕定期試験40%、実技発表40%、平常点20%

31105

音楽科教育法Ⅱ

W 太田みどり 大谷恵世

㊤教材研究音楽Ⅱ

〔授業題目〕音楽の「楽しさ」から「表現する喜び」への実践的指導方法の研究

〔概要〕小学校学習指導要領・音楽編「表現」「鑑賞」の領域について教材とその指導法を研究する。本講義では、教材研究Ⅰで学習した指導内容、指導技術をさらに高め発展させ、第4～6学年を中心に音楽の主要三要素であるリズム、メロディー、ハーモニーの研究、指導法を学習し、それらを統合して「楽しさ」から「音楽の美しさ」を感じ、さらに歌唱、器楽演奏等で「音楽表現の喜び」へと発展させることができる指導力を養いグループ活動指導へと発展させる。各講義のはじめに音楽基礎学習として、毎回コールユープンゲンと聴音、視唱を行う。教育実習や教職採用試験も視野に含め実技発表も適宜行う。ピアノ学習については、レベルに応じた自習課題プリントを課す。必要に応じて教室を変更することがある（ML教室、リズム室）

〔到達目標〕Ⅰの内容をさらに高めより高度な内容、指導法を習熟する。児童の興味、関心、意欲を引き起こせる工夫ができる。具体的には、歌唱：歌唱共通教材（第4～6学年）12曲 歌詞唱、階名唱 による範唱、模唱による交互唱指導ができる。ピアノ：ト長調 へ長調 二長調の簡易伴奏（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅴ₇）ができ、バイエル93、96程度を目標とする。器楽：木琴 鉄琴でアンサンブルができる。リコーダー 半音階ができる。創作：簡単な作曲ができる。鑑賞：主な旋律、冒頭の楽譜を見て曲名がわかる。（4～6学年）聴音：ハ長調旋律が聴き取れ、記譜ができる。ト長調、へ長調、二長調の移動ド唱法ができる。コールユープンゲン：8度音程が正しく歌える。

〔授業計画〕

- | | |
|--|---|
| <p>第1回聴音、視唱 コールユープンゲン 小学校で指導される音楽諸記号 アンケート調査（ピアノ経験等）評価について 鑑賞曲を聴く</p> <p>第2回聴音、視唱 コールユープンゲン 小学校学習指導要領「表現」第4～6学年 各学年の目標及び内容 内容の取り扱いについての配慮事項 鑑賞曲を聴く 歌唱教材伴奏法①</p> <p>第3回聴音、視唱 コールユープンゲン 歌唱指導法 呼吸法、発音の仕方 発声法（豊かな響きのある自然で無理のない声）移動ド唱法 指導事例による実践 旋律に重点をおいた指導法 楽曲の構成 歌唱共通教材 わらべうた他 鑑賞曲を聴く 歌唱教材伴奏法②</p> <p>第4回聴音、視唱 コールユープンゲン 歌唱指導法 和声に重点をおいた指導法 和音Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅴ₇ 二部合唱と指揮法 楽曲に合った表現 鑑賞曲を聴く 歌唱教材伴奏法③</p> <p>第5回聴音、視唱 コールユープンゲン 器楽、創作指導法 リコーダー 半音を習得しフィンガリングの指導、タンギング指導ができる オブリガートの研究 リコーダーアンサンブル 歌唱教材伴奏法④ 指導事例による実践 日本のふし 日本音階 和楽器（箏 尺八 和太鼓）について 鑑賞曲を聴く 歌唱教材伴奏法⑤</p> <p>第6回聴音、視唱 コールユープンゲン 器楽合奏と指揮法 音の特徴や響きを感じて演奏</p> | <p>楽曲の構成を理解して表現の仕方を工夫する 鑑賞曲を聴く 歌唱教材伴奏法⑥</p> <p>第7回実技 独唱 「スキーのうた」無伴奏で正しく歌える</p> <p>第8回聴音、視唱 コールユープンゲン 小学校学習指導要領「鑑賞」第4～6学年 各学年の目標及び内容 鑑賞曲を聴く 歌唱教材伴奏法⑦ コンピューターを活用した指導事例</p> <p>第9回聴音、視唱 コールユープンゲン 鑑賞教材指導法 歌曲 室内楽 諸外国の音楽 指導事例による実践 演奏形式と音楽形式 ワークシートを作る 歌唱教材伴奏法⑧</p> <p>第10回聴音、視唱 コールユープンゲン 鑑賞教材指導法 日本音楽（箏 尺八）曲想を全体的に味わう 指導事例による実践 和楽器の口唱歌 ワークシートを作る 歌唱教材伴奏法⑨</p> <p>第11回聴音、視唱 コールユープンゲン 学習指導計画・指導案作成 歌唱教材伴奏法⑩</p> <p>第12回聴音、視唱 コールユープンゲン 学習指導案・グループによる模擬授業と検討</p> <p>第13回聴音、視唱 コールユープンゲン 学習指導案・グループによる模擬授業と検討##</p> <p>第14回@ピアノ実技 バイエル93 96どちらか1曲 共通教材の弾き歌い 個人の学習指導案提出## 第15回@定期テスト（筆記）</p> |
|--|---|
- 〔テキスト〕初等科音楽教育研究会編『初等科音楽教育法』（音楽之友社）文部科学省『小学校学習指導要領解説 音楽編』（教育芸術社）
- 〔参考文献〕コールユープンゲン（学生版）（音楽之友社）、バイエルピアノ教則本（全音）、バイエルとツェルニーによる歌唱教材伴奏法（教育芸術社）、小学校新しい音楽科教育（教育出版）、小学校音楽科の指導と評価（暁教育図書）、音楽科授業論（東洋館出版社）
- 〔授業形態〕講義・演習・実習・発表
- 〔成績評価の方法〕定期試験40%、実技発表40%、平常点20%

31106

図画工作科教育法 I

S 黒田紀久子 村田夕紀 富岡 玲

㊦教材研究図工 I

〔授業題目〕教材研究と子ども理解

〔概要〕小学校新学習指導要領・図画工作の指導目標と内容について講義し、小学校低学年（第1学年・第2学年）、中学年（3学年、4学年）の教材について広く研究し、「A表現（1）材料をもとにした楽しい造形活動」を基本に毎年開発され続けている教材の中から一番新しい教材に注目して研究し、それを選んで実技する。それと平行してビデオ教材も使いながら、1学年・2学年・3学年の指導案作成を各指導要領をしっかりと生かした内容で書けるよう指導し、教材研究Ⅱの授業とつないでいく。授業形式は実技中心の講義と指導案作成で、まずは、教育実習現場で生かされるように、それが採用試験やその後の図画工作指導にも生かされる様に指導する。

〔到達目標〕小学校新学習指導要領・図画工作の低学年・中学年の指導目標と内容を理解し、教材を研究しながらの実技体験により、「教材・実技を体得し」、「1学年・2学年・3学年の指導案作成」が出来、「1学年・2学年・3学年の実技教材指導が出来る」ことを目標とする。

〔授業計画〕

第1回教材研究Ⅰの授業の概要と授業の到達目標、そして評価についての講義	第8回実技
第2回低学年（第1学年・第2学年）の目標についての講義	第9回実技・作品提出
第3回第1学年の表現と鑑賞・指導上の注意点と実技教材についての説明をして実技に入る	第10回第2学年の指導案を書く
第4回実技	第11回中学年（第3学年・第4学年）の目標についての講義（第4学年の実技・指導は時間の都合上教材研究Ⅱへ回す）
第5回実技・作品提出	第12回第3学年の表現と鑑賞・指導上の注意点と実技教材についての説明をして実技に入る
第6回第1学年の指導案を書く	第13回実技
第7回第2学年の表現と鑑賞・指導上の注意点と実技教材についての説明をして実技に入る	第14回実技・作品提出
	第15回第3学年の指導案を書く

〔テキスト〕文部科学省著『小学校学習指導要領・図画工作編』（日本文教出版）

〔参考文献〕講義中適宜指示する

〔授業形態〕講義・演習

〔成績評価の方法〕実技70%、平常点30%

31107

図画工作科教育法Ⅱ

W 黒田紀久子 村田夕紀 富岡 玲

㊦教材研究図工Ⅱ

〔授業題目〕教材研究と子ども理解

〔概要〕教材研究Ⅰから引きつづき、小学校新学習指導要領・図画工作の学年ごとの目標と学年ごとの内容について講義し、小学校中学年（第3学年・第4学年）の教材について広く研究し、（第3学年は終えている）学年目標（1）～（3）に示す「豊かな発想や創造的な技能などを働かせる」「其の体験を深めることに関心をもつ」「表わし方を工夫する」「作り出す能力・デザイン能力、創造的な工作の能力を伸ばす」「関心を持って見る」などの資質や能力を十分に働かせる教材を選んで実技しながら指導案を作成する。そして高学年（第5学年・第6学年）へ実技をすすめ、学年目標A表現（1）のイ「材料や場所などに進んでかわあり合い、それらをもとに構成したり造る物と周囲の様子を考え合わせて表したりしながら造形遊びをすること」を生かした指導案を書く。授業形式は教材研究Ⅰと同じである。

〔到達目標〕小学校新学習指導要領・図画工作の中学年・高学年の指導目標と内容を理解し、教材を研究しながらの実技体験により、「教材・実技を体得し」、「4学年・5学年・6学年の指導案作成」が出来、「4学年・5学年・6学年の実技教材指導が出来る」ことを目標とする。

〔授業計画〕

第1回教材研究Ⅰから教材研究Ⅱへの授業の概要と授業の到達目標等についての講義	第8回第5学年の表現と鑑賞・指導上の注意点と実技教材についての説明をして実技に入る
第2回教材研究Ⅰから引きついで再度、中学年（第3学年・第4学年）の目標についての講義	第9回実技
第3回第4学年の表現と鑑賞・指導上の注意点と実技教材についての説明をして実技に入る	第10回実技・作品提出
第4回実技	第11回第5学年の指導案を書く
第5回実技・作品提出	第12回第6学年の表現と鑑賞・指導上の注意点と実技教材についての説明をして実技に入る
第6回第4学年の指導案を書く	第12回実技
第7回高学年（第5学年・第6学年）の目標についての講義	第14回実技・作品提出
	第15回第6学年の指導案を書く

〔テキスト〕文部科学省著『小学校学習指導要領解説 図画工作編』（日本文教出版）

〔参考文献〕講義中適宜指示する

〔授業形態〕講義・演習

〔成績評価の方法〕実技作品70%、平常点30%

31108

家庭科教育法 I

S

菱田道代

㊦教材研究家庭 I

〔授業題目〕 小学校家庭科の授業づくり

〔概要〕 学習指導要領の教科の目標・内容を基に、学習指導計画・学習指導案および教材教具を作成する。模擬授業を行い、検討会で授業研究をする。教育実習を意識し、チームで授業づくりにとりくむ。

〔到達目標〕 学習内容を具体化する教材の重要性を理解し、目標に応じた題材及び教材を選定できる。・学習指導案を作成し、模擬授業ができる。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------------|------------|
| 1 この授業でめざすもの（授業の方法と計画など） | 8 模擬授業と検討 |
| 2 家庭科教育の目標と内容（小学校学習指導要領） | 9 模擬授業と検討 |
| 3 家庭科の授業について（授業観察の視点） | 10 模擬授業と検討 |
| 4 学習指導計画について | 11 模擬授業と検討 |
| 5 学習指導案について | 12 模擬授業と検討 |
| 6 授業に必要な教材教具の準備 | 13 模擬授業と検討 |
| 7 模擬授業と検討 | 14 まとめ |
| | 15 定期試験 |

〔テキスト〕 鈴木洋子編 『初等家庭科ワークブック』、櫻井純子他著 『わたしたちの家庭科5・6年』 開隆堂

〔参考文献〕 小学校学習指導要領解説 家庭編 文部科学省（平成20年）

〔授業形態〕 講義・演習・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験45%、課題発表40%、平常点15%

31108

家庭科教育法 I

S

丸山智彰

㊦教材研究家庭 I

〔授業題目〕 小学校家庭科教育法（授業研究）

〔概要〕 小学校学習指導要領に基づく教科の目標・内容を概説する。学習指導計画の立案、学習指導案および教材教具を作成する。授業形態は、講義、演習のほかに模擬授業とグループ討議による演習を取り入れる。

〔授業の到達目標及びテーマ〕 小学校家庭科の必要性と役割を理解する。・家庭科の学習内容を具体化する教材の重要性を理解し、学習目標に応じた題材及び教材を選定することができる。・学習指導計画を立案し学習指導案を作成することができる。・模擬授業を通して、授業を振り返ることができる。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------|--------------|
| 第1回 ガイダンス | 第9回 模擬授業と検討 |
| 第2回 家庭科教育の目標と内容 | 第10回 模擬授業と検討 |
| 第3回 示範授業、授業のみかた | 第11回 模擬授業と検討 |
| 第4回 学習指導計画の立て方 | 第12回 模擬授業と検討 |
| 第5回 学習指導案の役割と書き方 | 第13回 模擬授業と検討 |
| 第6回 模擬授業に必要な教材教具の準備 | 第14回 まとめ |
| 第7回 模擬授業と検討 | 第15回 定期試験 |
| 第8回 模擬授業と検討 | |

〔テキスト〕 初等家庭科教育法ワークブック（鈴木、河崎、菱田著）『新編新しい家庭5・6』（東京書籍）

〔参考文献〕 小学校学習指導要領解説 家庭編 文部科学省（平成20年）

〔授業形態〕 講義・演習・討論

〔成績評価の方法〕 課題発表40%、定期試験40%、平常点20%

31109

家庭科教育法Ⅱ

W 鈴木洋子

㊦教材研究家庭Ⅱ

〔授業題目〕 小学校家庭科の教材研究

〔概要〕 教科書に掲載されている題材や、一般的に多く扱われている題材の実習や製作を行う。実験・実習・製作を通して、題材の特徴や課題を検討し、教材研究を進めていく。

〔到達目標〕 実習及び製作学習の意義と役割を理解する。食品の調理特性や、製作素材の性質を理解し、指導に必要な技術指導を習得する。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1 家庭科の製作・実習題材について | 9 調理実習 野菜 調理用具・器具の扱い |
| 2 製作 フェルトの小物入れ ボタンつけ | 10 調理実習 卵料理 加熱器具の扱い |
| 3 製作 ティッシュペーパー入れ 基礎縫い | 11 調理実習 炊飯 みそ汁 |
| 4 製作 袋 ミシン縫い | 12 調理実習 野菜いため |
| 5 製作 袋 ミシン縫い | 13 調理実習 ロールケーキ おやつ作りの計画 |
| 6 製作 エプロン 型紙の作成・布の裁断 | 14 調理実習 おやつ 調理題材のまとめ |
| 7 製作 エプロン 縫製 仕上げ | 15 定期試験 |
| 8 製作題材のまとめ 調理題材の予告 | |

〔テキスト〕 鈴木洋子編 『初等家庭科ワークブック』、櫻井純子他著 『わたしたちの家庭科5・6年』 開隆堂

〔参考文献〕 小学校学習指導要領解説 家庭編 文部科学省（平成20年）

〔授業形態〕 講義・実習

〔成績評価の方法〕 レポート・作品 40%、定期試験 30%、平常点 30%

31109

家庭科教育法Ⅱ

W 菱田道代

㊦教材研究家庭Ⅱ

〔授業題目〕 小学校家庭科の教材研究

〔概要〕 教科書に掲載されている題材や、一般的に多く扱われている題材の実習や製作を行う。実験・実習・製作を通して、題材の特徴や課題を検討し、教材研究を進めていく。

〔到達目標〕 実習及び製作学習の意義と役割を理解する。食品の調理特性や、製作素材の性質を理解し、指導に必要な技術指導を習得する。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1 家庭科の製作・実習題材について | 9 調理実習 野菜 調理用具・器具の扱い |
| 2 製作 フェルトの小物入れ ボタンつけ | 10 調理実習 卵料理 加熱器具の扱い |
| 3 製作 ティッシュペーパー入れ 基礎縫い | 11 調理実習 炊飯 みそ汁 |
| 4 製作 袋 ミシン縫い | 12 調理実習 野菜いため |
| 5 製作 袋 ミシン縫い | 13 調理実習 ロールケーキ おやつ作りの計画 |
| 6 製作 エプロン 型紙の作成・布の裁断 | 14 調理実習 おやつ 調理題材のまとめ |
| 7 製作 エプロン 縫製 仕上げ | 15 定期試験 |
| 8 製作題材のまとめ 調理題材の予告 | |

〔テキスト〕 鈴木洋子編 『初等家庭科ワークブック』、櫻井純子他著 『わたしたちの家庭科5・6年』 開隆堂

〔参考文献〕 小学校学習指導要領解説 家庭編 文部科学省（平成20年）

〔授業形態〕 講義・実習

〔成績評価の方法〕 レポート・作品 40%、定期試験 30%、平常点 30%

31109

家庭科教育法Ⅱ

W 丸山智彰

㊦教材研究家庭Ⅱ

〔授業題目〕 小学校家庭科教育法（教材研究）

〔概要〕 食生活学習については、小学校家庭科において一般的に扱われている調理実習を行なう。食材によっては、調理実験を行なうこともある。衣生活学習については、被服材料実験および被服製作実習を行なう。製作には、小学校の教科書に掲載の題材を扱う。

〔授業の到達目標及びテーマ〕 ・小学校家庭科における実習および製作学習の意義と役割を理解する。 ・小学校家庭科の食生活学習において扱われている食品の調理特性を理解する。 ・小学校家庭科の調理実習の指導に必要な技術技能を習得する。 ・小学校家庭科の衣生活学習において扱われている布の性質を理解する。 ・小学校家庭科の被服製作の指導に必要な技術技能を習得する。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| 第1回 家庭科の実習題材について | 第9回 調理実習（調理用具・器具の扱い、生野菜の調理） |
| 第2回 繊維の鑑別、布目の方向性、裁縫道具の扱い、基礎縫いの練習 | 第10回 調理実習（加熱調理器具の扱い、卵の調理） |
| 第3回 ティッシュペーパー入れの作成（手縫い）、ボタンつけ | 第11回 調理実習（炊飯） |
| 第4回 小物入れの作製（ミシン縫いの練習） | 第12回 調理実習（みそ汁、野菜いため） |
| 第5回 袋の作製（ミシン縫いの練習） | 第13回 食生活の学習の実習題材を考える（おやつづくりの計画） |
| 第6回 エプロンの製作（型紙の作成） | 第14回 調理実習（おやつ） |
| 第7回 エプロンの製作（縫製） | 第15回 定期試験 |
| 第8回 衣生活学習の製作題材を考える | |

〔テキスト〕 鈴木洋子編『初等家庭科ワークブック』、櫻井純子他著『わたしたちの家庭科5・6年』（開隆堂）

〔参考文献〕 小学校学習指導要領解説 家庭編 文部科学省（平成20年）

〔授業形態〕 講義・実習

〔成績評価の方法〕 レポート作品 50%、定期試験 20%、平常点 30%

31122

幼児教育課程総論

S 埋橋玲子

㊦幼児教育課程総論

〔授業題目〕 幼稚園教育課程の意義及び編成

〔概要〕 保育環境構成と教師の介入という観点からの望ましい物的・人的環境とは何か。クラス編成、保育年限、長・中・短期指導計画、個人差への対応など多様なカリキュラム編成要件を学ぶ。

〔到達目標〕 幼稚園教育の目的と目標を理解し、それらの達成にむけて適切なカリキュラム編成を行うにあたって必要な基礎知識の習得。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 就学前教育の意義と目的 | 9 「期」の考え方 |
| 2 幼稚園教育要領概要 | 10 活動形態の考え方 |
| 3 幼稚園教育の目的と目標 | 11 活動場面の設定と教師の役割① |
| 4 教育課程編成の基本 | 12 活動場面の設定と教師の役割② |
| 5 「ねらい」と「内容」 | 13 個人差への対応 |
| 6 「領域」とは | 14 家庭・地域との連携 |
| 7 指導計画作成上の一般的留意事項 | 15 定期試験 |
| 8 長期・中期・短期計画 | |

〔テキスト〕 『幼稚園教育要領』 フレーベル館、石垣恵美子他著『新版 幼児教育課程論入門』 建帛社

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 90%、平常点 10%

31123

保育方法論

W 埋橋玲子

㊦保育方法論

〔授業題目〕 幼児教育の方法及び技術

〔概要〕 世界の著名な保育方法について学ぶ。また、『保育環境評価スケール』を用いて保育の構成要件について具体的に理解する。

〔到達目標〕 保育環境構成と教師の教育的介入に注目し、遊びを通して子どもの情緒や社会性、認知的発達をどのように促すかについて考察し専門的知識を習得。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 1 保育環境の定義とその重要性 | 9 プロジェクト・アプローチ |
| 2 幼児教育における教師の教育的介入の重要性 | 10 モンテッソーリ・メソッド |
| 3 子どもの発達と遊び | 11 シュタイナー |
| 4 保育環境評価スケールの背景となる考え方 | 12 保育環境向上への取り組み（日本の事例①） |
| 5 ハイ・スコープ | 13 保育環境向上への取り組み（日本の事例②） |
| 6 クリエイティブ・カリキュラム | 14 評価・立案・実行・振り返りのプロセス |
| 7 レジヨ・アプローチ | 15 定期試験 |
| 8 テファリキ（ニュージーランドのカリキュラム） | |

〔テキスト〕 T. ハームス『保育環境評価スケール①幼児版』法律文化社

〔参考文献〕 授業中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 90 %、平常点 10 %

31124

保育内容研究Ⅰ（健康）

W 木本泰洋

㊦保育内容研究Ⅲ（健康）

〔授業題目〕 幼児期における運動と遊戯

〔概要〕 幼稚園教育における領域「健康」の目的、内容を理解し、子どもの健全な発育・発達を学び、健康的な生活環境を創り上げていくための保護者や保育者の基礎を学習する。

〔到達目標〕 子どもの発育・発達について十分理解した上で、多様な子どもの運動・遊戯が思考できる。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------------|-----------------------|
| 1 オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等） | 8 幼児期の精神発達 |
| 2 幼稚園教育のねらいと内容 | 9 幼児期における社会性の発達 |
| 3 健康の定義 | 10 幼児期における基本的生活習慣 |
| 4 現代社会と子どもの健康生活 | 11 幼児期におけるリズム感の確立と個人差 |
| 5 大人の基本的な役割 | 12 幼児期における運動 |
| 6 幼児期の身体の発育・発達 | 13 幼児期における遊戯 |
| 7 幼児期の体力・運動能力の発達 | 14 幼児期における安全管理 |
| | 15 定期考査 |

〔テキスト〕 授業中紹介する

〔参考文献〕 幼稚園教育要領 文部科学省

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 平常点（6割）、定期考査（4割）

31127

保育内容研究Ⅳ（言葉）

S 埋橋玲子

〔授業題目〕 保育内容「言葉」の指導法

〔概要〕 言語発達の心理学的理解、伝統的な歌や遊び、絵本、紙芝居、人形劇、ゲーム、言葉遊び、オーディオ・ビジュアルの活用について。幼児のコミュニケーション技能を発達させるための指導技術。

〔到達目標〕 幼児の言葉への興味・関心を喚起し、喜んで聞いたり話したりする態度を育て、言葉に対する感覚を養うために必要な知識・技能の獲得。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 1 領域「言葉」のねらいと内容 | 9 言語発達とおとなのかかわり |
| 2 言語発達の様相 | 10 幼児とコンピュータ・テレビ |
| 3 わらべうた① | 11 素話・ストーリーテリング |
| 4 わらべうた② | 12 ペープサート、パネルシアター等 |
| 5 絵本との出会い | 13 文化的多様性と言葉 |
| 6 よい絵本とは | 14 言語発達のためのカリキュラムと環境構成 |
| 7 言葉遊びとは | 15 定期試験 |
| 8 言葉遊び・教材作成 | |

〔テキスト〕 高濱裕子・無藤隆『領域・言葉』萌文書林、文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 50 %、作品など 50 %

31130

幼児理解 (教育相談を含む)

W 韓 在熙

㊦ 幼児心理学

〔授業題目〕 幼児の理解の理論及び方法

〔概要〕 大人との関係性に支えられて発達主体である子どもが成長するという発達観と発達段階に子どもの内側で起こっている力の充実や葛藤を理解する視点を踏まえながら月齢・年齢ごとの発達の姿を学ぶ。

〔到達目標〕 子どもの発達に関する基本的知識を学び、子どもの発達の特徴や発達に影響を及ぼす乳幼児教育者と子どもとの関係を理解すること目的とする。

〔授業計画〕

- | | |
|--|---|
| 1 発達の主体としての子ども観 | 8 幼児期の発達の世界への飛躍 (大きな意図、目的と立ち直りの力) |
| 2 発達をみる目・発達段階について (発達の質的転換とそれを可能にするエネルギー) | 9 2～3歳の発達の世界 (比べる力、見通しの力、イメージの世界) |
| 3 乳児期前半の発達の姿 (生後2ヶ月ころ) (非対称な姿勢から対称的な姿勢へ) | 10 4歳になりゆく子どもたち (ふたつの制御を結びつける、すじ道を作ろうとする) |
| 4 乳児期前半の発達の姿 (生後4ヶ月ころ) (他者に笑いかけるといった主人公への生まれかわり) | 11 5～6歳の発達の世界 (内面的思考、中間的世界、系列化) |
| 5 乳児期前半の発達の姿 (生後8ヶ月ころ) (「怖いけど興味がある」といった矛盾を乗り越える) | 12 発達のつまずき (発達障がい) と支援 (二重の壁という視点、学童期への見通し) |
| 6 乳児期前半の発達の姿 (生後10ヶ月ころ) (ふたつのもののつながりを作る主人公へ) | 13 保護者へのカウンセリング的アプローチ (幼児教育の専門家としての親支援) |
| 7 幼児期の発達の世界への飛躍の準備 (言葉の土台、身辺自立) | 14 幼児教育者と子どもの関係 (子どもの発達にとって教育者の役割) |
| | 15 定期試験及びまとめ |

〔テキスト〕 白石正久著『発達の扉 (上)』 (かもがわ出版)

〔参考文献〕 丸山美和子『小学校までにつけておきたい力と学童期の見通し』 (かもがわ出版)

〔授業形態〕 講義・グループ討議・小レポート

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、出席及び課題 30%

31209

英語学概説

S 石原田正廣

〔授業題目〕 英語学研究のあり方

〔概要〕 この概説では、英語という言語には、どのような特徴があり、それを研究するにはどのような方法があるのかについて紹介し、英語学を学習する上での基本的概念の習得を図る。目標は、学期末には各自が実際に英語学研究を行えるようになることである。授業計画は、音韻論、形態論、統語論、文法論、意味論、語用論、規範文法と記述文法、生成文法に関する内容で構成する。授業形態は、基本的には講義形式で進めていくが、毎回できるだけ多くの受講生に何らかの発言を促し、英語学への興味と関心を深めたい。

〔到達目標〕 英語学の主要な分野を網羅的に理解し、具体的な英語学研究を実践する能力を養うこと。

〔授業計画〕

- | | | |
|---------------|----------------|----------------|
| 1 印欧語族 | 6 比較言語学から構造言語学 | 11 日本の英語学史 |
| 2 古英語から現代英語まで | 7 生成文法 | 12 現代英文法 |
| 3 世界の英語 | 8 認知文法 | 13 英語の語彙と辞書の発達 |
| 4 英語の多様性 | 9 情報構造と談話分析 | 14 心理言語学と神経言語学 |
| 5 規範文法と記述文法 | 10 コーパス言語学 | 15 定期試験 |

〔テキスト〕 八木克正編、『新英語学概論』、英宝社

〔参考文献〕 大塚高信・中島文雄『新英語学辞典』 (研究社)

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 60%、平常成績 40%

31221
英語音声学

W 井川好二

〔概要〕 英語音声学の理論を学び、自らも教師にふさわしい英語音声の獲得を目指す授業内容とする。音声発生メカニズム、英語の音韻についての理解を図り、音声学の基礎知識を学びつつ、英語の聞き取り教材なども使用し英語と日本語の音声比較を行い、英語教育への実践的応用がスムーズに行えるよう配慮する。また、学生個人の英語音声獲得は、(1) 母音、子音の作り方、(2) 単語の発音、(3) リズム・イントネーションの修得、などを目指す。講義／実習型授業。

〔到達目標〕 言語学の一分野である「音声学」について概論を学ぶと同時に、学生自身の英語音声も、英語を教える教師にふさわしいものとなることを目指し訓練する。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------------------------|---|
| 1 Introduction to the course | 9 英語音声実習 (2) 母音／子音 (b) + プリント教材 |
| 2 Sound System (1) + プリント教材 | 11 英語音声実習 (3) 単語 + プリント教材 |
| 3 Sound System (2) + プリント教材 | 12 英語音声実習 (4) リズム・イントネーション (a) + プリント教材 |
| 4 Sound System (3) + プリント教材 | 13 英語音声実習 (5) リズム・イントネーション (b) + プリント教材 |
| 5 Sound System (4) + プリント教材 | 14 復習 英語音声実習 (1) ~ (5) + プリント教材 |
| 6 Sound System (5) + プリント教材 | 15 定期試験 |
| 7 復習 Sound System (1) ~ (5) + プリント教材 | |
| 8 英語音声実習 (1) 母音／子音 (a) + プリント教材 | |

〔テキスト〕 Avery, P., & Ehrich, S. (Eds.) (1995). *Teaching American English pronunciation*. Oxford: OUP. ACROSS (1995). 英語教師のための英語発音教本「in-process: Stage 1」Osaka: ACROSS Press.

〔参考文献〕 特になし。

〔授業形態〕 演習・実習

〔成績評価の方法〕 定期試験 60%、平常点 40%

31222
児童英語教育論

S 三好康子

〔授業題目〕 子どもの精神発達と早期英語教育

〔概要〕 英語嫌いを作らないことを第一義とする児童英語教育は、小学校入学前の母語の自然な習得過程を想定することによって現実化される。小学校における話すこと、聞くことの2技能の発達から、中学校、高校の読むこと、書くことを含む4技能の全面的な英語コミュニケーション能力の発達へ。いかに結び付けていくかについても考える。コミュニケーション能力の発達を通して異文化理解を促し、共生・協調性を持つ全人的発達を目指す児童英語教育の理論と実践について考えていく。

〔到達目標〕 子供の精神発達の段階に応じた早期英語教育のあり方と、指導計画の立て方、及び、実践能力の形成

〔授業計画〕

- | | |
|---|---|
| 1 小学校英語教育導入の背景と現状及び課題について | 10 小学校英語教育の目標の立て方と年間指導計画の作成 |
| 2 E U 及び東アジアの早期英語教育の現状 | 11 指導案の作成の仕方について |
| 3 脳科学と言語 | 12 リスニング・スピーキングの話し言葉中心の実践的コミュニケーション能力の形成指導の実際 |
| 4 子供の脳の発達と言語習得 | 13 ティームティーチングについての考え方と実践の進め方 |
| 5 子供の脳の発達と小学校英語教育 | 14 クラスルーム・イングリッシュの考え方とその実際 |
| 6 英語の実践的コミュニケーションとは何か | 15 教材・教具の作成と指導の実際 |
| 7 異文化理解を促す小学校英語教育 | |
| 8 英語教育全体における小学校英語教育の役割 | |
| 9 リスニング・スピーキングの二技能中心の英語教育から、リーディング・ライティングを含む四技能教育への展開について | |

〔テキスト〕 『小学校英語教育の進め方―「ことばの教育」として』 岡秀夫・金森強編著 成美堂

〔参考文献〕 『思考と言語』 ヴィゴツキー著 柴田義松訳 新読書社、『児童心理学講義』 ヴィゴツキー著 柴田義松訳者代表 新読書社、『これからの小学校英語教育―理論と実践―』 樋口忠彦・金森強・国方太司編 研究社、『小学校英語活動実践の手引き』 文部科学省 開隆堂、『小学校英語活動 365 日の授業細案』 熊本大学教育学部附属小学校著 明治図書、『英語ノート 5 年生』 文部科学省、『英語ノート 6 年生』 文部科学省

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 平常点 30%、定期試験 70%

31223

学習英文法セミナー I

S 三好康子

〔授業題目〕 英語教育と英文法

〔概要〕 中学・高校で学んできた学校文法（英文法）を振り返る。学校文法（英文法）の用語と文法項目の正確な理解が目標である。中学・高校の英語教科書を取り上げ、各文法項目についての分かり易い説明を行い、さらに新聞雑誌などから用例を取り出して研究する。特に、日本人学習者にとって理解が難しいとされる項目である時制、関係詞、受動態、冠詞、前置詞、動詞の用法等について、重点的に取り上げて、検討する。授業形態は主に演習形式である。

〔到達目標〕 教師のための学習英文法という視点で、中学・高校で学んできた学校文法を振り返り、用語と文法項目を正確に理解すること。

〔授業計画〕

- | | | |
|-------------|--------------|---------------|
| 1 動詞と文型 I | 6 助動詞 | 11 能動態と受動態 II |
| 2 動詞と文型 II | 7 不定詞 | 12 関係詞 I |
| 3 動詞と文型 III | 8 分詞 | 13 関係詞 II |
| 4 時制と相 I | 9 動名詞 | 14 前置詞 |
| 5 時制と相 II | 10 能動態と受動態 I | 15 定期試験 |

〔テキスト〕 村田勇三郎・成田圭市著 『英語の文法』 大修館書店

〔参考文献〕 『Departure Oral Communication I Revised Edition』 岡秀夫他著（大修館書店）、『PROMINENCE English I』 田辺正美他著（東京書籍）、『PROMINENCE English II』 中田清一他著（東京書籍）、『Mainstream Writing Course』 山本良一著（増進堂）、『Genius English Readings』 岡田伸夫他著（大修館書店）、『NEW HORIZON English Course 1』 笠島準一他著（東京書籍）、『NEW HORIZON English Course 2』 笠島準一他著（東京書籍）、『NEW HORIZON English Course 3』 笠島準一他著（東京書籍）

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 平常点 40 %、定期試験 60 %

31223

学習英文法セミナー I（3人でリレー）

S 塚本美紀 辻岡尚子 灰田 穰

〔授業題目〕 英語教育と英文法

〔概要〕 中学・高校で学んできた学校文法（英文法）を振り返る。学校文法（英文法）の用語と文法項目の正確な理解が目標である。中学・高校の英語教科書を取り上げ、各文法項目についての分かり易い説明を行い、さらに新聞雑誌などから用例を取り出して研究する。特に、日本人学習者にとって理解が難しいとされる項目である時制、関係詞、受動態、冠詞、前置詞、動詞の用法等について、重点的に取り上げて、検討する。授業形態は主に演習形式である。

〔到達目標〕 教師のための学習英文法という視点で、中学・高校で学んできた学校文法を振り返り、用語と文法項目を正確に理解すること。

〔授業計画〕

- | | | |
|-------------|--------------|---------------|
| 1 動詞と文型 I | 6 助動詞 | 11 能動態と受動態 II |
| 2 動詞と文型 II | 7 不定詞 | 12 関係詞 I |
| 3 動詞と文型 III | 8 分詞 | 13 関係詞 II |
| 4 時制と相 I | 9 動名詞 | 14 前置詞 |
| 5 時制と相 II | 10 能動態と受動態 I | 15 定期試験 |

〔テキスト〕 開講時指示する

〔参考文献〕 『Departure Oral Communication I Revised Edition』 岡秀夫他著（大修館書店）、『PROMINENCE English I』 田辺正美他著（東京書籍）、『PROMINENCE English II』 中田清一他著（東京書籍）、『Mainstream Writing Course』 山本良一著（増進堂）、『Genius English Readings』 岡田伸夫他著（大修館書店）、『NEW HORIZON English Course 1』 笠島準一他著（東京書籍）、『NEW HORIZON English Course 2』 笠島準一他著（東京書籍）、『NEW HORIZON English Course 3』 笠島準一他著（東京書籍）

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 平常点 40 %、定期試験 60 %

31224

学習英文法セミナーⅡ

W 三好康子

〔授業題目〕 英語教育と英文法

〔概要〕 教師のための学習英文法という視点で、中学・高校英語教科書を検討し、指導の改善を試みる事が目標である。授業内容は、英語学関連の諸研究を基にして、学校文法（英文法）の問題点を探る。和製英語とその正しい英語表現、口語的表現と文語的表現の区別、教科書に現れる文例等について検討を行い、文法指導のあり方を考える。実際に教壇に立った時に役立つ文法教材や授業準備の材料等を考えていく。各文法項目の効果的な指導法を考える。授業形態は主に演習形式である。

〔到達目標〕 教師のための学習英文法という視点で、中学・高校英語教科書を検討し、指導の改善を試みる。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------|----------------------------|
| 1 和製英語とその正しい英語表現 | 9 中2英語教科書研究 |
| 2 口語的表現（文の構造と主語） | 10 中3英語教科書研究 |
| 3 口語的表現（時制） | 11 高校オールコミュニケーション教科書研究 |
| 4 口語的表現（受動態） | 12 高校英語Ⅰ教科書研究 |
| 5 口語的表現（否定） | 13 高校英語Ⅱ教科書研究 |
| 6 口語的表現（接続） | 14 高校リーディング教科書、ライティング教科書研究 |
| 7 口語的表現（待遇表現） | |
| 8 中1英語教科書研究 | 15 定期試験 |

〔テキスト〕 小寺茂明著『英語教科書と文法教材研究』大修館書店

〔参考文献〕 『英語指導と文法研究』 小寺茂明（大修館書店）、『日英比較話しことばの文法』 水谷信子（くろしお出版）、『Departure Oral Communication I Revised Edition』 岡秀夫他著（大修館書店）、『PROMINENCE English I』 田辺正美他著（東京書籍）、『PROMINENCE English II』 中田清一他著（東京書籍）、『Genius English Readings』 岡田伸夫他著（大修館書店）、『Mainstream Writing Course』 山本良一著（増進堂）、『NEW HORIZON English Course 1』 笠島準一他著（東京書籍）、『NEW HORIZON English Course 2』 笠島準一他著（東京書籍）、『NEW HORIZON English Course 3』 笠島準一他著（東京書籍）

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 平常点40%、定期試験60%

31224

学習英文法セミナーⅡ（3人でリレー）

W 塚本美紀 辻岡尚子 灰田 穰

〔授業題目〕 英語教育と英文法

〔概要〕 教師のための学習英文法という視点で、中学・高校英語教科書を検討し、指導の改善を試みる事が目標である。授業内容は、英語学関連の諸研究を基にして、学校文法（英文法）の問題点を探る。和製英語とその正しい英語表現、口語的表現と文語的表現の区別、教科書に現れる文例等について検討を行い、文法指導のあり方を考える。実際に教壇に立った時に役立つ文法教材や授業準備の材料等を考えていく。各文法項目の効果的な指導法を考える。授業形態は主に演習形式である。

〔到達目標〕 教師のための学習英文法という視点で、中学・高校英語教科書を検討し、指導の改善を試みる。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------|----------------------------|
| 1 和製英語とその正しい英語表現 | 9 中2英語教科書研究 |
| 2 口語的表現（文の構造と主語） | 10 中3英語教科書研究 |
| 3 口語的表現（時制） | 11 高校オールコミュニケーション教科書研究 |
| 4 口語的表現（受動態） | 12 高校英語Ⅰ教科書研究 |
| 5 口語的表現（否定） | 13 高校英語Ⅱ教科書研究 |
| 6 口語的表現（接続） | 14 高校リーディング教科書、ライティング教科書研究 |
| 7 口語的表現（待遇表現） | |
| 8 中1英語教科書研究 | 15 定期試験 |

〔テキスト〕 開講時指示する

〔参考文献〕 『英語指導と文法研究』 小寺茂明（大修館書店）、『日英比較話しことばの文法』 水谷信子（くろしお出版）、『Departure Oral Communication I Revised Edition』 岡秀夫他著（大修館書店）、『PROMINENCE English I』 田辺正美他著（東京書籍）、『PROMINENCE English II』 中田清一他著（東京書籍）、『Genius English Readings』 岡田伸夫他著（大修館書店）、『Mainstream Writing Course』 山本良一著（増進堂）、『NEW HORIZON English Course 1』 笠島準一他著（東京書籍）、『NEW HORIZON English Course 2』 笠島準一他著（東京書籍）、『NEW HORIZON English Course 3』 笠島準一他著（東京書籍）

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 平常点40%、定期試験60%

31227

英米文学概論

S 松田道郎

〔授業題目〕 英・米の現代詩を学ぶ。

〔概要〕 各々の時代にどのような流れがあったのか、また、個々の詩人はどのような特質を具えていたのかを、なるべく作品に即して見ていく。授業形態は講義を中心とするが、受講者にも出来るだけ作品を読ませる。上記の内容に従って授業計画を作成する。テキストはこちらで用意する。

〔到達目標〕 英米文学と一口に言っても、その範囲は小説・詩・戯曲・随筆など多岐にわたる。本講義は、主に詩に焦点をあて、英米文学を概観することを目標とする。

〔授業計画〕

第1回 講義の説明	第9回 エミリー・ディキンソン
第2回 W.B. イエーツ	第10回 エズラ・パウンド
第3回 T.S. エリオット	第11回 ウィリアム・カーロス・ウィリアムズ
第4回 エドウィン・ミューア	第12回 ウォーレス・ステイブンス
第5回 ロバート・グレイブズ	第13回 J.C. ランサム
第6回 ウィリアム・エンブソン	第14回 アラン・テート
第7回 W.H. オーデン	第15回 テスト
第8回 ステイブンス・スペンダー	

〔テキスト〕

〔参考文献〕 随時、講義中に紹介する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 テスト 70%、レポート 30%

31228

英米文学講読

S 赤松恵子

〔授業題目〕 20世紀アメリカ短編講読

〔概要〕 失われた世代の作家と言われる作家の短編を講読する。読むのはアンダーソンとフォークナーである。毎週5ページほど進む。フォークナーの作品はCDで朗読を聴く。

〔到達目標〕 読解力と文学的な感性の養成。アメリカ文学について常識的な知識の獲得。

〔授業計画〕

1 Lost Generation の作家たちと Anderson について講義	8 中間テストと Faulkner について講義
2 Loneliness 15-19 講読	9 That Evening Sun by Faulkner 75-79 講読
3 同上 20-24	10 同上 80-84
4 同上 25-29	11 同上 85-89
5 同上 30-34	12 同上 90-94
6 同上 35-39	13 同上 95-101
7 同上 40-44	14 まとめ
	15 定期試験

〔テキスト〕 野崎孝・高橋正雄注『Contemporary American Short Stories III』（南雲堂）

〔参考文献〕 大橋健三郎「危機の文学 アメリカ30年代の小説」南雲堂

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 67% + 中間テスト 33%

31228

英米文学講読

S 赤松恵子 原田 保

〔授業題目〕 20世紀アメリカ文学

〔概要〕 20世紀のアメリカ文学の名作として知られているもので、[人生や愛]について考えさせる短編小説を原文で読む。文章をやさしく書き直されたものと違って、原文に接することは新鮮な感覚と感動を与えるだけでなく、語学的に見ても英語の文章の妙味を味わえるものである。語彙力、読解力を高めるとともに、アメリカ文化や現代の諸問題を日本の現状と比較研究し、互いに共通する内容の理解を深める。

〔到達目標〕 英米文学の特質や魅力をわからせるために、現代アメリカ文学を代表する作家の短編小説を原文で読み、文学に親しみ、文章の妙味を味わう。語彙力、読解力を養うとともに、文化的、社会的視点から人間が関わる諸問題の理解を深めることを目的とする。

〔授業計画〕

- | | |
|--|---|
| 1 現代アメリカ小説概説 | 9 同上 |
| 2 O. Henry: <i>The Gift of Magi</i> | 10 同上 |
| 3 同上 | 11 Carson McCullers: <i>A Tree, A Rock, A Cloud</i> |
| 4 Ernest Hemingway: <i>The End of Something</i> | 12 同上 |
| 5 同上 | 13 Bernard Malamud: <i>The First Seven Years</i> |
| 6 Erskine Caldwell: <i>The Strawberry Season</i> | 14 同上 |
| 7 同上 | 15 定期試験 |
| 8 William Faulkner: <i>A Rose for Emily</i> | |

〔テキスト〕 O. Henry, E. Hemingway, W. Faulkner 他3名 岩本 巖、森田 孟（編注者）、*American Stories of Love and Life*、朝日出版社

〔参考文献〕 「英米小説序説」（松柏社）、「英米青春小説＜作品ガイド120＞」（ミネルヴァ書房）

〔授業形態〕 講義・演習・双方向授業

〔成績評価の方法〕 定期試験70%、レポート、小テストなどの平常の成績30%

31229

英米児童文学講読 I

S 三浦伊都枝

〔概要〕 テキストに採りあげられているイギリスの伝承童謡を読み解き、児童用に作られたビデオ画像を参考に、英米の児童がそれらの童謡を楽しむのに近い体験をしながら、その多彩さ・豊かさを実感する。

〔到達目標〕 英米の児童が親しむ伝承童謡に対する理解を深めるのが本授業の目標である。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------------|------------------------|
| 1 伝承童謡、ナーサリー・ライムズの成り立ちについて。 | 7 集団遊び唄。 |
| 2 ハンプティ・ダンプティなど最も人気のある登場人物。 | 8 積みかさね唄。 |
| 3 幼児をあやすときの唄、教え唄。 | 9 幼児をひざに乗せてあやすときの唄。 |
| 4 古きよきイングランドをしのばせる唄。 | 10 手遊び唄。 |
| 5 ノンセンスな唄。 | 11 アルファベットや曜日を覚えるための唄。 |
| 6 子どもたちの人気者。 | 12 ロンドンが歌われている唄。 |
| | 13 クリスマスを祝う唄。 |
| | 14 子守唄。 |

〔テキスト〕 安藤幸江編『ビデオで楽しむマザー・グース』北星堂書店

〔参考文献〕 平野敬一『マザー・グースの唄』（中公新書） Iona and Peter Opie, *The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes* (Oxford U.P.) William S. Baring-Gould and Ceil Baring-Gould, *The Annotated Mother Goose* (Meridian)

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 レポート60%、平常点40%

31230

英米児童文学講読Ⅱ

W 三浦伊都枝

〔概要〕 英米児童文学の代表的な作品をとりあげ、それらが英米児童文学発展上どのような意味を持つのか考えながら、作品の鑑賞に挑戦する。作品の全体を翻訳により理解し、作品の一部を原文で読む。

〔到達目標〕 英米児童文学の歴史とその豊富な作品について、基本的な知識を得ることと、実際に児童文学を鑑賞する力を身につけることを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------------|--------------------------------|
| 1 英米児童文学の歴史とジャンル。 | 9 自然の癒し。(『秘密の花園』) |
| 2 おとぎばなしをどう読むか。(『三匹の子ぶた』) | 10 開拓時代の家族像。(『大きな森の小さな家』) |
| 3 絵本の手本。(『ピーター・ラビット』) | 11 アメリカ文学の少年像。(『トム・ソーヤー』) |
| 4 子ども部屋のなかの語り。(『クマのプーさん』) | 12 イギリス児童文学の黄金時代。(『トムは真夜中の庭で』) |
| 5 子どもと大人のあいだで。(『不思議の国のアリス』) | 13 サーキュラーマジック。(『ピーター・パン』) |
| 6 日常生活のなかの魔法。(『砂の妖精』) | 14 子ども読者の熱烈支持。(『マチルダはちいさな天才』) |
| 7 冒険物語の魅力。(『宝島』) | |
| 8 少女の成長。(『赤毛のアン』) | |

〔テキスト〕 英文はプリント。日本語訳は各自入手すること。

〔参考文献〕 日本イギリス児童文学学会編『英米児童文学ガイド：作品と理論』（研究社）、本多英明編著『英米児童文学の宇宙』（ミネルヴァ書房）、その他ジャンル別に授業時に紹介する。

〔授業形態〕

〔成績評価の方法〕 レポート 60 %、平常点 40 %

31241

英国伝承文学（詩・諺）

S 石原田正廣

〔授業題目〕 英国伝承文学の精神と伝統

〔概要〕 イギリスの伝承文学（詩・諺）における精神と伝統を学ぶことを目的として、なるべく多くの作品にあたる。学期の前半を英詩に、後半を英語の諺にあて、韻律法、作詩法、『マザー・グース』、諺、言葉遊びなどを扱い、英語英文学の教養を高める。授業は講義・演習形式で進め、講義では、各時代の歴史的状況や作品が生まれた背景、英語の技巧や音調などを教授する。演習では、受講生が詩人や作品などについて調べたことを発表する。これら一連の活動によって柔軟で豊かな感受性や批評的知性を養いたい。

〔到達目標〕 英語の詩や諺を鑑賞・理解し、その背景にある英国国民の知恵を学ぶことによって柔軟で豊かな感受性や批評的知性を養うこと。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------|--------------------|
| 1 イギリスの伝承文学概説 | 9 マザー・グースⅢ（世相） |
| 2 韻律法と作詩法 | 10 マザー・グースⅣ（ナンセンス） |
| 3 英詩研究Ⅰ（春の歌） | 11 諺と名句と慣用句 |
| 4 英詩研究Ⅱ（夏の歌） | 12 英語と日本語の諺 |
| 5 英詩研究Ⅲ（秋の歌） | 13 諺に見る英語の歴史 |
| 6 英詩研究Ⅳ（冬の歌） | 14 意味と解釈の変遷 |
| 7 マザー・グースⅠ（暦） | 15 定期試験 |
| 8 マザー・グースⅡ（歴史） | |

〔テキスト〕 プリントを配布する。

〔参考文献〕 Geoffrey N. Leech, *A Linguistic Guide to English Poetry* (Longman), Peter Milward, *Seasonal Poems of England*（南雲堂）、Iona & Peter Opie, *The Book of Nursery Rhymes* (Penguin Books), William S. Baring-Gould & Ceil Baring-Gould, *The Annotated Mother Goose* (New American Library), F.P.Wilson, *The Oxford Dictionary of English Proverbs* (Oxford Clarendon Press).

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 60 %、平常成績 40 %

31243

コミュニケーションセミナーⅠ

S 井川好二 Brian Nuspliger Steven Mondy

〔概要〕 要] 英語によるコミュニケーション能力 (Communicative Competence) の育成を目標とする。受講生が必要十分な英語による聴解や読解の Input が得られるよう教材は、その量と質を確保できるよう配慮するが、Output の機会にも応分に留意し、コミュニケーションの4技能 (Speaking, Listening, Reading, Writing) のバランスのとれた発達を促進することとする。授業の形式は双方向授業とする。「コミュニケーション・セミナーⅠ」では特に、Listening による Input を重視した授業を行う。また、英語・英語文化の「インフォーマント」としてのネイティブ教員が即聴教材を中心に、英語教育のロールモデルとしての日本人教員が予習教材を中心に、相互補完的に相当することとする。

〔到達目標〕 Non-Native Speaker の英語教師として、英語を教えるために必要な英語運用能力/コミュニケーション能力の育成を、3つコース、コミュニケーション・セミナーⅠ、Ⅱ、Ⅲにおいて段階的に行うこととするが、コミュニケーション・セミナーⅠでは、その基礎編 (1) として聴解力の向上を目指す授業内容とする。

〔授業計画〕

- | | |
|--|---|
| 1 Introduction to the course | 8 Topics on Society (1) + プリント教材 |
| 2 Topics on People (1) + プリント教材 | 9 Topics on Society (2) + プリント教材 |
| 3 Topics on People (2) + プリント教材 | 11 Topics on Society (3) + プリント教材 |
| 4 Topics on People (3) + プリント教材 | 12 Topics on Society (4) + プリント教材 |
| 5 Topics on People (4) + プリント教材 | 13 Topics on Society (5) + プリント教材 |
| 6 Topics on People (5) + プリント教材 | 14 Topics on Society (1) ~ (5) + プリント教材 |
| 7 復習 Topics on People (1) ~ (5) + プリント教材 | 15 定期試験 |

〔テキスト〕 Day, R., & Yamanaka, J. (1999). *Impact topics*. Hong Kong: Longman. およびプリント教材

〔参考文献〕 特になし。

〔授業形態〕 演習・双方向授業

〔成績評価の方法〕 定期試験 60%、小テスト 30%、平常点 10%

31244

コミュニケーションセミナーⅡ

W 高橋 檀 Brian Nuspliger Steven Mondy

〔概要〕 要] 英語によるコミュニケーション能力 (Communicative Competence) の育成を目標とする。受講生が必要十分な英語による聴解や読解の Input が得られるよう教材は、その量と質を確保できるよう配慮するが、Output の機会にも応分に留意し、コミュニケーションの4技能 (Speaking, Listening, Reading, Writing) のバランスのとれた発達を促進することとする。授業の形式は双方向授業とする。「コミュニケーション・セミナーⅡ」では特に、Reading による Input を重視した授業を行う。また、英語・英語文化の「インフォーマント」としてのネイティブ教員が速読教材を中心に、英語教育のロールモデルとしての日本人教員が予習教材を中心に、相互補完的に相当することとする。

〔到達目標〕 Non-Native Speaker の英語教師として、英語を教えるために必要な英語運用能力/コミュニケーション能力の育成を、3つコース、コミュニケーション・セミナーⅠ、Ⅱ、Ⅲにおいて段階的に行うこととするが、コミュニケーション・セミナーⅡでは、その基礎編 (2) として読解力の向上を目指す授業内容とする。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------------|-----------------------------|
| 1 Introduction to the course | 8 Unit 6 + プリント教材 |
| 2 Unit 1 + プリント教材 | 9 Unit 7 + プリント教材 |
| 3 Unit 2 + プリント教材 | 11 Unit 8 + プリント教材 |
| 4 Unit 3 + プリント教材 | 12 Unit 9 + プリント教材 |
| 5 Unit 4 + プリント教材 | 13 Unit 10 + プリント教材 |
| 6 Unit 5 + プリント教材 | 14 復習 Units 6 ~ 10 + プリント教材 |
| 7 復習 Units 1 ~ 5 + プリント教材 | 15 定期試験 |

〔テキスト〕 Ohashi, H., & Dendo, G., (2005). *Ethnic peoples shaping the 21st century*. Tokyo: Seibido およびプリント教材

〔参考文献〕 特になし。

〔授業形態〕 演習・双方向授業

〔成績評価の方法〕 定期試験 60%、小テスト 30%、平常点 10%

31245

コミュニケーションセミナーⅢ

S 高橋 檀 Brian Nuspliger Steven Mondy

〔概要〕 要] 英語によるコミュニケーション能力 (Communicative Competence) の育成を目標とする。受講生が必要十分な英語による聴解や読解の Input が得られるよう教材は、その量と質を確保できるよう配慮するが、Output の機会にも応分に留意し、コミュニケーションの4技能 (Speaking, Listening, Reading, Writing) のバランスのとれた発達を促進することとする。授業の形式は双方向授業とする。「コミュニケーション・セミナーⅢ」では特に、Speaking による Output を重視した授業を行う。また、英語・英語文化の「インフォーマント」としてのネイティブ教員が速読教材を中心に、英語教育のロールモデルとしての日本人教員が予習教材を中心に、相互補完的に相当することとする。

〔到達目標〕 Non-Native Speaker の英語教師として、英語を教えるために必要な英語運用能力/コミュニケーション能力の育成を、3つコース、コミュニケーション・セミナーⅠ、Ⅱ、Ⅲにおいて段階的に行うこととするが、コミュニケーション・セミナーⅢでは、その応用編としてスピーキング力の向上を目指す授業内容とする。

〔授業計画〕

- | | |
|--|--|
| 1 Introduction to the course | 8 Issues in Lifestyles (6) + プリント教材 |
| 2 Issues in Lifestyles (1) + プリント教材 | 9 Issues in Lifestyles (7) + プリント教材 |
| 3 Issues in Lifestyles (2) + プリント教材 | 11 Issues in Lifestyles (8) + プリント教材 |
| 4 Issues in Lifestyles (3) + プリント教材 | 12 Issues in Lifestyles (9) + プリント教材 |
| 5 Issues in Lifestyles (4) + プリント教材 | 13 Issues in Lifestyles (10) + プリント教材 |
| 6 Issues in Lifestyles (5) + プリント教材 | 14 復習 Issues in Lifestyles (6) ~ (10) + プリント教材 |
| 7 復習 Issues in Lifestyles (1) ~ (5) + プリント教材 | 15 定期試験 |

〔テキスト〕 Day, R. & Yamanaka, J. (1998), *Impact issues*. Hong Kong: Lingual House. およびプリント教材

〔参考文献〕 特になし。

〔授業形態〕 演習・双方向授業

〔成績評価の方法〕 定期試験 60%、小テスト 30%、平常点 10%

31246

ライティング

W 井川好二 Brian Nuspliger Steven Mondy

〔概要〕 要] 英語によるコミュニケーション能力 (Communicative Competence) の育成の一環として、和文英訳ではなく、英語で書く技術を養成する授業を行う。授業内容は、ライティングの質を重視するばかりでなく、英語で書く量にも配慮することにより、単に知識としてではなく、実際に使える単語力、文法力を身に付けることを目指す。こうした多作活動に加え、英語によるエッセイ・ライティングに欠かせない、パラグラフ・ランティングの導入、および基本的な文章構成も併せて学習する。双方向授業。日本人教員が主に多作活動を、ネイティブ教員が主にエッセイ・ライティングを、相互補完的に相当することとする。

〔到達目標〕 Non-Native Speaker の英語教師として、英語を教えるために必要な英語運用能力/コミュニケーション能力のうち、英語によるライティング能力の育成を目指す授業内容とする。

〔授業計画〕

- | | |
|---|---|
| 1 Introduction to the course | 8 Unit (6) + プリント教材 |
| 2 Unit (1) + プリント教材 | 9 Unit (7) + プリント教材 |
| 3 Unit (2) + プリント教材 | 11 Unit (8) + プリント教材 |
| 4 Unit (3) + プリント教材 | 12 Unit (9) + プリント教材 |
| 5 Unit (4) + プリント教材 | 13 Unit (10) + プリント教材 |
| 6 Unit (5) + プリント教材 | 14 復習 Units (6) ~ (10) + プリント教材 (エッセイ 2 締め切り) |
| 7 復習 Units (1) ~ (5) + プリント教材 (エッセイ 1 締め切り) | 15 定期試験 |

〔テキスト〕 Zemach, D., & Rumisek, L. (2003) *Success with college writing*. Tokyo: MacMillan. およびプリント教材

〔参考文献〕 Leki, I. (1998). *Academic writing: Exploring processes and strategies*. Cambridge: Cambridge University Press.

〔授業形態〕 演習・実習・双方向授業

〔成績評価の方法〕 定期試験 60%、小テスト 20%、平常点 20%

31247

インターネット英語

W 坂本示洋

〔概要〕 インターネット等を活用した英語教育実践事例を指導目標と授業形態の観点から分類し、それぞれについて、その計画・実践に必要とされる英語運用能力と IT スキルの育成が可能となるような授業計画を作成する。実践事例や英語教育リソースの検討を主とした講義、パソコンを使用しての演習、実践事例の教育的効果に関するグループ討議を組み合わせたものとする。なお、受講人数や、実際の講義時のインターネットの状況によってシラバスを適宜変更する場合もある。

〔到達目標〕 受講者が英語教育におけるインターネット等のメディアの有効性を理解し、それを英語教育の現場において活用できるようになることを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 1 英語学習におけるインターネットの活用方法概説 | 8 様々な情報検索 (4) |
| 2 英語学習支援サイトの活用 (1) | 9 電子メール・掲示板の活用 (1) |
| 3 英語学習支援サイトの活用 (2) | 10 電子メール・掲示板の活用 (2) |
| 4 英語学習支援サイトの活用 (3) | 11 電子メール・掲示板の活用 (3) |
| 5 様々な情報検索 (1) | 12 プロジェクト学習 (1) |
| 6 様々な情報検索 (2) | 13 プロジェクト学習 (2) |
| 7 様々な情報検索 (3) | 14 プロジェクト学習 (3) |
| | 15 定期試験とまとめ |

〔テキスト〕 講義中に適宜 Web サイトなどを指示する。

〔参考文献〕 杉本卓、朝尾幸次郎著『インターネットを活かした英語教育』(大修館書店)

〔授業形態〕 講義・演習・発表

〔成績評価の方法〕 発表・提出物など平常点 50 %、定期試験 50 %

31249

比較文化論

S 井川好二

〔概要〕 本講義では主に英語圏の文化、アジアの文化、日本の文化の3つをとりあげ、「Triangulation 法」で比較することにより、それぞれの文化的特徴をより客観的な理解を育てる。授業では、表面的な現象だけでなく、その内面にある要因も合わせて考察する研究態度を養成する。文献(英語、日本語)および映画、ビデオなどのビジュアル教材も使用。双方向授業。本講義には、文化とはなにか、Triangulation の必要性、日本国内の文化比較、多文化共生社会、「日本人論」なども含まれる。

〔到達目標〕 「文化」には、衣食住をはじめ、宗教、言語、芸術などさまざまな要素が含まれるが、本講義では、英語圏の文化、アジアの文化、日本の文化をとりあげ、3者を比較することにより、それぞれの文化的特徴を、客観的に理解し、「文化」の個性と普遍性に関する知識と意識を養成することを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------------------------|---|
| 1 Introduction to the course 文化とは何か? | 文化 (1) ~ (3) + プリント教材 |
| 2 英語圏の文化 (1) + プリント教材 | 9 日本の文化 (1) + プリント教材 |
| 3 英語圏の文化 (2) + プリント教材 | 11 日本の文化 (2) + プリント教材 |
| 4 英語圏の文化 (3) + プリント教材 | 12 日本の文化 (3) + プリント教材 |
| 5 アジアの文化 (1) + プリント教材 | 13 Triangulation の必要性 + プリント教材 |
| 6 アジアの文化 (2) + プリント教材 | 14 復習 日本の文化 (1) ~ (3) Triangulation の必要性 + プリント教材 |
| 7 アジアの文化 (3) + プリント教材 | 15 定期試験 |
| 8 復習 英語圏の文化 (1) ~ (3)、アジアの | |

〔テキスト〕 Huntington, S. (著) 鈴木主税 (訳) (2000). 「文明の衝突と 21 世紀の日本」 東京: 集英社。梅原猛 (編著) (1991) 「日本とは何なのか」 東京: NHK. およびプリント教材

〔参考文献〕 Scollon, R. & Scollon, S. (1995). *Intercultural communication*. Oxford: Blackwell.

〔授業形態〕 演習・双方向授業

〔成績評価の方法〕 定期試験 60 %、平常点 20 %、レポート 20 %

31250

異文化理解Ⅰ 多文化共生と諸言語 S 城江良和

〔授業題目〕言語とグローバリゼーション

〔概要〕まず消滅に瀕した言語の状況について概観し、その伝統文化の衰退と保存と復活の歴史について講義する。次に英語のグローバル化がもつ明暗の両面、および多言語国家の現状と言語政策について例をあげて説明する。

〔到達目標〕グローバリゼーションのなかで存亡の危機に立たされた少数民族の文化と言語について、その歴史と現状を理解し、文化の多様性について考えること。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------|----------------------------------|
| 1 世界の言語の現状と未来予測 | 10 文化の戦争と文化の共存 |
| 2 言語が消滅する原因 | 11 多言語国家の状況と言語政策：カナダの場合 |
| 3 言語を保存する目的 | 12 多言語国家の状況と言語政策：ベルギーの場合 |
| 4 アイヌ語とアイヌ文化の歴史 | 13 多言語国家の状況と言語政策：インドの場合 |
| 5 アイヌ語とアイヌ文化の保存の現状 | 14 多言語国家の状況と言語政策：マレーシアとシンガポールの場合 |
| 6 ハワイ語とハワイ文化の歴史 | 15 定期試験 |
| 7 ハワイ語とハワイ文化の保存の現状 | |
| 8 世界共通語としての英語 | |
| 9 英語の世界的拡大の功罪 | |

〔テキスト〕プリント配布

〔参考文献〕講義中に適宜指示する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 80 % 平常点 20 %

31261

異文化理解Ⅱ 英国・日本の歳時記 S 三浦伊都枝

〔概要〕テキストにより英国人の季節感・自然観に触れ、歳時記をてがかりに日本人の四季観を探り、両国の年中行事、四季のめぐり、季節感の相違を理解する。イギリス文化理解に欠かせない内容である。

〔到達目標〕英国人と日本人の季節感・自然観の共通点と違い理解する。

〔授業計画〕

- | | |
|--|---|
| 1 季節の言葉を知ることは、その地域に住む人の細やかな心の動きを知ることであることを、英詩と俳句を例に示す。 | 6 5月。端午の節句。メイデイ（五月祭）。 |
| 2 1月。新たな年の始まりと言う感覚は同じだが、英国はクリスマス・大晦日のお祭りの後の回復の時。 | 7 6月。五月雨・早苗・梅雨。樹木茂り、小鳥の囀る夏至の月・ジューンブライド。 |
| 3 2月。日本の2月は春を待つ月。英国はイースターに備える月。 | 8 7月。夜店・浴衣・夕立・土用。ウィンブルドン・ヘンリーレガッタ。 |
| 4 3月。日本は芽吹きのみ・桃の節句、英国はうさぎがつかう月。 | 9 8月。立秋・盆・残暑。初秋・収穫の季節。 |
| 5 4月。花の季節、英国も早春の花の季節。そしてイースター。 | 10 9月。野分・仲秋。収穫祭。 |
| | 11 10月。立冬・紅葉狩。ハローウィーン。 |
| | 12 11月。小春・時雨。ガイフォークスデイ。 |
| | 13 12月。いろり・こたつ・師走。クリスマス。 |
| | 14 マザーグースの12ヶ月。 |
| | 15 定期試験 |

〔テキスト〕Elizabeth Walter / T. & K. Sato 『Seasons Greetings』英宝社

〔参考文献〕出口保夫他編『イギリスの生活と文化事典』（研究社）荒木源博『英文学が語る12ヶ月』（研究社）稲畑汀子編『新歳時記』（三省堂）

〔授業形態〕演習

〔成績評価の方法〕定期試験 60 %、平常点 40 %

31262

異文化理解Ⅲ 環境問題の英書講読

S 山本 誠

〔授業題目〕 英語で環境問題を学ぶ

〔概要〕 英語で書かれた（主として異文化における）環境問題に関するテキストを輪読する。ただし随時テキストに示された内容に関するディスカッションも積極的に取り入れる予定である。

〔到達目標〕 英語という外国語を介して環境問題への理解を深化させ、あわせて多様な利害が絡み合う環境問題に関するリテラシーも身につける。

〔授業計画〕

- | | |
|--|--|
| 1 オリエンテーション | 8 Tourism: Ecological and Cultural Impacts (1) |
| 2 Energy Alternative for Japan (1) | 9 Tourism: Ecological and Cultural Impacts (2) |
| 3 Energy Alternative for Japan (2) | 11 The Mass Media |
| 4 Developing Countries (1) | 12 Globalization (1) |
| 5 Developing Countries (2) | 13 Globalization (2) |
| 6 The United Nations: Working for a Better World | 14 まとめ |
| 7 中間試験 | 15 試験 |

〔テキスト〕 David Peaty, Issues of Global Concern. Kinseido, 2002. (予定)

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 演習・発表・双方向授業

〔成績評価の方法〕 試験（中間・期末）70%、平常点30%

31266

英語科教育法Ⅰ

W 三好康子

〔授業題目〕 英語教育の諸理論

〔概要〕 英語教育学とは何かを概説し、英語教授法の諸理論を学び、基礎知識を身に付けていくことを目標とする。学習指導要領、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの指導の基本を学び、教科書、教科研究、文法、語彙、辞書指導、マルチメディア教材、授業運営についての一般的基礎的知識を学ぶ。そのうえで、求められる英語教師像を考えていく。授業形態は、講義が中心であるが演習形式を積極的に導入する。

〔到達目標〕 英語教授法の諸理論を学び、基礎知識を身に付けていくこと。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| 1 英語教育学について | 8 文法指導の基礎 |
| 2 日本の英語教育史 | 9 語彙指導の基礎 |
| 3 EUの言語教育政策と東アジアの英語教育について | 10 辞書指導の基礎 |
| 4 学習指導要領と教科書 | 11 マルチメディア教材の基礎知識 |
| 5 リスニングとスピーキング指導の基礎 | 12 授業運営の基礎 |
| 6 リーディングとライティング指導の基礎 | 13 ティーム・ティーチングの実際 |
| 7 教科書・教材研究の基礎 | 14 評価について |
| | 15 定期試験 |

〔テキスト〕 小寺重明・吉田晴世編著 『英語教育の基礎知識（英語科教育法の理論と実践）』 大修館書店、文部科学省編著 『小学校学習指導要領解説—外国語活動編—』 東洋館出版、文部科学省編著 『中学校学習指導要領解説：外国語編』 開隆堂、文部科学省編著 『高等学校学習指導要領解説・外国語編』 開隆堂

〔参考文献〕 『日本の英語教育200年』 伊村元道著（大修館書店）、『世界の外国語教育政策・日本の外国語教育の構築に向けて』 大谷泰照他編著（東信堂）、『近代日本の英語科教育史』 江利川春雄著（東信堂）、『英語教科書の歴史的研究』 江利川春雄・小篠敏明著（辞游社）、『日本人にとって英語とは何か』 大谷泰照著（大修館書店）、『日本人と英語』 齊藤兆史著（研究社）

〔授業形態〕 講義・演習・AV機器使用

〔成績評価の方法〕 平常点40%、定期試験60%

31266

英語科教育法Ⅰ（3人でリレー）

S

塚本美紀 辻岡尚子 灰田 穰

〔授業題目〕英語教育の諸理論

〔概要〕英語教育学とは何かを概説し、英語教授法の諸理論を学び、基礎知識を身に付けていくことを目標とする。学習指導要領、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの指導の基本を学び、教科書、教科研究、文法、語彙、辞書指導、マルチメディア教材、授業運営についての一般的基礎的知識を学ぶ。そのうえで、求められる英語教師像を考えていく。授業形態は、講義が中心であるが演習形式を積極的に導入する。

〔到達目標〕英語教授法の諸理論を学び、基礎知識を身に付けていくこと。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| 1 英語教育学について | 8 文法指導の基礎 |
| 2 日本の英語教育史 | 9 語彙指導の基礎 |
| 3 EUの言語教育政策と東アジアの英語教育について | 10 辞書指導の基礎 |
| 4 学習指導要領と教科書 | 11 マルチメディア教材の基礎知識 |
| 5 リスニングとスピーキング指導の基礎 | 12 授業運営の基礎 |
| 6 リーディングとライティング指導の基礎 | 13 ティーム・ティーチングの実際 |
| 7 教科書・教材研究の基礎 | 14 評価について |
| | 15 定期試験 |

〔テキスト〕望月昭彦編著『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館書店

〔参考文献〕『日本の英語教育200年』伊村元道著（大修館書店）、『世界の外国語教育政策・日本の外国語教育の構築に向けて』大谷泰照他編著（東信堂）、『近代日本の英語科教育史』江利川春雄著（東信堂）、『英語教科書の歴史的研究』江利川春雄・小篠敏明著（辞游社）、『日本人にとって英語とは何か』大谷泰照著（大修館書店）、『日本人と英語』齊藤兆史著（研究社）

〔授業形態〕講義・演習・AV機器使用

〔成績評価の方法〕平常点40%、定期試験60%

31267

英語科教育法Ⅱ

S

三好康子

〔授業題目〕高等学校英語教育の理論と実際

〔概要〕授業案の作成の仕方を学び、ビデオで授業研究を行う。SELHiの実際の授業ビデオをも研究していく。高等学校の教科書・教材を研究し高校免許を志す学生による模擬授業を試みる。

〔到達目標〕中学校での英語教育の成果を踏まえ、更なるコミュニケーション能力の発達を促すには、高等学校英語教育はどうあるべきかを考える。高等学校の英語教育について異文化理解のみならず、特に自分の考えの表明や、自国の言語や文化についての発信力を持った実践的コミュニケーション能力の発達をいかに促していくかを考える。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------------------|-------------------|
| 1 高等学校学習指導要領について | 8 指導案作成の実際を学ぶⅡ |
| 2 高等学校学習指導要領と教科書 | 9 評価について |
| 3 異文化理解のための英語教材を考える | 10 モデル授業のビデオ研究 |
| 4 異文化理解のための英語教材を使った授業例 | 11 SELHiの授業のビデオ研究 |
| 5 日本の言語や文化についての発信のための英語教材を考える | 12 模擬授業と反省Ⅰ |
| 6 日本の言語や文化についての発信のための英語教材を使った授業例 | 13 模擬授業と反省Ⅱ |
| 7 指導案作成の実際を学ぶⅠ | 14 模擬授業と反省Ⅲ |
| | 15 模擬授業と反省Ⅳ |

〔テキスト〕『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』望月昭彦編著 大修館書店、『高等学校学習指導要領解説英語編』文部科学省 開隆堂出版、『PROMINENCE ENGLISH I, II』田辺正美他著 東京書籍

〔参考文献〕『実践的コミュニケーションの指導』高橋正夫著 大修館書店、『文法項目別英語のタスク活動とタスク34の実際と評価』高橋英幸編著 大修館書店、『実践的コミュニケーション能力のための英語のタスク活動と文法指導』高橋英幸編著 大修館書店、『新英語科教育の基礎と実践 授業力のさらなる向上を目指して』JACET教育問題研究会編、『日本語を活かした英語授業のすすめ』吉田研作・柳瀬和明著 大修館書店、『英語教師のための新しい評価法』松沢伸二著 佐野正之・米山朝二監修 大修館書店、『社会人のための英語百科』大谷泰照・堀内克明監修 大修館書店、『中学校学習指導要領解説—外国語編』文部科学省 開隆堂出版

〔授業形態〕講義・演習・発表

〔成績評価の方法〕平常点40%、定期試験60%

31267

英語科教育法Ⅱ（3人でリレー）

W 塚本美紀 辻岡尚子 灰田 穰

〔授業題目〕 高等学校英語教育の理論と実際

〔概要〕 授業案の作成の仕方を学び、ビデオで授業研究を行う。SELHi の実際の授業ビデオをも研究していく。高等学校の教科書・教材を研究し高校免許を志す学生による模擬授業を試みる。

〔到達目標〕 中学校での英語教育の成果を踏まえ、更なるコミュニケーション能力の発達を促すには、高等学校英語教育はどうあるべきかを考える。高等学校の英語教育について異文化理解のみならず、特に自分の考えの表明や、自国の言語や文化についての発信力を持った実践的コミュニケーション能力の発達をいかに促していくかを考える。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------------------|--------------------|
| 1 高等学校学習指導要領について | 8 指導案作成の実際を学ぶⅡ |
| 2 高等学校学習指導要領と教科書 | 9 評価について |
| 3 異文化理解のための英語教材を考える | 10 モデル授業のビデオ研究 |
| 4 異文化理解のための英語教材を使った授業例 | 11 SELHi の授業のビデオ研究 |
| 5 日本の言語や文化についての発信のための英語教材を考える | 12 模擬授業と反省Ⅰ |
| 6 日本の言語や文化についての発信のための英語教材を使った授業例 | 13 模擬授業と反省Ⅱ |
| 7 指導案作成の実際を学ぶⅠ | 14 模擬授業と反省Ⅲ |
| | 15 模擬授業と反省Ⅳ |

〔テキスト〕 望月昭彦編著『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』 大修館書店

〔参考文献〕 『実践的コミュニケーションの指導』 高橋正夫著 大修館書店、『文法項目別英語のタスク活動とタスク 34 の実践と評価』 高橋英幸編著 大修館書店、『実践的コミュニケーション能力のための英語のタスク活動と文法指導』 高橋英幸編著 大修館書店、『新英語科教育の基礎と実践 授業力のさらなる向上を目指して』 JACET 教育問題研究会編、『日本語を活かした英語授業のすすめ』 吉田研作・柳瀬和明著 大修館書店、『英語教師のための新しい評価法』 松沢伸二著 佐野正之・米山朝二監修 大修館書店、『社会人のための英語百科』 大谷泰照・堀内克明監修 大修館書店、『中学校学習指導要領解説—外国語編』 文部科学省 開隆堂出版

〔授業形態〕 講義・演習・発表

〔成績評価の方法〕 平常点 40 %、定期試験 60 %

31268

英語科教育法Ⅲ

W 三好康子

〔授業題目〕 小学校英語活動の理論と実際

〔概要〕 ALT や JTE（日本人英語指導者）とのチーム・ティーチングのあり方等をモデル例のビデオを見て学んでいく。これまで実施されてきた小学校英語活動の蓄積を学び、授業案と教材・教具の作成を実際に試みる。模擬授業を学生に実践させ、それをビデオ撮影し、学生の気付きを促す。

〔到達目標〕 小学校英語教育の実際について考える。リスニング、スピーキングの話し言葉中心の実践的コミュニケーション能力の形成のための教材・指導案の作成の仕方を考え、授業の進め方を研究すること。

〔授業計画〕

- | | |
|---|-----------------------------|
| 1 日本の小学校英語教育の歴史 | 7 JTE の活動について |
| 2 早期英語教育について考える | 8 小学校英語活動指導案の作成について（低学年の場合） |
| 3 小学校学習指導要領について | 9 小学校高学年の指導案の作成について |
| 4 リスニング、スピーキングの話し言葉中心の実践的コミュニケーション能力の形成指導の実際Ⅰ | 10 教材・教具の作成の実際（低学年の場合） |
| 5 リスニング、スピーキングの話し言葉中心の実践的コミュニケーション能力の形成指導の実際Ⅱ | 11 教材・教具の作成の実際（高学年の場合） |
| 6 ALT とのチーム・ティーチングの実際例 | 12 模擬授業と反省Ⅰ |
| | 13 模擬授業と反省Ⅱ |
| | 14 模擬授業と反省Ⅲ |
| | 15 模擬授業と反省Ⅳ |

〔テキスト〕 『これからの小学校英語教育 理論と実践』 樋口忠彦編 研究社、『小学校英語活動実践の手引き』 文部科学省 開隆堂出版、『小学校学習指導要領解説』 文部科学省、『小学校学習指導要領解説—外国語活動編—』 文部科学省 東洋館書店

〔参考文献〕 『小学校英語教育の進め方—「ことばの教育」として—』 岡秀夫・金森強編著 成美堂、『小学校英語活動 365 日の授業細案』 熊本大学教育学部附属小学校著 明治図書、『英語を使った総合的な学習の時間—小学校の授業実践』 服部孝彦・吉澤寿一著 大修館書店、『英語ノート 5 年生』 文部科学省、『英語ノート 6 年生』 文部科学省

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 平常点 50 %、定期試験 50 %

31287

学校保健Ⅰ（学校安全を含む）

W 楠本久美子

〔授業題目〕 教員のための学校保健

〔概要〕 教員の立場から、保健教育と健康管理のあり方と意義、安全教育と安全管理、学校保健組織の活動と意義および教員の役割について解説し、子どもの心身の発育発達と養護の関係、健康診断の意義、子どもに多い健康障害と疾病の予防、心の健康問題の対応、学校の安全と環境衛生のあり方について考慮し、効果的な保健教育および学校保健計画、活動の方法を学ぶ。

〔到達目標〕 ・健康管理の担い手としての教員の役割を理解する。 ・小児の発育発達について特徴を理解する。 ・事故防止の方法を理解し、救急処置法を習得する。 ・心の健康問題の対応方法を理解する。

〔授業計画〕

第1回 学校保健の概念と意義および領域	第9回 学校精神保健
第2回 子どもの発育発達	第10回 障害児の健康
第3回 心の発達	第11回 保健室の機能
第4回 健康診断と教員の役割	第12回 学校環境衛生
第5回 子どもに多い健康障害	第13回 保健教育
第6回 感染症と予防	第14回 学校保健計画と学校保健組織活動
第7回 救急処置	第15回 定期試験
第8回 学校安全と危機管理	

〔テキスト〕 「学校保健概論」 松岡弘編著 光生館

〔参考文献〕 「学校保健マニュアル」 高石昌弘 他1名 編著 南山堂

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 80 %、平常成績 20 %

31288

学校保健Ⅱ（歯科保健を含む）（2人リレー）s

楠本久美子 村上秀明

〔授業題目〕 学級担任のための学校保健

〔概要〕 児童生徒の健康と疾病の現況について口腔の生理機能、視力および聴力、その他の感覚器の機能について歯科保健および小児保健、環境保健の領域から解説し、諸外国の保健活動と比較しながら生涯を一貫した健康管理と保健教育について学習する。

〔到達目標〕 ・生涯教育の一環としての健康管理および保健教育について理解する。 ・歯科保健指導の意義を理解する。 ・子どもの健康と疾病の現況について理解する。

〔授業計画〕

第1回 歯と口腔の解剖と機能	第9回 子どもの視力障害
第2回 歯と口腔疾患	第10回 子どもの難病
第3回 歯科口腔疾患の予防と治療	第11回 環境と心身の健康
第4回 わが国における歯科保健の現状	第12回 環境保健教育と学校保健
第5回 学校歯科保健の現状	第13回 学校保健と地域保健および職域保健との連携
第6回 児童生徒のう蝕	第14回 国際保健の役割
第7回 学校歯科保健の現状	第15回 定期試験
第8回 子どもの難聴	

〔テキスト〕 「学校保健概論」 光生館

〔参考文献〕 「国民衛生の動向」 厚生統計協会 「歯科保健関係統計資料 本年度版」 口腔保健協会

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 80 %、平常成績 20 %

31290

精神保健

S 武中美佳子

〔授業題目〕 ライフサイクルと心の健康

〔概要〕 人間発達（ライフサイクル）と精神保健、現代における心の病気（精神障害）など、精神保健一般について概説する。特に思春期と青年期における心の健康に関する問題、いじめ、不登校、少年非行、発達障害など、現代社会問題となっているテーマを重点的に取り上げる。

〔到達目標〕 中学教員等として、生徒指導上必要とされる心の健康に関する知識、技能および考え方の習得を目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1 精神保健の意義と目的 | 9 精神障害の予防と対策 |
| 2 精神保健の歴史 | 10 心理的問題のアセスメント |
| 3 精神の基礎としての身体のしくみ | 11 カウンセリング、心理療法 |
| 4 人間発達（ライフサイクル）と精神保健 | 12 不登校、いじめ |
| 5 家庭における精神保健 | 13 児童虐待、家庭内暴力 |
| 6 学校における精神保健 | 14 少年非行、発達障害 |
| 7 地域社会と精神保健・福祉 | 15 定期試験 |
| 8 現代における心の病気（精神障害） | |

〔テキスト〕 十束支郎他共著『新しい精神保健』（医学出版社）

〔参考文献〕 新福尚武他共著『新版精神保健入門』（医学出版社）その他、授業において適宜紹介する

〔授業形態〕 講義・双方向授業・小テスト

〔成績評価の方法〕 定期試験 80 点、平常点 20 点

31301

養護概説

S 楠本久美子

〔授業題目〕 養護教諭の職務

〔概要〕 養護教諭の執務の特徴と目的、専門性と役割について解説し、最近の子どもの心身の特徴に対応できる養護教諭像を認識させ、健康診断および保健調査の方法、解析、指導について学び、保健室を拠点にした健康管理と子どもの疾病予防および保健指導に必要な学力と技術を習得する

〔到達目標〕 ・養護教諭の職責を認識する。・養護教諭の職務内容を理解する。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 第 1 回 養護の概念 | 第 9 回 救急処置と保健指導 |
| 第 2 回 養護教諭の専門性 | 第 10 回 保健指導案作成と集団保健指導 |
| 第 3 回 養護活動の過程 | 第 11 回 学校の特性と養護教諭の役割 |
| 第 4 回 保健室の役割と機能 | 第 12 回 養護教諭と保健学習 |
| 第 5 回 健康問題の把握と解決支援方法 | 第 13 回 養護教諭と学校保健組織活動 |
| 第 6 回 健康問題の予防と保健指導 | 第 14 回 養護教諭と研究活動 |
| 第 7 回 慢性疾患児の指導と生活管理 | 第 15 回 定期試験 |
| 第 8 回 心の問題を抱える子どもへの支援方法 | |

〔テキスト〕 「児童生徒の健康診断マニュアル」日本学校保健会「養護学概論」大谷尚子編著 東山書房

〔参考文献〕 「養護概説」鎌田尚子編著 東山書房

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 60 %、平常成績 40 %

31304 栄養学

S / W 蓮間忠芳

〔概要〕 人は日々生きるために、食物を摂取している。その食物の意義、すなわち栄養素の種類、それらの体内での役割と代謝、一日の摂取量などを理解し、栄養学の基礎知識を学ぶ。即ち、各栄養素の役割、エネルギー代謝、栄養状態、消化吸収などを中心に学ぶとともに、食物と疾患との関係（臨床栄養学）についても学ぶ。食品学は適宜、栄養学の関連内容に組み込み、科学的根拠に基づいた説明とする。

〔授業の到達目標及びテーマ〕 本講義は、栄養素の代謝、所要量、食品の種類、組成等を、様々な角度から探求することを到達目標とする。そのため、栄養学総論から始まり、食品学を含む広範な栄養学の領域を、全体的に把握、理解できるような授業テーマとし、さらに栄養学的根拠に基づいて、養護教諭および衛生管理者として適切な指導が出来る応用力を身につけることも目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1 栄養学総論 | 9 エネルギー代謝（1） |
| 2 栄養素と食物 | 10 エネルギー代謝（2） |
| 3 栄養素の役割（1）糖質 | 11 小テスト、栄養評価、栄養サポート |
| 4 栄養素の役割（2）脂質 | 12 栄養と健康、栄養素補給方法 |
| 5 栄養素の役割（3）たんぱく質 | 13 食品構成、健康食品、食品の安全管理 |
| 6 栄養素の役割（4）ビタミン、無機質、水 | 14 食物繊維、ダイエット、加工調理食品 |
| 7 小テスト、栄養の消化と吸収（1） | 15 定期試験 |
| 8 栄養の消化と吸収（2） | |

〔テキスト〕 専門基礎講座・よくわかる栄養学、津田とみ、金原出版、2008、（及び毎回配布資料）

〔参考文献〕 臨床栄養学、関戸啓子、MC メディアカ、2005、ハーバー・生化学、丸善、2004、NEW 栄養教育、石松成子、医歯薬出版、2003

〔授業形態〕 講義・双方向授業・その他（DVD、PC 等使用）

〔成績評価の方法〕 定期試験 80 %、レポート（小テスト） 20 %

31306

解剖生理学 I

W 林田嘉朗

〔授業題目〕 身体の形とはたらき I

〔概要〕 解剖生理学は人体の形態と構造を知り、同時にその機能を学ぶ学問で保健医療関連の専門職教育に最も重要な基礎となる。この講義では人体の各部の名称を理解した後、その働きとの関連で何故このような形をしているか、さらに健康のメカニズムや病気との関連においても総合的に理解する。解剖生理学 I では生命の維持という生物全般に共通するテーマとして、細胞・組織を始め、体液や血液を循環させる心臓血管系と呼吸器系、次に消化器系は消化と吸収および代謝、さらに泌尿生殖系について学ぶ。

〔到達目標〕 人体の各臓器の名称と機能を理解し、さらに健康はすべての臓器の相互作用で内部環境の恒常性が維持されるためであることを病気との関連において理解する。従って、テーマは人体のすべての臓器の形態・構造と機能である。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------------|---------------------------------|
| 第 1 回 基礎知識（細胞から人体まで） | 第 9 回 腎臓と尿路の構造と体液調節 |
| 第 2 回 体の支持と運動（骨格、関節と骨格筋；躯幹部） | 第 10 回 栄養の消化と吸収（消化管） |
| 第 3 回 骨格と骨格筋：頭部 | 第 11 回 栄養の消化と吸収（膵臓、肝臓、胆嚢の構造と機能） |
| 第 4 回 骨格と骨格筋：四肢 | 第 12 回 内分泌と自立神経系の構造と機能 |
| 第 5 回 心臓の構造と機能 | 第 13 回 神経系の構造と機能（ニューロン） |
| 第 6 回 末梢血管とリンパ系の構造と循環調節 | 第 14 回 中枢神経系と末梢神経系 |
| 第 7 回 呼吸器系の構造と呼吸運動の調節 | 第 15 回 定期試験 |
| 第 8 回 血液の組成と機能 | |

〔テキスト〕 「系統看護学講座 専門基礎 1：人体の構造と機能 [1] 解剖生理学」医学書院

〔参考文献〕 「やさしい病態生理学」南山堂

〔授業形態〕 講義・対話・双方向授業

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、小テスト 20 %、平常点 10 %

31307
解剖生理学Ⅱ

S 林田嘉朗

〔授業題目〕 身体の形とはたらきⅡ

〔概要〕 本講義では「解剖生理学Ⅰ」で学んだ器官・系は個々に独立して働くのではなく、内分泌系、神経系および免疫系が総合的に各々の働きを調節して身体全体の恒常性、すなわちホメオスターシスを保ち、健康が維持できていることを理解する。講義内容は動物性機能、すなわち運動・調節システムについての各器官の構造と機能とともに、植物性機能を介して種々の各器官系がどのように調節されるかを知り、学校や労働現場における健康教育に役立てることができるよう講義する。

〔到達目標〕 解剖生理学Ⅰで学んだことを基に、健康はすべての臓器の相互作用で内部環境の恒常性が維持されるためであることを病気との関連において理解する。従って、テーマは人体のすべての臓器の形態・構造と機能である。

〔授業計画〕

第1回 生体機能調節のメカニズム	第9回 神経筋接合部・運動の調節
第2回 ホメオスターシス	第10回 情報の受容（感覚器）と処理（反射）
第3回 内分泌とその調節	第11回 労働生理、スポーツ医学
第4回 内分泌疾患	第12回 内臓機能の調節
第5回 免疫機能と免疫疾患	第13回 体温調節
第6回 神経の興奮と伝達	第14回 生殖・発生・老化
第7回 特殊感覚器と感覚受容の仕組み	第15回 定期試験
第8回 体性感覚器と感覚受容の仕組み	

〔テキスト〕 「系統看護学講座 専門基礎1：人体の構造と機能 [1] 解剖生理学」医学書院

〔参考文献〕 「やさしい病態生理学」南山堂

〔授業形態〕 講義・対話・双方向授業

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、小テスト 20%、平常点 10%

31323
救急処置

S / W 林田嘉朗

〔授業題目〕 病気傷病の処置と予防

〔概要〕 学校や労働現場において発生する傷病、災害事故の内容や発生機序、対応について基礎知識を学び、併せて養護教諭、衛生管理者として適切な判断や具体的処置が行えるよう技術を習得する。とりわけスポーツ外傷や労働災害を含め緊急時の救命救急や、外科的、内科的救急処置を実践的に学ぶ。また、学校や職場の事故防止に関する安全対策や労働衛生についても学ぶ。

〔到達目標〕 学校や労働現場において発生する傷病、災害事故に対して養護教諭または衛生管理者として適切な判断と具体的処置が行える知識と技術の習得を目的とする。

〔授業計画〕

第1回 学校や労働現場における救急処置の意義と目的	第8回 内科的救急処置 1. 発熱、失神、痙攣
第2回 学校や労働現場における傷病や災害の内容と救急体制	第9回 内科的救急処置 2. 頭痛、胸痛、腹痛
第3回 救急処置に必要な基本手技・対策	第10回 内科的救急処置 3. 下痢、嘔吐、呼吸困難
第4回 救急処置の実際（緊急度・優先順位・禁忌事項等）	第11回 内科的救急処置 4. 熱中症、高山病、中毒、心身症など
第5回 外科的救急処置 1. 熱傷、骨折、創傷	第12回 スポーツ障害時の救急処置
第6回 外科的救急処置 2. 頭部外傷、胸部外傷、腹部外傷、四肢外傷等	第13回 学校、職場における事故の事例から学ぶ
第7回 外科的救急処置 3. 眼や外耳道などの異物、誤嚥・誤飲、溺水等	第14回 安全対策と労働衛生、事故防止と安全教育
	第15回 定期試験

〔テキスト〕 配布資料

〔参考文献〕 「新 保健室の救急辞典」東山書房、「やさしい病態生理」南山堂

〔授業形態〕 講義・対話

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、小テスト 20%、平常点 10%

31324

看護学Ⅰ（医学概論）

S

瀧藤尊照

〔授業題目〕看護医学の基礎知識を理解する。

〔概要〕近年、厚生労働省人口動態統計の死因別順位は悪性新生物・心疾患・脳血管疾患・肺炎などとなっている。以上の生活習慣病や問題点について触れ、更にはマールブルグ病（1967年）、エボラ出血熱（1976年）、在郷軍人病（1977年）血性大腸菌症（1982年）、牛海綿状脳症（1985年）、鳥インフルエンザ（1977年）、西ナイル熱（1999年）、重症急性呼吸器症候群（2002年）など新興・再興感染症と言われるエマージング感染症についても予防医学の観点から取り組んでいく。

〔到達目標〕人体の構造と機能を学び、生活習慣病、新興・再興感染症、更には精神疾患、アレルギー性疾患などを知らずして予防医学および健康に対する理解を深める。

〔授業計画〕

- | | |
|--|--|
| 1 医学の定義とその使命（医学とは何か、医学の使命） | 8 臨床医学各論（内分泌疾患、泌尿器疾患、造血器疾患、神経・筋疾患） |
| 2 医学の歴史（近代医学への道程、20世紀の医学） | 9 臨床医学各論（精神疾患、アレルギー性疾患、膠原病、感染症） |
| 3 近代医学の発展と医の倫理（ヘルシンキ宣言、脳死判定、尊厳死） | 10 臨床医学各論（中毒性疾患、運動器疾患、皮膚疾患、婦人科疾患、小児疾患、眼・耳疾患） |
| 4 人体の構造と機能（骨、筋肉、血液、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、内分泌、生殖器系） | 11 人口統計と疾病の変化 健康状態と受療状況 |
| 5 臨床医学総論（発熱、浮腫、悪心・嘔吐、下痢・便秘、腹痛、食欲不振、呼吸困難） | 12 医療保障制度（社会保障制度、医療保険、介護保険） |
| 6 臨床医学総論（胸痛、頭痛、めまい、運動麻痺、不随意運動、排尿異常、咳、喀痰・吐血） | 13 医療関係の職種と現状（医師、歯科医師、薬剤師、保健師、助産師、看護師など） |
| 7 臨床医学各論（国際疾病分類、呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患） | 14 医療施設の職種と現状（病院、療養型病床群、老人病床） |
| | 15 保健医療対策（医師法・薬事法・衛生法規） |

〔テキスト〕北村諭著『医学概論』（中外医学社）

〔参考文献〕森岡恭彦編集「新医学概論」（産業図書株式会社）

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 90%、その他平常点 10%

31325

看護学Ⅱ（外科学）

W

林田嘉朗

〔授業題目〕手術という治療法に学ぶ

〔概要〕外科学の特徴は、薬物等を用いた内科的治療で対処できない病気に「手術」という手段を用いて治療を行うことにある。このため外科手術は治療を目的としているものの、手術侵襲を加えることそのものがストレスであり、その後には形態の変化や機能の喪失が起こることになる。このような外科的治療を受ける側の特殊性に視点をおいた外科学の看護について講義を行う。

〔到達目標〕外科学の特殊性を理解し、外科手術の適応となるさまざまな疾患について学ぶ。そのうえで、周手術期の適切な看護が病気の回復・治療に重要であることを理解する。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------|----------------|
| 第1回 外科の特殊性 | 第9回 消化器系の外科 |
| 第2回 共通する検査・治療・看護 | 第10回 呼吸器系の外科 |
| 第3回 周手術期の看護：術直前 | 第11回 循環器系の外科 |
| 第4回 周手術期の看護：手術療法と生体反応 | 第12回 内分泌系の外科 |
| 第5回 周手術期の看護：術後合併症の予防 | 第13回 泌尿生殖器系の外科 |
| 第6回 周手術期の看護：術後回復期 | 第14回 院内感染予防 |
| 第7回 周手術期の看護：退院から外来 | 第15回 定期試験 |
| 第8回 中枢神経系の外科 | |

〔テキスト〕配布資料

〔参考文献〕「臨床外科看護学 総論および各論」医学書院

〔授業形態〕講義・対話・双方向授業

〔成績評価の方法〕定期試験 70%、小テスト 20%、平常点 10%

31326

看護学Ⅲ（内科学）

W 倉田義之

〔授業題目〕 内科的疾患の基礎知識

〔概要〕 病める人をケアするにあたり各種疾患の基本的な知識、すなわち原因や症状、治療法、予後、予防法などを理解しておくことが必要である。講義は日常遭遇するであろう頻度の高い疾患を中心に授業を進める。授業形式は、講義を中心とするが、受講者の考えや理解を把握するためにグループ討議や小テストなども適宜取り入れる。

〔到達目標〕 内科学は臨床医学の基本である。内科疾患を理解し、病気を理解したうえで病める人に対処することができる人材を育成することを目標とする。

〔授業計画〕

- | | | |
|--------------------|-----------|---------------|
| 1 症状と疾患、バイタルサインの見方 | 6 循環器疾患2 | 12 腎臓疾患 |
| 2 消化器疾患1 | 7 呼吸器疾患 | 13 免疫・アレルギー疾患 |
| 3 消化器疾患2 | 8 内分泌疾患 | 14 感染症 |
| 4 消化器疾患3 | 9 代謝疾患 | 15 定期試験 |
| 5 循環器疾患1 | 10 神経・筋疾患 | |
| | 11 血液疾患 | |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 看護のための最新医学講座（第2版） 新生児・小児科疾患 中山書店

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 50 %、小テスト 50 %

31327

看護学Ⅳ（小児看護学・眼科学）

S 林田嘉朗 津川絢子

〔授業題目〕 小児の健康を支援する

〔概要〕 小児は新生児から思春期に至るまで一定の速度で成長し発達する。しかし小児は決して自然に大人に成長していくのではない。遺伝的疾患を除き小児期に獲得したさまざまな生活習慣は大人になってからの病気と関連が深い。この講義では小児看護の動向や理念、機能、役割、倫理などについて学び小児の成長発達・健康増進のための看護、又健康に問題のある子供とその家族のニーズに応じた看護援助を学ぶ。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------|----------------------------------|
| 第1回 小児看護の理念と概念（津川） | 第10回 学童から思春期の看護（津川） |
| 第2回 子どもの成長・発達（林田） | 第11回 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護（津川） |
| 第3回 小児先天性疾患（林田） | 第12回 小児のアセスメント（津川） |
| 第4回 子どもの眼・耳・鼻疾患（林田） | 第13回 健康障害の各段階の子どもと家族の看護（津川） |
| 第5回 子どもの運動・神経系疾患（林田） | 第14回 ささまざまな症状を示す子どもと家族の看護（津川） |
| 第6回 子どもの内分泌疾患（林田） | 第15回 定期試験 |
| 第7回 子どもの代謝疾患（林田） | |
| 第8回 子どもの生活習慣と疾病（林田） | |
| 第9回 新生児から幼児期の看護（津川） | |

〔テキスト〕 ①配布資料②「小児看護学」看護系標準教科書、市江和子編（オーム社）

〔参考文献〕 「小児看護」看護国試編集委員会編、医学評論社「母子看護2. 小児看護」土橋光俊、石橋恵子著、医学芸術社

〔授業形態〕 講義・対話・双方向授業・グループ討論

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、小テスト 20 %、平常点 10 %

31328

学校看護学演習

W 楠本久美子

〔授業題目〕教育現場での救急看護学

〔概要〕心身の健康状態を的確に判断する観察力、傷病者に対する救急処置能力、病人を看護する能力を養うことを目標とする。子どもから成人までの発育発達に即した基本的な看護のあり方を学習し、傷病の子供の看護に必要な援助方法を理解し、学校現場で必要とする看護技術の心のケアから、あるいは内科的、外科的、小児科的領域から習得する。

〔到達目標〕・学校現場に必要な看護の知識と技能を理解する。・養護教諭に必要な看護の能力を習得する。

〔授業計画〕

第1回看護と健康	第6回病床中の基本的看護	第11回内科的看護
第2回発育発達と看護の種類	第7回看護と薬剤の知識	第12回外科的看護
第3回看護過程と評価	第8回看護と包帯法	第13回小児科的看護
第4回看護の基礎	第9回心のケアと看護	第14回慢性疾患と看護
第5回生活環境での看護	第10回医療的ケア	第15回発表

〔テキスト〕「最新看護学 学校で役立つ看護技術」中桐佐智子編著 東山書房

〔参考文献〕「養護教諭のための保健・医療・福祉系実習ハンドブック」中桐佐智子編著 東山書房

〔授業形態〕講義・演習・発表・小テスト（毎授業）

〔成績評価の方法〕小テスト60%、発表40%

31329

臨床看護学演習

W 毛受矩子

〔授業題目〕医療機関の機能と役割を理解する

〔概要〕本科目は、傷病者がもつ医学的、精神的諸問題を理解し、最新の医療現場における医療や看護を理解する中で養護教諭および衛生管理者としての知識と技術を深め、学校保健や産業保健領域の疾病予防や健康管理ができる能力を高めることを目的とする。併せて、医療機関のシステムや医療チームの役割、医療保障制度を理解し、学校保健との連携や折衝の重要性を学び、医療を要する児童生徒への適切な対応と処置能力と養護教諭の専門性を高め、健康保持増進に向けた教育ができる能力を養う。

〔到達目標〕1) 医療機関における機能と役割を理解し、医療・看護の最新の知識・技術が理解できる 2) 医療機関との連携のあり方を学び、児童生徒の傷病への適切な対応や処置ができ、保健指導ができる

〔授業計画〕

1 医療、保健、福祉制度の現状と課題	ループ研究のテーマ設定
2 医療機関と学校保健との連携と課題	10 事前学習・準備（その3）「臨床看護実習」の看護記録と個人情報守秘義務
3 医療機関の分類と組織	11 事前学習・準備（その4）「臨床看護実習」の医療機関についての情報収集
4 「臨床看護学実習」各論（その1）小児科・内科	12 事前学習・準備（その5）「臨床看護実習」の事前打ち合わせと実習接遇態度
5 「臨床看護学実習」各論（その2）外科・整形外科・精神科・皮膚科	13 事後総括「臨床看護実習」グループ研究のまとめ
6 「臨床看護学実習」各論（その3）産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・歯科口腔外科・他	14 「臨床看護実習」グループ研究発表
7 「臨床看護学実習」各論（その4）地域医療と在宅看護	15 定期試験とまとめ
8 事前学習・準備（その1）「臨床看護実習」の目的・目標の立て方	備考 「臨床看護学実習」で学んだ事を、医療機関において「臨床看護実習」として体験学習をする場面に生かしていくことができる。
9 事前学習・準備（その2）「臨床看護実習」グ	

〔テキスト〕「養護教諭のための保健・医療・福祉系実習ハンドブック」東山書房、配布資料

〔参考文献〕「地域看護学Ⅱ」オーム社、「養護教諭のための看護学」大修館書房

〔授業形態〕講義・演習・発表

〔成績評価の方法〕定期試験70%、平常点30%

31330

衛生学

S / W 瀧藤尊照

〔授業題目〕地球環境汚染と労働環境・産業保健を学ぶ。

〔概要〕学校保健法に従って学校集団生活に於ける伝染病・感染症予防、衛生対策を講ずることで、児童・生徒および教職員の健康保持増進を図ると同時に社会での疾病に対処する能力・態度を習得できるようになることが課題と言えます。また、現代の様なストレス社会では職場・学校環境に於いて人々はしばしば不適応状態に陥ることも考えられます。乳幼児期・学童期・思春期・成人期・老年期の精神保健に触れることで、複雑多様化する心理面へのスクールカウンセラーやメンタルヘルスなどを学んでいきます。

〔到達目標〕産業革命以来、昨今のIT革命も含めて人々が便利さを求めるあまりにその代償として環境の劣悪化を引き起こしています。地球の温暖化、大気汚染、ダイオキシンなどの有害化学物質などが問題となっています。家庭・職場に於ける労働環境、延いては地球環境への配慮を私達一人一人ができる様になった時、社会的生産性が向上し快適なライフスタイルを築く事ができると言えます。

〔授業計画〕

- 第1回地球環境汚染（広がる環境汚染、温暖化、オゾン層、酸性雨）
- 第2回水・空気・土壌（水の安全性、大気汚染、ダイオキシン）
- 第3回公害（騒音、振動、悪臭、廃棄物）
- 第4回学校に於ける保健事業（健康診断、健康相談、保健教育）
- 第5回学校に於ける伝染病・感染症（予防、出席停止）
- 第6回学校環境衛生および学校安全と学校給食（学校環境衛生の基準、安全管理、給食の役割と衛生管理）
- 第7回登校拒否、不登校、引きこもり

- 第8回精神保健と人格発達（乳幼児期～老年期）
- 第9回産業保健（労働による健康障害の状況）
- 第10回〃（労働衛生管理、行政と企業の管理組織）
- 第11回〃（職業病：熱中症、騒音西難聴、振動障害、放射線障害）
- 第12回〃（職業病：じん肺、有機溶剤中毒、金属中毒、がん、有毒ガス など）
- 第13回メンタルヘルスとセクシャルハラスメント・パワーハラスメント）
- 第14回社会変貌（少子高齢化、危機管理）、情報社会（収集と格差、情報保護）
- 第15回定期試験

〔テキスト〕清水忠彦他『わかりやすい公衆衛生学』（ヌーヴェルヒロカワ）

〔参考文献〕1.鈴木庄亮他『シンプル衛生公衆衛生学』（南江堂） 2.中川秀昭他『公衆衛生学』（光生館）

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験90%、その他平常点10%

31341

公衆衛生学 I（予防医学を含む）

S / W 瀧藤尊照

〔授業題目〕健康増進と疾病予防の概念。

〔概要〕公衆衛生は1949年、WHOのウインスローによって「公衆衛生は共同社会の組織的な努力を通じて疾病を予防し、寿命を延長し身体的精神的健康と能率の増進をはかる科学・技術である」と定義されています。その内容として、健康教育、疾病予防などが上げられます。病気の予防は、生活習慣病 life style related diseases の予防に留まらず、健康増進 health promotion にも積極的に取り組む事が、より望ましいと言えます。食生活や生活習慣病や各種伝染病・感染症を知ってその予防、個人衛生、学校衛生・労働衛生など公衆衛生に努める事が肝要と思われます。

〔到達目標〕平成12年に健康づくりの体系を示す「健康日本21」が策定され、これを支える法的基盤として平成15年に「健康増進法」が施行されました。「健康増進法」は国民の健康の増進について初めての法として整備されたものです。これを鑑みて生涯を通じる健康づくりの推進を計るために、より良いライフスタイルを知っていくことが家庭生活や社会生活を営む上での、生活習慣病や各種伝染病・感染症を防ぎ、更には勤労に伴う労働災害・職業病・作業関連疾患を予防することに繋がると言えます。

〔授業計画〕

- 第1回公衆衛生の概念と歴史、労働安全・衛生管理の概論
- 第2回健康教育とヘルスプロモーション
- 第3回健康と環境（生物・物理・化学的環境、社会的環境、学校と職場の環境衛生と集団検診）
- 第4回健康の指標（人口動態、寿命、有病・罹患率、タバコ煙と喫煙率）
- 第5回各種伝染病・感染症（成立要因、種類、予防の基本、感染経路、感受性）
- 第6回〃（類型と患者等の届出、予防接種、院内感染）
- 第7回〃（インフルエンザ、性感染症とエイズ、ウイルス感染症）

- 第8回〃（腸管出血性大腸菌感染症、結核、SARS）
- 第9回食品保健と栄養（食品の安全、細菌性食中毒、ウイルス性食中毒）
- 第10回〃（自然毒、化学性食中毒、食品衛生管理と安全対策）
- 第11回医療保険と介護保険
- 第12回生活習慣病（予防医学総論、歴史と現状）
- 第13回〃（悪性新生物、脳血管疾患、心疾患、糖尿病）
- 第14回〃（中・高齢者の疾病、健康日本21と健康増進法）、難病と対策
- 第15回定期試験

〔テキスト〕清水忠彦他『わかりやすい公衆衛生学』（ヌーヴェルヒロカワ）

〔参考文献〕1.鈴木庄亮他『シンプル衛生公衆衛生学』（南江堂） 2.中川秀昭他『公衆衛生学』（光生館） 3.杉浦守邦著『予防医学』（東山書房）

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験90%、その他平常点10%

31342 公衆衛生学Ⅱ

W 毛受矩子

〔授業題目〕 地域社会と暮らしから健康を学ぶ

〔概要〕 本講義は、人が社会において健康を維持増進していく上で最も重要な自然環境と職場・社会環境について広い視野から捉え、個人、集団として健康問題への対処の必要性を科学的根拠から学ぶ。とりわけライフステージに沿った健康問題の課題を取り上げ理解し対処できる能力を養い、併せて、各ステージにおけるヘルスプロモーションの重要性を学び、全ての人々が、心身の健康増進にむけて寄与できる力を養うことを目的とする。そのためにはグループ討議研究を踏まえて公衆衛生の基礎的知識を養う。

〔到達目標〕 1) 人々の暮らしや健康と自然環境や職場・社会環境の関連性が理解できる能力を養う。2) ライフステージにおけるヘルスプロモーションの重要性を理解し、健康増進の取り組みができる能力を養う

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------------------------|-------------------------------------|
| 1 公衆衛生学的統計から学ぶ健康指標（その1）
人口動態、出生、死亡 | 7 ライフサイクルから見た公衆衛生の取り組み
（その4）産業保健 |
| 2 公衆衛生学的統計から学ぶ健康指標（その2）
感染症、疾病分類 | 8 地域保健と学校保健との連携 |
| 3 諸外国の公衆衛生 | 9 これからの公衆衛生の考え方「ヘルスプロモーション」 |
| 4 ライフサイクルから見た公衆衛生の取り組み
（その1）母子保健 | 10 公衆衛生行動へのプロセス「健康調査と分析」 |
| 5 ライフサイクルから見た公衆衛生の取り組み
（その2）老人保健 | 11 各論（その1）子ども健康増進施策 |
| 6 ライフサイクルから見た公衆衛生の取り組み
（その3）精神保健 | 12 各論（その2）成人の生活習慣病予防施策 |
| | 13 各論（その3）高齢者の健康増進施策 |
| | 14 グループ研究発表 |
| | 15 定期試験 |

〔テキスト〕 「公衆衛生と関連法規」 メディカ出版、配布資料

〔参考文献〕 「国民衛生の動向」 財団法人厚生統計協会、「シンプル衛生公衆衛生学」南江堂

〔授業形態〕 講義・演習・発表・討論・双方向授業

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、平常点 30%

31349 保健科教育法Ⅰ

W 松本珠希

〔授業題目〕 保健科教育の意義と今日的課題

〔概要〕 保健科教育では、個人及び社会生活における健康・安全についての理解を深め、生涯にわたる自己の健康管理とそれを支援する環境づくりができる資質や能力を育成することが期待されている。本講義では、「学習指導要領」を機軸とし、中学校・高等学校における保健科教育課程の基準についての理解を深め、創意工夫を生かした特色ある保健教育を編成・実施する能力を養う。また保健科教育における教材づくりとそのあり方、学習指導案の書き方を学び、生徒の興味と関心を喚起する展開のある授業とはどのようなものかについて考える。

〔到達目標〕 中学校・高等学校における保健科教育の目標と内容及び課題について学ぶとともに、教師に必要な知識とスキルの習得を目指す。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1 保健科教育の意義・教育目標 | 9 保健科分野の教育技術及び指導法 |
| 2 保健科教育の変遷 | 10 保健科教育の年間指導計画の作成 |
| 3 現代社会における保健科教育への期待 | 11 教材研究方法 |
| 4 学校教育が担うべき保健の学力形成 | 12 学習指導案の作成法 |
| 5 中学校学習指導要領（保健）の解説 | 13 保健授業の展開事例 |
| 6 中学校保健科教育の内容及び範囲 | 14 テーマ別研究発表 |
| 7 高等学校学習指導要領（保健）の解説 | 15 定期試験 |
| 8 高等学校保健科教育の内容及び範囲 | |

〔テキスト〕 新・中学保健体育（学研）、保健体育（一ツ橋出版）、文部科学省編『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）、文部科学省編『高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編』（東山書房）

〔参考文献〕 家田重晴著『改訂保健科教育』（杏林書院）、森昭三・和唐正勝著『新版 保健の授業づくり入門』（大修館書店）、保健教材研究会編『最新「授業書」方式による保健の授業』（大修館書店）、大澤清二 他 編『学校保健・健康教育用語辞典』（大修館書店）

〔授業形態〕 講義・演習・発表・討論・双方向授業・AV 機器使用

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、レポート・発表等 20%、平常点 10%

**31350
保健科教育法Ⅱ**

S 松本珠希

〔授業題目〕保健科教育の指導内容と教授法

〔概要〕本講義では、「我が国の疾病構造と社会の変化」、「健康保持増進と疾病予防の意義」、「精神の健康」、「各ライフステージにおける健康管理」、「保健・医療制度及び地域の保健・医療機関」、「環境・食品の安全・労働と健康との関連」など、幅広い領域から健康を考察し、生涯に亘る健康管理能力の養成に必要な授業のあり方について考える。また、これをもとに教材研究及び研究授業を為し、相互に評価し合うとともに、中学校・高等学校における保健科教育はどうあるべきかについて討論する。

〔到達目標〕「保健科教育法Ⅰ」に引き続き、中学校・高等学校における保健科教育の目標と内容及び課題について学ぶとともに、教師に必要な知識とスキルの習得を目指す。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------------------|---------------------|
| 1 魅力ある保健の授業像 | 域の保健・医療機関) |
| 2 指導内容と教授法① (我が国の疾病構造と社会の変化) | 8 指導内容と教授法⑦ (環境と健康) |
| 3 指導内容と教授法② (健康の保持増進と疾病の予防) | 9 指導内容と教授法⑧ (労働と環境) |
| 4 指導内容と教授法③ (精神の健康) | 10 教材研究 |
| 5 指導内容と教授法④ (交通安全・応急処置) | 11 学習指導案作成演習① |
| 6 指導内容と教授法⑤ (生涯の各段階における健康) | 12 学習指導案作成演習② |
| 7 指導内容と教授法⑥ (保健・医療制度及び地域の保健・医療機関) | 13 研究授業・授業評価・討論① |
| | 14 研究授業・授業評価・討論② |
| | 15 定期試験 |

〔テキスト〕新・中学保健体育 (学研)、保健体育 (一ツ橋出版)、文部科学省編『中学校学習指導要領 解説 保健体育編』(東山書房)、文部科学省編『高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編』(東山書房)

〔参考文献〕新・中学保健体育の研究セット (学研)、保健体育指導資料 保健編 (一ツ橋出版)、保健教材研究会編『最新「授業書」方式による保健の授業』(大修館書店)、大澤清二他編『学校保健・健康教育用語辞典』(大修館書店)

〔授業形態〕講義・演習・発表・討論・双方向授業・AV 機器使用

〔成績評価の方法〕定期試験 70%、レポート・発表等 20%、平常点 10%

**31361
保健科教育法Ⅲ**

W 松本珠希

〔授業題目〕中学校における保健科教育の知識と実践力を養う

〔概要〕本講義では、「心身の機能の発達と心の健康」、「環境と心身の健康との関り」、「傷害の防止と応急手当」、「健康な生活習慣と疾病の予防」の4領域における知識の習得と有効な指導法について解説する。また、中学生対象の保健の教科書を用いて内容の取り扱いを理解し、教材研究や学習指導案の作成演習を行う。これらの学習を通じて、魅力ある保健の授業を探求し、中学校における保健科教育はどうあるべきかを考えていきたい。

〔到達目標〕「学習指導要領」を機軸とし、中学校における保健科教育の目標と内容及び課題について学ぶとともに、教師に必要な知識とスキルの習得を目指す。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------------------|------------------------|
| 1 指導内容と教授法① (心身の機能の発達と心の健康) | 7 指導内容と教授法⑦ (薬物乱用防止教育) |
| 2 指導内容と教授法② (健康と環境) | 8 指導内容と教授法⑧ (感染症の予防) |
| 3 指導内容と教授法③ (自然災害や交通事故による障害の防止) | 9 指導内容と教授法⑨ (集団の健康) |
| 4 指導内容と教授法④ (応急手当) | 10 教材研究・学習指導案作成演習① |
| 5 指導内容と教授法⑤ (健康な生活習慣と疾病の予防) | 11 教材研究・学習指導案作成演習② |
| 6 指導内容と教授法⑥ (喫煙・飲酒の健康への影響) | 12 テーマ別保健科教育研究発表① |
| | 13 テーマ別保健科教育研究発表② |
| | 14 中学校における魅力ある保健授業の探求 |
| | 15 定期試験 |

〔テキスト〕新・中学保健体育 (学研)、文部科学省編『中学校学習指導要領 解説 保健体育編』(東山書房)

〔参考文献〕家田重晴著『改訂保健科教育』(杏林書院)、森昭三・和唐正勝著『新版 保健の授業づくり入門』(大修館書店)、新・中学保健体育の研究セット (学研)

〔授業形態〕講義・演習・発表・討論・双方向授業・AV 機器使用

〔成績評価の方法〕定期試験 70%、レポート・発表等 20%、平常点 10%

31510

㊦**教育史**

W 北岡宏章

〔概要〕 西洋と日本の教育の歴史を、その制度面と思想面の双方にわたって概説する。2～12は西洋教育史を、13～14は日本教育史を取り上げる。問題演習も行う。

〔到達目標〕 教育の思想や制度の発展の跡を知って、今日の教育制度・方法の意味を歴史的観点からも考えることができる。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1 教育史とその方法 | 9 近代公教育の成立 |
| 2 古代ギリシャ・ローマの教育 | 10 19世紀の教育思想(1) |
| 3 中世の教育 | 11 19世紀の教育思想(2) |
| 4 ルネッサンス・宗教改革期の教育 | 12 新教育運動 |
| 5 リアリズムの教育 | 13 我が国の明治以前の教育 |
| 6 絶対主義と教育 | 14 明治以降の教育 |
| 7 18世紀の教育改革者(1) | 15 定期試験 |
| 8 18世紀の教育改革者(2) | |

〔テキスト〕 林勲編 『教育の原理』 (法律文化社)

〔参考文献〕 授業中に指示。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 80%、平常点 20%

31566

㊦**教材研究国語 I**

S 船所武志

〔概要〕 小学校国語科の目標と内容を理解し、国語力育成の方策を考えて、教材研究と学習指導要領の作成を行う。小学校3・4年生の物語教材を中心に扱い、模擬授業を含めて発表と討論をする。

〔到達目標〕 物語の教材研究と学習指導案作成、ならびに模擬授業を通して、確かな国語の教育力を身につける。

〔授業計画〕

- | | | |
|----------------|------------|------------|
| 1 国語科教育の目標と内容 | 6 グループ発表① | 11 グループ発表⑥ |
| 2 国語力の基礎・基本 | 7 グループ発表② | 12 グループ発表⑦ |
| 3 創造力と想像力 | 8 グループ発表③ | 13 グループ発表⑧ |
| 4 単元学習の計画 | 9 グループ発表④ | 14 グループ発表⑨ |
| 5 教材研究・学習指導案作成 | 10 グループ発表⑤ | |

〔テキスト〕 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 国語編』 (東洋館出版社、平成20年8月発行)
小学校 国語教科書

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義・発表・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験に替わるレポート 60%、平常点(発表・討論等) 40%

31566

㊦**教材研究国語 I**

S 今井 進

〔授業題目〕 国語科指導法

〔概要〕 小学校国語科の目標と内容を理解し、国語科の授業を組織するための方策について、具体的な実践例と教材研究や指導案及び模擬授業を含む発表を通して理解する。

〔到達目標〕 小学校国語科の目標と内容を理解し、教材研究を行い、指導案を作成し、国語科の指導法を習得する。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------|------------|
| 1 国語科教育の目標と内容 | 9 グループ発表② |
| 2 国語科教育の現状と課題 | 10 グループ発表③ |
| 3 授業を組織する基本について | 11 グループ発表④ |
| 4 文学作品の教材研究と指導案について | 12 グループ発表⑤ |
| 5 説明文の教材研究と指導案について | 13 グループ発表⑥ |
| 6 グループ研究 | 14 グループ発表⑦ |
| 7 グループ研究 | 15 定期試験 |
| 8 グループ発表① | |

〔テキスト〕 講義中指示する

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義・発表・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験(レポート) 60%、平常点(発表・討論) 40%

31567

㊤教材研究国語Ⅱ

W 船所武志

〔概要〕 小学校国語科の目標と内容を理解し、国語力育成の方策を考えて、教材研究と学習指導案の作成を行う。小学校5・6年生の物語ならびに説明文教材を中心に扱い、模擬授業を含めて発表と討論をする。

〔到達目標〕 物語ならびに説明文の教材研究と学習指導案作成、ならびに模擬授業を通して、確かな国語の教育力を身につける。

〔授業計画〕

- | | | |
|----------------|------------|------------|
| 1 国語力とは何か | 6 グループ発表① | 11 グループ発表⑥ |
| 2 創造・想像の力を育む | 7 グループ発表② | 12 グループ発表⑦ |
| 3 文学系テキストの教材化 | 8 グループ発表③ | 13 グループ発表⑧ |
| 4 科学系テキストの教材化 | 9 グループ発表④ | 14 グループ発表⑨ |
| 5 教材研究・学習指導案作成 | 10 グループ発表⑤ | |

〔テキスト〕 小学校 国語科教科書

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 国語編』（東洋館出版社、平成20年8月発行）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義・発表・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験に替わるレポート60%、平常点（発表・討論等）40%

31567

㊤教材研究国語Ⅱ

W 塩見能和

〔授業題目〕 目標を達成する授業の教材研究

〔概要〕 小学校国語科の目標と内容を理解し、国語力育成の方策を考えて、教材研究と指導案作りを行う。教科書教材を中心として、児童が意欲的に取り組み目標を達成する授業の形態を研究する。

〔到達目標〕 小学校の国語科のさまざまな教材を、目標に合わせて授業として構成する方策を研究し、指導案を作成する。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------------------|------------------------------|
| 1 国語科教育の目標と内容（1）自分が受けた国語科の授業の振り返り | 8 文章表現の授業と指導案（作文・詩作・アニメーション） |
| 2 国語科教育の目標と内容（2）学習指導要領が目指すもの | 9 古典的文学の取扱い |
| 3 文学教材と指導案（1）低学年 | 10 グループによる模擬授業（1） |
| 4 文学教材と指導案（2）中学年 | 11 グループによる模擬授業（2） |
| 5 文学教材と指導案（3）高学年 | 12 グループによる模擬授業（3） |
| 6 説明的文章と指導案（1）低学年 | 13 グループによる模擬授業（4） |
| 7 説明的文章と指導案（2）高学年 | 14 グループによる模擬授業（5） |
| | 15 レポート提出 |

〔テキスト〕 文部科学省、『小学校学習指導要領解説国語編』、東洋館出版

〔参考文献〕 小学校国語科教科書

〔授業形態〕 講義・演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験に替わるレポート60%、平常点40%

31568

㊤教材研究社会Ⅰ

S 中本和彦

〔授業題目〕 社会科授業設計の視点と方法

〔概要〕 小学校社会科の目標、内容等と社会科の授業設計の視点と方法について、理解、修得することをねらいとしている。VTRによる授業実践例の分析や教材研究・学習指導案作成などを通して、講義、演習、発表、討論を行う。

〔到達目標〕 ①小学校社会科の目標、内容を理解している。②教材研究、学習指導案の作成を行うことができる。③小学校社会科の教材研究の視点と方法について理解している。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1 社会科教育の現状と課題 | 9 社会科の教材研究の視点と方法 |
| 2 社会科教育の目標と内容 | 10 社会科の学習指導案作成の視点と方法 |
| 3 小学校中学年の目標と内容 | 11 社会科教育内容開発演習（1） |
| 4 中学年の授業実践例とその分析 | 12 社会科教育内容開発演習（2） |
| 5 小学校5年の目標と内容 | 13 社会科教育内容開発演習（3） |
| 6 小学校5年の授業実践例とその分析 | 14 社会科教育内容開発演習（4） |
| 7 小学校6年の目標と内容 | 15 定期試験 |
| 8 小学校6年の授業実践例とその分析 | |

〔テキスト〕 文部科学省、『小学校学習指導要領解説 社会編』、東洋館出版

〔参考文献〕 岩田一彦、『社会科授業研究の理論』、明治図書

〔授業形態〕 講義・演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験50%、レポート等平常点50%

31569

㊦教材研究社会Ⅱ

W 中本和彦

〔授業題目〕社会科の授業評価と授業改善

〔概要〕 小学校社会科における授業評価・授業改善の視点と方法と社会科における理解の方法について、具体的な授業実践例の評価・改善の演習、作業的・体験的な学習の実際及び教材開発を通して修得する。

〔到達目標〕 ①社会科の授業の評価、改善の視点と方法について理解している。②社会科の授業の評価、改善を行うことができる。③社会科における理解の方法を理解している。④作業的・体験的な学習の教材開発を行うことができる。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1 社会科授業評価の視点と方法 | 9 社会科における理解の方法 (1) |
| 2 社会科授業改善の視点と方法 | 10 社会科における理解の方法 (2) |
| 3 中学年の授業実践例の評価と改善 (1) | 11 作業的・体験的な学習の実際 (1) |
| 4 中学年の授業実践例の評価と改善 (2) | 12 作業的・体験的な学習の実際 (2) |
| 5 小学校5年の授業実践例の評価と改善 (1) | 13 作業的・体験的な学習の教材開発 (1) |
| 6 小学校5年の授業実践例の評価と改善 (2) | 14 作業的・体験的な学習の教材開発 (2) |
| 7 小学校6年の授業実践例の評価と改善 (1) | 15 定期試験 |
| 8 小学校6年の授業実践例の評価と改善 (2) | |

〔テキスト〕 文部科学省、『小学校学習指導要領解説 社会編』、東洋館出版社

〔参考文献〕 棚橋健治、『社会科の授業診断—よい授業に潜む危うさ研究—』、明治図書

〔授業形態〕 講義・演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験 50 %、レポート等平常点 50 %

31570

㊦教材研究算数Ⅰ

S 寺田幹治

〔授業題目〕算数教育と数学

〔概要〕 1.算数の授業とは 2.教具と作業について小学校教員になるに当たって必要な算数教材についての内容の紹介と、授業における展開の方法について考えさせることを目標にする。わが国の算数教育の史的変遷と諸外国の算数・数学教育の動向を基礎に、教室における算数の授業はどうあるべきかを考えていく。科学教育が強調された、算数数学教育の現代化の時代を振り返り、これからの小学校の算数教育の進むべき方向について模索させたい。その知識を基に、特定のテーマを中心に、授業計画や指導案の作成、黒板の前での実際の授業を組み立てさせて、批評や討議をしたい。

〔到達目標〕 教科としての算数の内容が理解できたか。授業の準備として、算数教材について十分な検討ができるか。1単位時間の算数の授業が組み立てられるか。学習指導要領について歴史および内容について理解できているか。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1 数学教育とは | 9 算数教育のいま (4) |
| 2 算数・数学の史的変遷 (1) | 10 算数教育のいま (5) |
| 3 算数・数学の史的変遷 (2) | 11 算数教育のいま (6) |
| 4 算数・数学の史的変遷 (3) | 12 数学教育の現代化 |
| 5 諸外国の算数・数学教育の動向と交流 | 13 情報教育・パソコンと関連して |
| 6 算数教育のいま (1) | 14 算数・数学教育のこれから |
| 7 算数教育のいま (2) | 15 定期試験 |
| 8 算数教育のいま (3) | |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 「目で見える教育 100年のあゆみ」(文部省) 東京美術
岡森博和編著 『算数・数学教育の研究と実践』 第一法規
中村正弘 寺田幹治共著 『数学教育史』 槇書店数学選書
教科書類 黒表紙、緑表紙、水色表紙および戦後の教科書など
文部科学省 『小学校学習指導要領解説算数科編』

〔授業形態〕 講義・演習・発表

〔成績評価の方法〕 定期試験 60 %、レポート等を含む平常点 40 %

31581

㊦教材研究算数Ⅱ

W 寺田幹治

〔授業題目〕算数教育の実際

〔概要〕Ⅰに続いて算数教育の実際について、各学年ごとにテーマをとり、授業の組み立てについて、実際の授業計画・指導案を通して考察していく。各授業の背景にある数学についても、講義の中で明らかにしていきたい。そのため、現在の指導要領の内容、教科書の構成について考えるための時間を取りたい。

〔到達目標〕教科としての算数の内容が理解できたか。授業の準備として、算数教材について十分な検討ができるか。1単位時間の算数の授業が組み立てられるか。学習指導要領について歴史および内容について理解できているか。教科書の内容について子どもたちが理解できるように授業を組み立てることができるか。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1 算数の教材からの問題演習 (1) | 9 四年生の授業 (数・量・図形) |
| 2 算数の教材からの問題演習 (2) | 10 五年生の授業 (数・量・図形) |
| 3 算数の教科書の構成について (1) | 11 六年生の授業 (数・量・図形) |
| 4 算数の教科書の構成について (2) | 12 指導要領の歴史と内容 (1) |
| 5 算数の授業の実際 | 13 指導要領の歴史と内容 (2) |
| 6 一年生の授業 (数・量・図形) | 14 算数教育のこれから |
| 7 二年生の授業 (数・量・図形) | 15 定期試験 |
| 8 三年生の授業 (数・量・図形) | |

〔テキスト〕

〔参考文献〕「目で見る教育100年のあゆみ」(文部省) 東京美術
岡森博和編著 『算数・数学教育の研究と実践』 第一法規
中村正弘 寺田幹治共著 『数学教育史』 槇書店数学選書
教科書類 黒表紙、緑表紙、水色表紙および戦後の教科書など
文部科学省 『小学校学習指導要領解説算数科編』

〔授業形態〕講義・演習・発表

〔成績評価の方法〕定期試験60%、レポート等を含む平常点40%

31582

㊦教材研究理科Ⅰ

S 羽多野隆美

〔授業題目〕理科の授業では何をどう教えるか

〔概要〕小学校における理想的な理科教育と理科の授業を実施するために、その指導理念と指導目的を理解するとともに、各学年の授業内容の構成を明らかにする。また、その具体的な授業の指導計画や学習指導案の作成、教材開発、授業研究などのあり方を解説して理科の基礎的な教育的指導技術や指導方法を身につける。

〔到達目標〕満足のいく小学校理科教育の実施のために理科の基礎的な内容を理解するとともにその内容構成を熟知する。また、種々の課題に興味や関心を持つようにして、その見方や考え方を養えるように教育的指導技術や方法を身につける。自然科学的教育活動を通して生命の尊重の考え方も養う。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1 小学校における理科の役割 | 9 学習活動に活用できる教材 |
| 2 小学校理科教育の理念と目標 | 10 理科学習における地域教材の扱い方 |
| 3 小学校理科教育の内容構成 (1) | 11 「やる気を引き出す」授業の展開 |
| 4 小学校理科教育の内容構成 (2) | 12 事例の分析と検討 (1) |
| 5 学習指導要領から見た小学校理科 | 13 事例の分析と検討 (2) |
| 6 授業計画と授業の展開 | 14 事例の分析と検討 (3) |
| 7 学習指導案の作成 | 15 定期試験 |
| 8 理科教材の扱い方と評価 | |

〔テキスト〕文部科学省：小学校学習指導要領解説理科編、出版社：東洋館出版社、そのほかのものについては授業時に印刷資料を配布する。

〔参考文献〕講義の際に随時、紹介する。

〔授業形態〕講義・実習・実験

〔成績評価の方法〕定期試験80%、レポート、小テスト、受講中の態度等20%

31582

㊦教材研究理科 I

S 石橋文秀

〔授業題目〕理科で何を教えるか

〔概要〕理科教育を実施するために指導理念・目的を理解し、各学年の授業内容の構成を明らかにする。また基礎実を行って実験指導法及び理科の基礎学力を養成し、教材開発に必要な技量を身につける。

〔到達目標〕小学校理科の基礎的内容を理解してその内容構成を熟知し、種々の課題に興味・関心を持つ指導技術や方法を身につけ、生命の尊重の考え方も養う。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1 小学校における理科の役割 | 9 学習活動に活用できる教育 |
| 2 小学校理科教育の理念と目標 | 10 理科学習における地域教育の扱い方 |
| 3 小学校理科教育の内容構成(1) | 11 「やる気を引き出す」授業の展開 |
| 4 小学校理科教育の内容構成(2) | 12 事例の分析と検討(1) |
| 5 学習指導要領からみた小学校理科 | 13 事例の分析と検討(2) |
| 6 授業計画と授業の展開 | 14 事例の分析と検討(3) |
| 7 学習指導案の作成 | 15 定期試験 |
| 8 理科教材の扱い方と評価 | |

〔テキスト〕文部科学省編著『小学校学習指導要領解説 理科編』(東洋館出版)

〔参考文献〕講義内容にあわせて適宜紹介する。

〔授業形態〕講義・実習

〔成績評価の方法〕平常点30%、レポート20%、試験50%

31582

㊦教材研究理科 I

S 宮永健史

〔授業題目〕理科教育の目的・目標と教材研究

〔概要〕小学校における理科教育の目的・目標・指導理念および理科教育の歴史を解説する。さらに小学校理科の内容および教材開発の実際、興味を喚起する授業展開例について講義する。

〔到達目標〕小学校における理科教育の目的・目標・指導理念を理解するとともに、理科の内容を深く理解し、教材開発能力を身につける。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1 小学校における理科の役割 | 9 小学校5年生理科の内容、教材研究 |
| 2 理科教育の目的、目標 | 10 小学校6年生理科の内容、教材研究 |
| 3 小学校理科教育の歴史 | 11 実験観察活動における安全性の確保 |
| 4 学習指導要領からみた小学校理科(1) | 12 理科教材の扱い方と評価 |
| 5 学習指導要領からみた小学校理科(2) | 13 理科学習における地域教材の扱い方 |
| 6 小学校理科の内容構成 | 14 やる気を引き出す授業展開 |
| 7 小学校3年生理科の内容、教材研究 | 15 定期試験 |
| 8 小学校4年生理科の内容、教材研究 | |

〔テキスト〕文部科学省著『小学校学習指導要領解説 理科編 H20.8』(大日本図書)

〔参考文献〕講義の中で適宜紹介する

〔授業形態〕講義・対話・演示実験

〔成績評価の方法〕定期試験70%、小テスト・レポート等30%

31583

㊦教材研究理科Ⅱ

W 羽多野隆美

〔授業題目〕理科の授業をどのように進めるか

〔概要〕小学校理科教育の指導目的をより高度に達成させ、教育的価値の高い理科の授業を実施するために子供の立場に立った指導計画と指導案の作成、効率の良い授業展開のために活用できる具体的な教材の開発を考える。また、小学校理科の授業を行うための実践的基礎力を養成するとともに授業の高め方についても模擬授業を通して考える。さらに、必要に応じてグループによる討論、演習、発表を通して効果的な学習指導方法を獲得する。

〔到達目標〕それぞれの授業内容にあった指導計画、指導案の作成、教材の開発を検討して小学校理科教育をより高度にしかも効率的に実施できるようにする。児童の自然現象についての理解や自然を愛する心情をよりいっそう深く育てるとともに、高度な科学的見方や考え方を養えるようにする。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1 おもしろくわかりやすい理科授業 | 9 3学年理科の授業分析事例 |
| 2 科学的思考能力を育む理科授業 | 10 4学年理科の授業分析事例 |
| 3 身近な実験を取り入れた授業の展開 | 11 5学年理科の授業分析事例 |
| 4 地域教材を活用した指導案 | 12 6学年理科の授業分析事例 |
| 5 授業に使用する学習教材の開発(1) | 13 理科学習から見た学級経営 |
| 6 授業に使用する学習教材の開発(2) | 14 理科教育の今後の展望と課題 |
| 7 理科授業指導計画の作成 | 15 定期試験 |
| 8 理科授業指導案の作成 | |

〔テキスト〕文部科学省：小学校学習指導要領解説理科編、出版社：東洋館出版社、そのほかのものについては講義の際に印刷資料を配布する。

〔参考文献〕講義の際に随時、紹介する。

〔授業形態〕講義・実習・実験

〔成績評価の方法〕定期試験80%、レポート、小テスト、受講中の態度等20%

31583

㊦教材研究理科Ⅱ

W 石橋文秀

〔授業題目〕教科書から教材開発へと発展する

〔概要〕理科教育の指導目的をより高度に達成し、教育的価値の高い授業を実施するために、子供の立場に立った指導計画と指導案の作成、効率の良い授業展開に活用できる具体的な教材の開発を検討する。

〔到達目標〕授業内容にあった指導計画、指導案の作成、教材開発を行い理科教育をより高度に且つ効率的に実施し、高度な科学的見方や考え方を養う。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1 身近な実験を取り入れた授業の展開 | 9 4年生理科の授業分析事例 |
| 2 グループ活動による教材開発 | 10 5年生理科の授業分析事例 |
| 3 身近な題材の地域教材化 | 11 6年生理科の授業分析事例 |
| 4 地域教材を活用した指導案 | 12 問題の提起と授業の展開 |
| 5 グループ活動による指導計画の作成 | 13 理科学習からみた学級経営 |
| 6 グループ活動による指導案の作成 | 14 理科教育の今後の展望と課題 |
| 7 グループ活動による模擬授業 | 15 定期試験 |
| 8 3年生理科の授業分析事例 | |

〔テキスト〕文部科学省編著『小学校学習指導要領解説 理科編』（東洋館出版）

〔参考文献〕講義内容にあわせて適宜紹介する

〔授業形態〕講義・実習

〔成績評価の方法〕平常点30%、レポート20%、試験50%

31583

㊦教材研究理科Ⅱ

W 宮永健史

〔授業題目〕興味を持たせる理科授業の展開

〔概要〕小学校理科教育の目的を達成するために、子どもの立場に立った指導計画と指導案の作成、および効果的な教材の開発と作成を検討する。それらの検討に基づいて、実践的指導力を養う。

〔到達目標〕理科教育全体を見渡した指導計画を立案し、授業案を作成するとともに、実際に魅力ある授業を実施する能力を身につける。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------------------|------------------|
| 1 理科授業指導計画の作成 | 8 4年生の授業分析事例研究 |
| 2 理科授業指導案の作成 | 9 5年生の授業分析事例研究 |
| 3 授業計画と授業の展開、おもしろくてわかりやすい理科授業 | 10 5年生の授業分析事例研究 |
| 4 身近な教材を取り入れた理科授業 | 11 6年生の授業分析事例研究 |
| 5 3年生の授業分析事例研究 | 12 6年生の授業分析事例研究 |
| 6 3年生の授業分析事例研究 | 13 科学的思考力を育む理科授業 |
| 7 4年生の授業分析事例研究 | 14 理科教育の今後の展開と課題 |
| | 15 定期試験 |

〔テキスト〕文部科学省著『小学校学習指導要領解説 理科編 H20年8月』（大日本図書）

〔参考文献〕講義の中で適宜紹介する

〔授業形態〕講義・実習・発表・対話・演示実験

〔成績評価の方法〕定期試験50%、小テスト・レポート等50%

31602

㊦教材研究体育Ⅰ

S 赤松喜久 木本泰洋

〔授業題目〕体育科の教科特性と目標・内容

〔概要〕学校教育の目的および目標とのかかわりから、体育科で期待される人間の発達の意味や意義の理解からスタートし、体育科の内容ごとの目標およびそれらの総体としての体育科の教科目標を理解する。

〔到達目標〕体育科の内容としてどのようなものがどのように配列され、どのような力を子どもたちに身につけさせることになるのかを理論的に理解することを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------------|-----------------------|
| 1 学習指導要領の変遷過程にみる体育科の意味 | 8 「器械運動」領域の授業の考え方・進め方 |
| 2 学校教育法関連法令改定の背景 | 9 「陸上運動」領域の授業の考え方・進め方 |
| 3 体育科の今日的目標（学習指導要領の目標の変遷から） | 10 「水泳」領域の授業の考え方・進め方 |
| 4 「運動の特性」とは | 11 「ボール運動」領域の考え方・進め方 |
| 5 「運動の特性」の実現と体力・運動能力のかかわり | 12 「表現運動」領域の考え方・進め方 |
| 6 「体づくり運動」領域の授業の考え方・進め方 | 13 「集団行動」の取り上げ方と実際 |
| 7 「体ほぐし運動」の考え方・進め方 | 14 「学習指導過程」と「学習評価」 |
| | 15 試験 |

〔テキスト〕次年度刊行予定のテキストを授業中紹介する

〔参考文献〕

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕日々の授業でキーワードについての簡単な説明を求め平常点（6割）とし期末試験（4割）との総合評価

31603

㊤教材研究体育Ⅱ

W 赤松喜久 木本泰洋

〔授業題目〕 体育科の学習指導計画の立案と具体的な展開

〔概要〕 体育科の学習指導計画（年間計画、(学期計画)、単元計画、時間計画）の立て方および学習指導計画にもとづく授業展開の実際について、実践的な力をみにつける。

〔到達目標〕 体育科の単元計画、時間計画を具体的に立案し、時間計画に基づいて模擬授業ができる（明瞭な大きな声で話をするができることを含む）ことを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------------------|--------------------------------|
| 1 「学習指導過程」と「学習評価」の関係 | 9 前時に作成した時間計画にもとづく模擬授業 |
| 2 評価規準の評価の観点と評価方法 | 10 「心の健康」（保健領域）から単元計画、時間計画を作成 |
| 3 体育科の単元の目標と評価規準の評価の観点 | 11 前時に作成した時間計画にもとづく模擬授業 |
| 4 体育科の「学習指導形態」 | 12 「病気の予防」（保健領域）から単元計画、時間計画を作成 |
| 5 「体づくり運動」領域の学習指導計画 | 13 前時に作成した時間計画にもとづく模擬授業 |
| 6 「器械運動」領域の単元計画と時間計画 | 14 「けがの防止」についての ABCD |
| 7 「ボール運動」領域の単元計画と時間計画 | 15 試験 |
| 8 「毎日の生活と健康」（保健領域）から単元計画、時間計画を作成 | |

〔テキスト〕 次年度刊行予定のテキストを授業中紹介する

〔参考文献〕

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 単元計画の略案および時間計画を平常点（6割） 期末試験（4割）との総合評価とする

31608

㊤保育内容研究Ⅴ（表現活動・音楽）

W 奥千恵子

〔授業題目〕 子どもの表現を音楽から実践する

〔概要〕 保育者は子どもの心や気持ちを感じとり、受けとめ、その上で子どもの表現を援助し、個性を伸ばす重要な役割を担う。音楽あそびの実践を通して、保育者に求められる豊かな感性を磨く。

〔到達目標〕 子どもと同じ目線に立ち、子どもの表現したい心を育むために、自らが心と身体を解放し自由な発想と創造的な思考で音楽表現する力を養う。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------------------|------------------------|
| 1 領域「表現」の意味 | 8 ピアノで遊ぼう：絵本を音楽に |
| 2 耳をすまして音を探してみよう：サウンド・エデュケーション | 9 発表会（グループ実技） |
| 3 身体は楽器：ボディ・パーカッション | 10 リズムで遊ぼう：歩行、ステップ |
| 4 身体は楽器：わらべうたの世界 | 11 リズムで遊ぼう：2人で組んで |
| 5 新聞紙から音楽：身近なものを楽器に | 12 リズムで遊ぼう：自然、行事 |
| 6 図形楽譜を演奏：視覚印象を音に | 13 リズムで遊ぼう：イメージをふくらませて |
| 7 ピアノで遊ぼう：ピアノの可能性を楽しむ | 14 即興表現：音楽と身体表現のまとめ |
| | 15 定期試験（個人実技 90分） |

〔テキスト〕 講義時適宜指示する

〔参考文献〕 『保育内容「表現」』 黒川建一編（ミネルヴァ書房）、『続こどものうた 200』 小林美実編（チャイルド本社）

〔授業形態〕 演習・発表

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、発表等平常点 30%

31609

㊦保育内容研究Ⅵ（表現活動・造形） W 今井真理

〔概要〕 要] 保育者が実際の表現活動を指導するには幼児の造形的な発達段階等基礎的な知識を理解したうえで、ひとりひとりの子どもに相応しい身体的な活動をイメージし、造形活動を通して豊かな人間形成を培っていく必要がある。子どもの表現活動を題材にした造形素材について理論的に学べるような内容とし、子どもの興味・関心に沿って指導する実践力を学び認識を深めるために演習を行う。

〔授業の到達目標及びテーマ〕 受講者が子どもの造形活動や描画の発達段階を通して、表現活動の本質を理解することや基礎的な知識を理解したうえで将来保育者となるために実践的指導能力を身に付けさせることを目標とする。

〔授業計画〕

- | | | |
|----------------|----------------|-------------|
| 1 オリエンテーション | 6 課題研究制作② | 11 課題研究制作⑥ |
| 2 課題の設定とグループ分け | 7 課題研究制作③ | 12 研究発表と討論① |
| 3 課題設定・関係資料収集① | 8 課題研究制作④ | 13 研究発表と討論② |
| 4 課題設定・関係資料収集② | 9 テーマの焦点化と中間発表 | 14 研究発表と討論③ |
| 5 課題研究制作① | 10 課題研究制作⑤ | 15 定期試験とまとめ |

〔テキスト〕 『芸術療法の理論と実践—美術教育との関わりから—』（晃洋書房）、『授業力アップ楽しくできる絵の指導と造形活動の実践—教師のスキルアップをめざす言葉かけのポイント』（明治図書）

〔参考文献〕 文部科学省・厚生労働省児童家庭局「幼稚園教育要領・保育所保育指針」（チャイルド本社）

〔授業形態〕 演習・発表

〔成績評価の方法〕 平常点 20 %、定期試験 60 %、発表 20 %

31610

㊦教育実習指導 S 塩見能和

31621

㊦教育実習

〔授業題目〕 教育実習の意義と心構え

〔概要〕 要] 教育実習は、大学で学ぶ理論や演習の成果を実践の場で活かす貴重な体験であり、新たな課題を見つけ、努力の方向を明確にするものである。学校現場における実際的な指導や対応について学ぶ。

〔到達目標〕 各自が教育実習の意義を理解し、目標を持って意欲的に実習に取り組もうとする態度を養う。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------------|----------------------------------|
| 1 教育実習の意義 目的、心得、実習の記録について | 7 学習指導案の作成手順 |
| 2 学校の組織について 学校とは・校務分掌の機能 | 8 授業における発問・板書・ノート指導の原則 |
| 3 実習の様子ビデオをみて、感想を話し合う | 9 授業における教材・教具の意義 |
| 4 子どもに接するにあたって（1） 低学年・中学年の特徴 | 10 各教科における様々な授業形態 |
| 5 子どもに接するにあたって（2） 高学年の特徴 | 11 先輩の体験談を聞く（各自質問を準備する） |
| 6 授業研究の進め方 授業とは何か、授業研究の方法 | 12 実習ノートについて学ぶ（1）（目標・心得・記録） |
| | 13 実習ノートについて学ぶ（2）（日誌・児童観察・参観記録他） |
| | 14 実習校での挨拶や礼状について |
| | 15 定期試験 |

〔テキスト〕 特になし。

〔参考文献〕 「小学校 教育実習ノート」 教育実習研究会 編 協同出版

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 60 %、平常点 40 %

31622

⑩教育学演習 I

S 埋橋玲子

〔授業題目〕 研究テーマへの取り組み

〔概要〕 自分の興味・関心に基づいて関連文献や資料の探索を行う。自分の意見をまとめて発表し、相手からの共感を得る表現方法を学ぶ。また、他者の意見を傾聴し、視点をもち客観的な思考方法を学ぶ。

〔到達目標〕 自分の研究テーマを明らかにする。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------|-----------------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 発表・討論 (6) |
| 2 文献検索法 | 10 発表・討論 (7) |
| 3 プレゼンテーションの方法 | 11 発表・討論 (8) |
| 4 発表・討論 (1) | 12 発表・討論 (9) |
| 5 発表・討論 (2) | 13 発表・討論 (10) |
| 6 発表・討論 (3) | 14 発表・討論 (11) |
| 7 発表・討論 (4) | 15 7セメスター生の卒論／卒業研究中間発表会を行う。 |
| 8 発表・討論 (5) | |

〔テキスト〕 小笠原喜康『インターネット完全活用術 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕

〔成績評価の方法〕 レポート 60 %、平常点 40 %

31622

⑩教育学演習 I

S 北岡宏章

〔授業題目〕 教育の今日的課題

〔概要〕 参加者はこれまでに教職・教科の諸講義を通じて教育の本質や学校教育の諸側面・諸問題を学んでいる。本演習では、参加者それぞれが特に関心を持つ問題について調査・研究し、発表して全員で問題意識を共有し、各参加者の様々な視点から深く討議することを目的とする。

〔到達目標〕 学校教育の諸問題を、教師としての視点に立って考えることができるようになるとともに、児童や保護者の願いが十分理解できるようになる。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 オリエンテーション | 8 体育について |
| 2 学校の今日的役割 | 9 食育について |
| 3 生きる力について | 10 芸術教育について |
| 4 学力について | 11 家庭との連携について |
| 5 道徳の教育について | 12 地域との連携について |
| 6 コミュニケーション力について | 13 どのような教師を目指すべきか |
| 7 いのちの教育について | 14 まとめ |

〔テキスト〕 特になし。プリントを配布。

〔参考文献〕 授業中に指示。

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 平常点 50 %、レポート 50 %

31622

⑩教育学演習 I

S 林 勲

〔授業題目〕 教育と法規

〔概要〕 いじめ・不登校など生徒指導上の諸問題、懲戒、体罰、学習指導要領、児童虐待、教育改革の動向など、教育原理、教育法規、教育時事に関する基本的事項、重要問題を取り上げ、研究協議を行う。

〔到達目標〕 学習指導、生徒指導、教育改革等に関する基本的事項、重要問題を取り上げ、研究協議を行うことにより、実践的指導力を育成する。

〔授業計画〕

- | | | |
|---------------|--------------|---------------|
| 1 オリエンテーション | 6 学習指導要領 (1) | 11 学校安全と危機管理 |
| 2 教育法規の意義と体系 | 7 学習指導要領 (2) | 12 教職員の人事と服務 |
| 3 教育基本法と学校教育法 | 8 ボランティア活動 | 13 教育改革の動向と課題 |
| 4 学校教育制度 | 9 懲戒と体罰 | 14 まとめ |
| 5 教育委員会と学校 | 10 生徒指導上の諸問題 | |

〔テキスト〕 資料配布

〔参考文献〕 資料配布

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 レポート 50 %、平常点 50 %

31622

㊦教育学演習Ⅰ

S 植田義幸

〔授業題目〕 教育改革の理解を深める

〔概要〕 現在進行中の教育改革状況を踏まえて、各自の問題意識に基づいて現在の教育状況について検討する。基本的文書の精読と紹介を通じて、理解を深めることをめざす。

〔到達目標〕 各人の問題意識を深め、形式の整ったレポートが書けるようにする。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1 オリエンテーション | 8 教育課程改革に関わる問題の検討 (2) |
| 2 教育制度全般に関わる問題の検討 (1) | 9 教育課程改革に関わる問題の検討 (3) |
| 3 教育制度全般に関わる問題の検討 (2) | 10 教育課程改革に関わる問題の検討 (4) |
| 4 教育制度全般に関わる問題の検討 (3) | 11 教員養成に関わる問題の検討 (1) |
| 5 教育制度全般に関わる問題の検討 (4) | 12 教員養成に関わる問題の検討 (2) |
| 6 教育制度全般に関わる問題の検討 (5) | 13 教員養成に関わる問題の検討 (3) |
| 7 教育課程改革に関わる問題の検討 (1) | 14 教員養成に関わる問題の検討 (4) |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 適宜指示する。

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 レポート 60 %、平常点等 40 %

31623

㊦教育学演習Ⅱ

W 埋橋玲子

〔授業題目〕 研究テーマへの取り組み・続き

〔概要〕 自分の研究テーマを明らかにするために、いくつかの仮説をたてる。演習形式で討論を行ない、他の人の考えを参考にする。論文作成を視野に入れて自分の考えをまとめる。

〔到達目標〕 自分の研究テーマを絞りこむ。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------|---------------------------|
| 1 夏学期のふり返りと冬学期の目標設定 | 9 発表・討論 (8) |
| 2 発表・討論 (1) | 10 発表・討論 (9) |
| 3 発表・討論 (2) | 11 発表・討論 (10) |
| 4 発表・討論 (3) | 12 発表・討論 (11) |
| 5 発表・討論 (4) | 13 発表・討論 (12) |
| 6 発表・討論 (5) | 14 発表・討論 (13) |
| 7 発表・討論 (6) | 15 8セメスター生の卒論／卒業研究発表会を行う。 |
| 8 発表・討論 (7) | |

〔テキスト〕 小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕

〔成績評価の方法〕 レポート 60 %、平常点 40 %

31623

㊦教育学演習Ⅱ

W 北岡宏章

〔授業題目〕 ルソーの教育思想

〔概要〕 教育学の古典中の古典であり、かつ永遠に新しいルソーの『エミール』を講読し、ルソーの問題意識を共有しながら教育の諸側面について深く思考することを訓練すると共に、古典の読み方にも慣れることを目指す。

〔到達目標〕 ルソーの提議する教育上の諸問題の本質を捉え、今日の教育とのつながりを考えることができるようになることを目指す。

〔授業計画〕

- | | | |
|----------|----------|--------------|
| 1 自然の教育 | 6 言語の教育 | 11 子どもの発達の順序 |
| 2 母親の役割 | 7 子どもと自由 | 12 感官の訓練 |
| 3 教師の役割 | 8 事物の必然 | 13 食育と体育 |
| 4 身体の養育 | 9 消極教育 | 14 学習への動機 |
| 5 習慣について | 10 道徳の教育 | |

〔テキスト〕 ルソー、『エミール (上)』、岩波文庫

〔参考文献〕 授業中に指示

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 平常点 50 %、レポート 50 %

31623

㊦教育学演習Ⅱ

W 林 勲

〔授業題目〕 教育と法規

〔概要〕 教育原理、教育法規、教育改革等に関する基礎的・基本的事項、重要問題、教育改革の動向と課題等を取り上げ、研究発表および研究協議を行う。

〔到達目標〕 3年生は夏学期に取り上げた課題からテーマを選び、レジュメを作成し発表する。4年生はレジュメを発展させ、卒業研究を作成し発表する。

〔授業計画〕

- | | | |
|----------------|-------------|-------------|
| 1 オリエンテーション | 6 研究協議 (1) | 11 研究協議 (6) |
| 2 テーマの設定 (1) | 7 研究協議 (2) | 12 研究協議 (7) |
| 3 テーマの設定 (2) | 8 研究協議 (3) | 13 研究協議 (8) |
| 4 文献・資料の収集 (1) | 9 研究協議 (4) | 14 まとめ |
| 5 文献・資料の収集 (2) | 10 研究協議 (5) | |

〔テキスト〕 資料配布

〔参考文献〕 資料配布

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 レポート 50 %、平常点 50 %

31623

㊦教育学演習Ⅱ

W 植田義幸

〔授業題目〕 教育改革の理解を深める

〔概要〕 夏学期に検討した教育改革上の問題点を検討し、各自でテーマを設定し、小論文を作成する。卒業論文・卒業研究の執筆を念頭に置き、完成度の高い卒論・卒研につなげる。

〔到達目標〕 夏学期に検討した課題について、一つをテーマに選び、執筆のルールにのっとり、形式的にも優れた論文を作成する。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1 オリエンテーション | 8 文献・資料の検討 (1) |
| 2 研究論文の条件 | 9 文献・資料の検討 (2) |
| 3 資料・文献の収集・整理の方法 | 10 文献・資料の検討 (3) |
| 4 研究論文の書き方 | 11 発表 (1) |
| 5 テーマの選択・検討 (1) | 12 発表 (2) |
| 6 テーマの選択・検討 (2) | 13 発表 (3) |
| 7 テーマの選択・検討 (3) | 14 発表 (4) |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 適宜指示する。

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 レポート 60 %、平常点等 40 %

31624

㊦教育学演習Ⅲ

S 埋橋玲子

〔授業題目〕 研究テーマへの取り組み

〔概要〕 自分の興味・関心に基づいて関連文献や資料の探索を行う。自分の意見をまとめて発表し、相手からの共感を得る表現方法を学ぶ。また、他者の意見を傾聴し、視点をもち客観的な思考方法を学ぶ。

〔到達目標〕 自分の研究テーマを明らかにする。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------|---------------------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 発表・討論 (6) |
| 2 文献検索法 | 10 発表・討論 (7) |
| 3 プレゼンテーションの方法 | 11 発表・討論 (8) |
| 4 発表・討論 (1) | 12 発表・討論 (9) |
| 5 発表・討論 (2) | 13 発表・討論 (10) |
| 6 発表・討論 (3) | 14 発表・討論 (11) |
| 7 発表・討論 (4) | 15 7 Semester生の卒論／卒業研究中間発表会を行う。 |
| 8 発表・討論 (5) | |

〔テキスト〕 小笠原喜康『インターネット完全活用術 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕

〔成績評価の方法〕 レポート 60 %、平常点 40 %

31624

⑩教育学演習Ⅲ

S 北岡宏章

〔授業題目〕教育の今日的課題

〔概要〕参加者はこれまでに教職・教科の諸講義を通じて教育の本質や学校教育の諸側面・諸問題を学んでいる。本演習では、参加者それぞれが特に興味を持つ問題について調査・研究し、発表して全員で問題意識を共有し、各参加者の様々な視点から深く討議することを目的とする。

〔到達目標〕学校教育の諸問題を、教師としての視点に立って考えることができるようになるとともに、児童や保護者の願いが十分理解できるようになる。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 オリエンテーション | 8 体育について |
| 2 学校の今日的役割 | 9 食育について |
| 3 生きる力について | 10 芸術教育について |
| 4 学力について | 11 家庭との連携について |
| 5 道徳の教育について | 12 地域との連携について |
| 6 コミュニケーション力について | 13 どのような教師を目指すべきか |
| 7 いのちの教育について | 14 まとめ |

〔テキスト〕特になし。プリントを配布。

〔参考文献〕授業中に指示。

〔授業形態〕演習

〔成績評価の方法〕平常点 50 %、レポート 50 %

31624

⑩教育学演習Ⅲ

S 林 勲

〔授業題目〕教育と法規

〔概要〕いじめ・不登校など生徒指導上の諸問題、懲戒、体罰、学習指導要領、児童虐待、教育改革の動向など、教育原理、教育法規、教育時事に関する基本的事項、重要問題を取り上げ、研究協議を行う。

〔到達目標〕学習指導、生徒指導、教育改革等に関する基本的事項、重要問題を取り上げ、研究協議を行うことにより、実践的指導力を育成する。

〔授業計画〕

- | | | |
|---------------|--------------|---------------|
| 1 オリエンテーション | 6 学習指導要領 (1) | 11 学校安全と危機管理 |
| 2 教育法規の意義と体系 | 7 学習指導要領 (2) | 12 教職員の人事と服務 |
| 3 教育基本法と学校教育法 | 8 ボランティア活動 | 13 教育改革の動向と課題 |
| 4 学校教育制度 | 9 懲戒と体罰 | 14 まとめ |
| 5 教育委員会と学校 | 10 生徒指導上の諸問題 | |

〔テキスト〕資料配布

〔参考文献〕資料配布

〔授業形態〕演習

〔成績評価の方法〕レポート 50 %、平常点 50 %

31624

⑩教育学演習Ⅲ

S 植田義幸

〔授業題目〕教育改革の理解を深める

〔概要〕現在進行中の教育改革状況を踏まえて、各自の問題意識に基づいて現在の教育状況について検討する。基本的文書の精読と紹介を通じて、理解を深めることをめざす。

〔到達目標〕各人の問題意識を深め、形式の整ったレポートが書けるようにする。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1 オリエンテーション | 8 教育課程改革に関わる問題の検討 (2) |
| 2 教育制度全般に関わる問題の検討 (1) | 9 教育課程改革に関わる問題の検討 (3) |
| 3 教育制度全般に関わる問題の検討 (2) | 10 教育課程改革に関わる問題の検討 (4) |
| 4 教育制度全般に関わる問題の検討 (3) | 11 教員養成に関わる問題の検討 (1) |
| 5 教育制度全般に関わる問題の検討 (4) | 12 教員養成に関わる問題の検討 (2) |
| 6 教育制度全般に関わる問題の検討 (5) | 13 教員養成に関わる問題の検討 (3) |
| 7 教育課程改革に関わる問題の検討 (1) | 14 教員養成に関わる問題の検討 (4) |

〔テキスト〕

〔参考文献〕適宜指示する。

〔授業形態〕演習

〔成績評価の方法〕レポート 60 %、平常点等 40 %

31625

㊦教育学演習Ⅳ

W 埋橋玲子

〔授業題目〕 研究テーマへの取り組み・続き

〔概要〕 自分の研究テーマを明らかにするために、いくつかの仮説をたてる。演習形式で討論を行ない、他の人の考えを参考にする。論文作成を視野に入れて自分の考えをまとめる。

〔到達目標〕 自分の研究テーマを絞りこむ。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------|---------------------------|
| 1 夏学期のふり返りと冬学期の目標設定 | 9 発表・討論 (8) |
| 2 発表・討論 (1) | 10 発表・討論 (9) |
| 3 発表・討論 (2) | 11 発表・討論 (10) |
| 4 発表・討論 (3) | 12 発表・討論 (11) |
| 5 発表・討論 (4) | 13 発表・討論 (12) |
| 6 発表・討論 (5) | 14 発表・討論 (13) |
| 7 発表・討論 (6) | 15 8セメスター生の卒論／卒業研究発表会を行う。 |
| 8 発表・討論 (7) | |

〔テキスト〕 小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕

〔成績評価の方法〕

31625

㊦教育学演習Ⅳ

W 北岡宏章

〔授業題目〕 ルソーの教育思想

〔概要〕 教育学の古典中の古典であり、かつ永遠に新しいルソーの『エミール』を講読し、ルソーの問題意識を共有しながら教育の諸側面について深く思考することを訓練すると共に、古典の読み方にも慣れることを目指す。

〔到達目標〕 ルソーの提議する教育上の諸問題の本質を捉え、今日の教育とのつながりを考えることができるようになることを目指す。

〔授業計画〕

- | | | |
|----------|----------|--------------|
| 1 自然の教育 | 6 言語の教育 | 11 子どもの発達の順序 |
| 2 母親の役割 | 7 子どもと自由 | 12 感官の訓練 |
| 3 教師の役割 | 8 事物の必然 | 13 食育と体育 |
| 4 身体の養育 | 9 消極教育 | 14 学習への動機 |
| 5 習慣について | 10 道徳の教育 | |

〔テキスト〕 ルソー、『エミール (上)』、岩波文庫

〔参考文献〕 授業中に指示

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 平常点 50 %、レポート 50 %

31625

㊦教育学演習Ⅳ

W 林 勲

〔授業題目〕 教育と法規

〔概要〕 教育原理、教育法規、教育改革等に関する基礎的・基本的事項、重要問題、教育改革の動向と課題等を取り上げ、研究発表および研究協議を行う。

〔到達目標〕 3年生は夏学期に取り上げた課題からテーマを選び、レジュメを作成し発表する。4年生はレジュメを発展させ、卒業研究を作成し発表する。

〔授業計画〕

- | | | |
|----------------|-------------|-------------|
| 1 オリエンテーション | 6 研究協議 (1) | 11 研究協議 (6) |
| 2 テーマの設定 (1) | 7 研究協議 (2) | 12 研究協議 (7) |
| 3 テーマの設定 (2) | 8 研究協議 (3) | 13 研究協議 (8) |
| 4 文献・資料の収集 (1) | 9 研究協議 (4) | 14 まとめ |
| 5 文献・資料の収集 (2) | 10 研究協議 (5) | |

〔テキスト〕 資料配布

〔参考文献〕 資料配布

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 レポート 50 %、平常点 50 %

31625

㊦教育学演習Ⅳ

W 植田義幸

〔授業題目〕 教育改革の理解を深める

〔概要〕 夏学期に検討した教育改革上の問題点を検討し、各自でテーマを設定し、小論文を作成する。卒業論文・卒業研究の執筆を念頭に置き、完成度の高い卒論・卒研につなげる。

〔到達目標〕 夏学期に検討した課題について、一つをテーマに選び、執筆のルールにのっとり、形式的にも優れた論文を作成する。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1 オリエンテーション | 8 文献・資料の検討 (1) |
| 2 研究論文の条件 | 9 文献・資料の検討 (2) |
| 3 資料・文献の収集・整理の方法 | 10 文献・資料の検討 (3) |
| 4 研究論文の書き方 | 11 発表 (1) |
| 5 テーマの選択・検討 (1) | 12 発表 (2) |
| 6 テーマの選択・検討 (2) | 13 発表 (3) |
| 7 テーマの選択・検討 (3) | 14 発表 (4) |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 適宜指示する。

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 レポート 60%、平常点等 40%

31626

㊦教育心理学演習Ⅰ

S 八木成和

〔授業題目〕 教育心理学演習Ⅰ・Ⅲ

〔概要〕 演習形式により感受性訓練、人格・性格検査、実験法の実習を行い、データを分析した結果をレポートとして記述してもらう。これを毎時間提出することを求める。冬学期の基礎編となる。

〔到達目標〕 検査法と実験法の方法を理解し、結果の処理方法を身につけ、その結果を解釈し、教育心理学のレポートの書き方を習熟することを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 演習内容の紹介 | 8 人格・性格検査 (イメージ測定法) |
| 2 レポートの書き方 | 9 人格・性格検査 (文章完成法) |
| 3 感受性訓練 (目隠し歩き) | 10 実験の方法論の概要 |
| 4 感受性訓練 (傾聴訓練) | 11 知覚の実験 (錯視) |
| 5 感受性訓練 (集団討論) | 12 学習の実験 (両側性転移) |
| 6 人格・性格検査 (Y-G 性格検査) | 13 データ分析 (統計の基本的知識) |
| 7 人格・性格検査 (エゴグラム) | 14 データ分析 (検定と確率の考え方) |

〔テキスト〕 講義中プリントを配布する

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 演習・実習・発表・対話・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験に替わる実験法に関するレポート (65%)。感受性訓練、検査法、実験法の方法の習得を評価するための小レポートの平常点 (35%)。

31627

㊦教育心理学演習Ⅱ

W 八木成和

〔授業題目〕 教育心理学演習Ⅱ・Ⅳ

〔概要〕 演習形式により調査法、観察法、授業分析法の実習を個人またはグループで行い、レポートとしてまとめる。また、関連する文献を読み、まとめた内容を発表してもらい討論を行う。

〔到達目標〕 調査法、観察法、授業分析の方法を理解し、結果を処理し、その結果を解釈し、関連する文献を参考にしてレポートを書けることを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1 質問紙法の概要 | 8 子どもの仲間行動の分析 |
| 2 質問項目作成の手順 | 9 教師-児童間の会話分析 |
| 3 パソコン実習 (データ入力) | 10 データ分析 (質的データの処理法) |
| 4 データ分析 (相関と回帰) | 11 観察法のまとめ |
| 5 データ分析 (多変量解析法) | 12 授業分析法の概要 |
| 6 質問紙法の報告書の書き方 | 13 授業分析用カテゴリーの作成 |
| 7 観察法の概要 | 14 授業分析の仕方 |

〔テキスト〕 講義中プリントを配布する

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 演習・実習・発表・対話・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験に替わる調査法に関するレポート (65%)。調査法、観察法、授業分析の方法の習得を評価するための小レポートの平常点 (35%)。

31628

㊦**教育心理学演習Ⅲ**

S 八木成和

〔授業題目〕教育心理学演習Ⅰ・Ⅲ

〔概要〕演習形式により感受性訓練、人格・性格検査、実験法の実習を行い、データを分析した結果をレポートとして記述してもらおう。これを毎時間提出することを求める。冬学期の基礎編となる。

〔到達目標〕検査法と実験法の方法を理解し、結果の処理方法を身につけ、その結果を解釈し、教育心理学のレポートの書き方を習熟することを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 演習内容の紹介 | 8 人格・性格検査（イメージ測定法） |
| 2 レポートの書き方 | 9 人格・性格検査（文章完成法） |
| 3 感受性訓練（目隠し歩き） | 10 実験の方法論の概要 |
| 4 感受性訓練（傾聴訓練） | 11 知覚の実験（錯視） |
| 5 感受性訓練（集団討論） | 12 学習の実験（両側性転移） |
| 6 人格・性格検査（Y-G 性格検査） | 13 データ分析（統計の基本的知識） |
| 7 人格・性格検査（エゴグラム） | 14 データ分析（検定と確率の考え方） |

〔テキスト〕講義中プリントを配布する

〔参考文献〕講義中適宜指示する

〔授業形態〕演習・実習・発表・対話・討論

〔成績評価の方法〕定期試験に替わる実験法に関するレポート（65％）。感受性訓練、検査法、実験法の方法の習得を評価するための小レポートの平常点（35％）。

31629

㊦**教育心理学演習Ⅳ**

W 八木成和

〔授業題目〕教育心理学演習Ⅱ・Ⅳ

〔概要〕演習形式により調査法、観察法、授業分析法の実習を個人またはグループで行い、レポートとしてまとめる。また、関連する文献を読み、まとめた内容を発表してもらい討論を行う。

〔到達目標〕調査法、観察法、授業分析の方法を理解し、結果を処理し、その結果を解釈し、関連する文献を参考にしてレポートを書けることを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1 質問紙法の概要 | 8 子どもの仲間行動の分析 |
| 2 質問項目作成の手順 | 9 教師－児童間の会話分析 |
| 3 パソコン実習（データ入力） | 10 データ分析（質的データの処理法） |
| 4 データ分析（相関と回帰） | 11 観察法のまとめ |
| 5 データ分析（多変量解析法） | 12 授業分析法の概要 |
| 6 質問紙法の報告書の書き方 | 13 授業分析用カテゴリーの作成 |
| 7 観察法の概要 | 14 授業分析の仕方 |

〔テキスト〕講義中プリントを配布する

〔参考文献〕講義中適宜指示する

〔授業形態〕演習・実習・発表・対話・討論

〔成績評価の方法〕定期試験に替わる調査法に関するレポート（65％）。調査法、観察法、授業分析の方法の習得を評価するための小レポートの平常点（35％）。

31630

㊦**国語科教育研究Ⅰ**

S 船所武志

〔概要〕小学校教育において国語科が担う役割を考えながら、「読むこと」「書くこと」の教育に欠かせない理論的研究を中心に行う。日本語学の基礎を確認するとともに、具体的な文芸作品を取り上げて、文芸学の基本的概念の習得に努める。

〔到達目標〕日本語学の基礎と文芸学の理論とを習得する。

〔授業計画〕

- | | | |
|-----------------|-----------|--------------|
| 1 音声・音韻 | 6 文章・表現 | 11 物語の視点⑤ |
| 2 文字・表記 | 7 物語の視点① | 12 主題・構成・叙述① |
| 3 語彙・意味 | 8 物語の視点② | 13 主題・構成・叙述② |
| 4 文法・敬語 | 9 物語の視点③ | 14 主題・構成・叙述③ |
| 5 ことばの変容（問題な表現） | 10 物語の視点④ | |

〔テキスト〕プリント配布ほか講義中別途指示する。

〔参考文献〕西郷竹彦文芸・教育全集 全33巻・別巻3（恒文社）
表現学会監修『表現学大系』（教育出版センター）

〔授業形態〕講義・演習・発表

〔成績評価の方法〕定期試験に替わるレポート60％、平常点（発表・討議等）40％

31641

㊤国語科教育研究Ⅱ

W 船所武志

〔概要〕 現在の国語科教育が抱える問題とは、どこに、どのような問題があり、どのような解決策が講じられるとよいのか、といったことについて、テキストを読みつつ議論を深め、方策を考えて行きたい。

〔到達目標〕 国語科教育が直面している課題を理解し、解決策を講じて実践的な教科教育の力量を身につけるとともに、自らの研究課題に取り組む。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------|------------------|
| 1 これからの国語力について① | 8 国語力を高める授業づくり② |
| 2 これからの国語力について② | 9 国語力を高める授業づくり③ |
| 3 これからの国語力について③ | 10 国語力を高める授業づくり④ |
| 4 国語科授業に必要なポイント① | 11 国語力を高める授業づくり⑤ |
| 5 国語科授業に必要なポイント② | 12 国語力を高める授業づくり⑥ |
| 6 国語科授業に必要なポイント③ | 13 国語科以外で高める国語力① |
| 7 国語力を高める授業づくり① | 14 国語科以外で高める国語力② |

〔テキスト〕 堀江祐爾 『「国語力」向上の授業改革 1 国語科授業再生のための5つのポイント—よりよい授業づくりをめざして—』 (明治図書)

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 発表・討議

〔成績評価の方法〕 定期試験に替わるレポート 60%、平常点 (発表・討論等) 40%

31642

㊤国語科教育研究Ⅲ

S 坂口 豊

〔授業題目〕 国語科教育の研究

〔概要〕 先輩の論文を読み、自らの研究について、研究の視点・テーマの焦点化を図るようにする。さらに、研究の手法、引用・参考文献の取扱いなどの記述について理解できるようにする。

〔到達目標〕 各人の興味がある国語に関する内容を、研究に値するテーマに絞ることができるようにする。

〔授業計画〕

- | | | | |
|-------------------------|----|----------------|-----|
| 1 オリエンテーション | 9 | 〃 | (2) |
| 2 各人の研究テーマについて発表討議 (1) | 10 | アンケートのとり方について | |
| 3 〃 (2) | 11 | 研究の柱立てについて (1) | |
| 4 〃 (3) | 12 | 〃 (2) | |
| 5 自分のテーマに近い先輩の論文を読む (1) | 13 | 記述についての注意点 (1) | |
| 6 〃 (2) | 14 | 〃 (2) | |
| 7 研究のテーマを再考する | 15 | レポート提出 | |
| 8 研究に関する資料収集について (1) | | | |

〔テキスト〕 大野晋著『日本語練習帳』(岩波新書)

〔参考文献〕 適宜指示する。

〔授業形態〕 講義・発表・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験に替わるレポート 2回 (70%)、発表資料などの平常点 (30%)

31643

㊤国語科教育研究Ⅳ

W 坂口 豊

〔授業題目〕 国語科教育の研究と発表

〔概要〕 国語教育学研究の上に立って、実践の場に生きる指導のあり方について、各個人が研究テーマをまとめ、調査・研究を行い、互いに発表し合う。

〔到達目標〕 国語教育に関する研究の方法を体得でき、研究論文を書き上げることができるようにする。

〔授業計画〕

- | | | | |
|------------------|----|--------|------|
| 1 各人の研究発表・討議 (1) | 9 | 〃 | (9) |
| 2 〃 (2) | 10 | 〃 | (10) |
| 3 〃 (3) | 11 | 〃 | (11) |
| 4 〃 (4) | 12 | 〃 | (12) |
| 5 〃 (5) | 13 | 〃 | (13) |
| 6 〃 (6) | 14 | まとめ | |
| 7 〃 (7) | 15 | レポート提出 | |
| 8 〃 (8) | | | |

〔テキスト〕 大野晋著『日本語練習帳』(岩波書店)

〔参考文献〕 適宜指示する。

〔授業形態〕 講義・発表・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験に替わるレポート 2回 (70%)、発表資料などの平常点 (30%)

31644

㊦社会科学教育研究Ⅰ

S 谷本哲郎

〔授業題目〕社会科学教育の研究と発表

〔概要〕社会科学教育または社会科学教材に関連する内容のテーマを設定し、調査・研究・発表を通して、社会科学教育についての基本的取り組み姿勢について学習する。

〔到達目標〕テーマに即した資料の収集・整理、レジユメの作成、わかりやすい発表等が出来る。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1 オリエンテーション | 8 小研究の発表⑤ |
| 2 社会科学教育研究のあり方 | 9 研究成果の中間発表① |
| 3 資料収集、調査、発表について | 10 研究成果の中間発表② |
| 4 小研究の発表① | 11 研究成果の中間発表③ |
| 5 小研究の発表② | 12 研究成果の中間発表④ |
| 6 小研究の発表③ | 13 研究成果の中間発表⑤ |
| 7 小研究の発表④ | 14 卒業研究等のテーマ設定の方法について |

〔テキスト〕なし

〔参考文献〕授業中適宜指示する。

〔授業形態〕講義・演習・発表・対話

〔成績評価の方法〕定期試験に替わるレポート 60 %、発表等平常点 40 %

31644

㊦社会科学教育研究Ⅰ

S 中本和彦

〔授業題目〕社会科学教育学演習基礎Ⅰ

〔概要〕社会科学教育学に関する著書・論文を読み、レポートにまとめ、発表することを通して、文献研究の基礎的方法と社会科学教育学についての基礎的知識について修得する。

〔到達目標〕①社会科学教育学に関する内容について、文献を通して理解することができる。②社会科学教育学についての基礎的知識を理解している。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1 オリエンテーション | 8 文献講読・発表・討論 (7) |
| 2 文献講読・発表・討論 (1) | 9 文献講読・発表・討論 (8) |
| 3 文献講読・発表・討論 (2) | 10 文献講読・発表・討論 (9) |
| 4 文献講読・発表・討論 (3) | 11 文献講読・発表・討論 (10) |
| 5 文献講読・発表・討論 (4) | 12 文献講読・発表・討論 (11) |
| 6 文献講読・発表・討論 (5) | 13 文献講読・発表・討論 (12) |
| 7 文献講読・発表・討論 (6) | 14 文献講読・発表・討論 (13) |

〔テキスト〕

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕定期試験に替わるレポート 60 %、平常点 40 %

31645

㊦社会科学教育研究Ⅱ

W 谷本哲郎

〔授業題目〕社会科学教育の研究と発表

〔概要〕社会科学教育または社会科学教材に関連する内容の問題点を吟味すると共に、研究成果の発表を行う。

〔到達目標〕今までの学習成果を卒業研究という形でまとめることが出来る。

〔授業計画〕

- | | | |
|-----------------|---------------|-----------------|
| 1 オリエンテーション | 5 テーマ別小研究の発表② | 10 研究発表② |
| 2 卒業研究の書式及びまとめ方 | 6 テーマ別小研究の発表③ | 11 研究発表③ |
| 3 図書館資料利用ガイダンス | 7 テーマ別小研究の発表④ | 12 研究発表④ |
| 4 テーマ別小研究の発表① | 8 テーマ別小研究の発表⑤ | 13 研究発表⑤ |
| | 9 研究発表① | 14 社会科学教育の今日的課題 |

〔テキスト〕なし

〔参考文献〕授業中に適宜指示する。

〔授業形態〕講義・演習・発表・対話

〔成績評価の方法〕定期試験に替わるレポート 60 %、発表等平常点 40 %

31645

㊦社会科学教育研究Ⅱ

W 中本和彦

〔授業題目〕社会科学教育学演習基礎Ⅱ

〔概要〕社会科学教育学に関する各自のテーマについてレジюмеにまとめ、発表することを通して先行研究の把握と整理を行うとともに、研究発表における方法論を修得する。

〔到達目標〕①各自のテーマにそった社会科学教育学の先行研究を把握し、整理することができる。②レジюме等を作成し、研究成果を発表することができる。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1 オリエンテーション | 8 各自のテーマに基づいた発表・討論 (7) |
| 2 各自のテーマに基づいた発表・討論 (1) | 9 各自のテーマに基づいた発表・討論 (8) |
| 3 各自のテーマに基づいた発表・討論 (2) | 10 各自のテーマに基づいた発表・討論 (9) |
| 4 各自のテーマに基づいた発表・討論 (3) | 11 各自のテーマに基づいた発表・討論 (10) |
| 5 各自のテーマに基づいた発表・討論 (4) | 12 各自のテーマに基づいた発表・討論 (11) |
| 6 各自のテーマに基づいた発表・討論 (5) | 13 各自のテーマに基づいた発表・討論 (12) |
| 7 各自のテーマに基づいた発表・討論 (6) | 14 各自のテーマに基づいた発表・討論 (13) |

〔テキスト〕

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕定期試験に替わるレポート 60%、平常点 40%

31646

㊦社会科学教育研究Ⅲ

S 谷本哲郎

〔授業題目〕社会科学教育の研究と発表

〔概要〕社会科学教育または社会科学教材に関連する内容のテーマを設定し、調査・研究・発表を通して、社会科学教育についての基本的取り組み姿勢について学習する。

〔到達目標〕テーマに即した資料の収集・整理、レジюмеの作成、わかりやすい発表等が出来る。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1 オリエンテーション | 8 小研究の発表⑤ |
| 2 社会科学教育研究のあり方 | 9 研究成果の中間発表① |
| 3 資料収集、調査、発表について | 10 研究成果の中間発表② |
| 4 小研究の発表① | 11 研究成果の中間発表③ |
| 5 小研究の発表② | 12 研究成果の中間発表④ |
| 6 小研究の発表③ | 13 研究成果の中間発表⑤ |
| 7 小研究の発表④ | 14 卒業研究等のテーマ設定の方法について |

〔テキスト〕なし

〔参考文献〕授業中適宜指示する。

〔授業形態〕講義・演習・発表・対話

〔成績評価の方法〕定期試験に替わるレポート 60%、発表等平常点 40%

31647

㊦社会科学教育研究Ⅳ

W 谷本哲郎

〔授業題目〕社会科学教育の研究と発表

〔概要〕社会科学教育または社会科学教材に関連する内容の問題点を吟味すると共に、研究成果の発表を行う。

〔到達目標〕今までの学習成果を卒業研究という形でまとめることが出来る。

〔授業計画〕

- | | | |
|-----------------|---------------|-----------------|
| 1 オリエンテーション | 5 テーマ別小研究の発表② | 10 研究発表② |
| 2 卒業研究の書式及びまとめ方 | 6 テーマ別小研究の発表③ | 11 研究発表③ |
| 3 図書館資料利用ガイダンス | 7 テーマ別小研究の発表④ | 12 研究発表④ |
| 4 テーマ別小研究の発表① | 8 テーマ別小研究の発表⑤ | 13 研究発表⑤ |
| | 9 研究発表① | 14 社会科学教育の今日的課題 |

〔テキスト〕なし

〔参考文献〕授業中に適宜指示する。

〔授業形態〕講義・演習・発表・対話

〔成績評価の方法〕定期試験に替わるレポート 60%、発表等平常点 40%

31648

㊦算数科教育研究Ⅰ

S 川口隆雄

〔授業題目〕 数と計算の領域

〔概要〕 小学校算数科の「数と計算」領域に関連した数学的内容を発展させる。受講者が深く理解できるよう、授業形式として、講義、演習の他、発表・討議を取り入れ、受講者の理解の程度を把握しながら実施する。

〔到達目標〕 これまでに学修している「算数」授業の内容を基にして、算数教育をより専門的に理解するために必要になる数学的な考え方や柔軟な知識を得る。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 数の概念と数詞 | 9 素数と完全数 |
| 2 数の表現（位取りと進法） | 10 古代の分数（単位分数） |
| 3 たし算・ひき算のアルゴリズム | 11 分数と循環小数 |
| 4 筆算による開平 | 12 数値計算（ π の値） |
| 5 数あそび（虫食い算など） | 13 かわった計算（カレンダーの曜日計算） |
| 6 特殊な計算法（快速？計算） | 14 学生研究発表（2） |
| 7 学生研究発表（1） | 15 定期試験 |
| 8 素数の判定と素数を求めるアルゴリズム | |

〔テキスト〕 プリントを配布する。

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 60%、平常点 40%

31648

㊦算数科教育研究Ⅰ

S 寺田幹治

〔授業題目〕 算数教材と数学

〔概要〕 算数教材または算数教材に関連ある内容について分析・考察する。算数で扱う教材の歴史的な考察と、算数教育の思想に関する問題、算数教育の構成の問題など数の領域を中心とする。各時代ごとに関連ある具体的なものを取り上げる。

〔到達目標〕 テーマに関する理解を確実にし、レポートや討論の中で発表できるようになったか。

〔授業計画〕

- | | | |
|---------------|--------------|----------------|
| 1 数の集合と計算 | 6 算数教育の歴史（1） | 11 量と測定（1） |
| 2 整数の性質 | 7 算数教育の歴史（2） | 12 量と測定（2） |
| 3 小数と計算 | 8 算数教育の歴史（3） | 13 分野間の関連（1） |
| 4 分数と計算 | 9 図形（1） | 14 算数科指導要領について |
| 5 整数・小数・分数の関連 | 10 図形（2） | 15 定期試験 |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義・演習・発表

〔成績評価の方法〕 定期試験 60%、演習、レポート等を含む平常点 40%

31649

㊦算数科教育研究Ⅱ

W 川口隆雄

〔授業題目〕 数量関係の領域

〔概要〕 小学校算数科の「数量関係」領域に関連した数学的内容を発展させる。受講者が深く理解できるよう、授業形式として、講義、演習の他、発表・討議を取り入れ、受講者の理解の程度を把握しながら実施する。

〔到達目標〕 これまでに学修している「算数」授業の内容を基にして、算数教育をより専門的に理解するために必要になる数学的な考え方や柔軟な知識を得る。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1 古代の方程式 | 9 確率（コイン投げ・サイコロ投げ） |
| 2 ともなって変わる（三角数・四角数） | 10 パスカルの確率 |
| 3 多角形の分割数 | 11 統計図表（表・グラフの作成） |
| 4 ブラックボックスとしての関数 | 12 度数分布と正規分布 |
| 5 折り紙四角形の状態変化 | 13 学生研究発表（2） |
| 6 学生研究発表（1） | 14 学生研究発表（3） |
| 7 文字の変換（暗号） | 15 定期試験 |
| 8 図形の変換（図形消滅） | |

〔テキスト〕 プリントを配布する。

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 60%、平常点 40%

31649

㊤算数科教育研究Ⅱ

W 寺田幹治

〔授業題目〕算数教育と数学の歴史

〔概要〕算数教材または算数教材に関連ある内容について分析・考察する。数と計算の領域を中心とする。各時代ごとに関連のある具体的なものを取り上げる。

〔到達目標〕テーマに関する理解を確実にし、レポートや討論の中で発表できるようになったか。

〔授業計画〕

- | | | |
|------------------|-------------------|-------------------|
| 1 和算における数と計算 (1) | 6 昭和初期の算数教育 (3) | 11 現代化時代の算数教育 (1) |
| 2 和算における数と計算 (2) | 7 算術から算数へ (1) | 12 現代化時代の算数教育 (2) |
| 3 和算における数と計算 (3) | 8 算術から算数へ (2) | 13 現在の算数教育 (1) |
| 4 昭和初期の算数教育 (1) | 9 生活単元における算数 (1) | 14 現在の算数教育 (2) |
| 5 昭和初期の算数教育 (2) | 10 生活単元における算数 (2) | 15 定期試験 |

〔テキスト〕

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕講義・演習・発表

〔成績評価の方法〕定期試験 60%、演習、レポート等を含む平常点 40%

31650

㊤算数科教育研究Ⅲ

S 川口隆雄

〔授業題目〕数と計算の領域

〔概要〕小学校算数科の「数と計算」領域に関連した数学的内容を発展させる。受講者が深く理解できるよう、授業形式として、講義、演習の他、発表・討議を取り入れ、受講者の理解の程度を把握しながら実施する。

〔到達目標〕これまでに学修している「算数」授業の内容を基にして、算数教育をより専門的に理解するために必要になる数学的な考え方や柔軟な知識を得る。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1 数の概念と数詞 | 9 素数と完全数 |
| 2 数の表現 (位取りと進法) | 10 古代の分数 (単位分数) |
| 3 たし算・ひき算のアルゴリズム | 11 分数と循環小数 |
| 4 筆算による開平 | 12 数値計算 (π の値) |
| 5 数あそび (虫食い算など) | 13 かわった計算 (カレンダーの曜日計算) |
| 6 特殊な計算法 (快速? 計算) | 14 学生研究発表 (2) |
| 7 学生研究発表 (1) | 15 定期試験 |
| 8 素数の判定と素数を求めるアルゴリズム | |

〔テキスト〕プリントを配布する。

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕講義・演習

〔成績評価の方法〕定期試験 60%、平常点 40%

31650

㊤算数科教育研究Ⅲ

S 寺田幹治

〔授業題目〕算数教材と数学

〔概要〕算数教材または算数教材に関連ある内容について分析・考察する。算数で扱う教材の歴史的な考察と、算数教育の思想に関する問題、算数教育の構成の問題など数の領域を中心とする。各時代ごとに関連ある具体的なものを取り上げる。教育研究Ⅰと同時展開の講義であるが、Ⅲの受講生には、一段内容を深くとらえられるように構成する。

〔到達目標〕テーマに関する理解を確実にし、レポートや討論の中で発表できるようになったか。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1 数の集合と計算 | 9 図形 (1) |
| 2 整数の性質 | 10 図形 (2) |
| 3 小数と計算 | 11 量と測定 (1) |
| 4 分数と計算 | 12 量と測定 (2) |
| 5 整数・小数・分数の関連小数と計算 | 13 分野間の関連 (1) |
| 6 算数教育の歴史 (1) | 14 算数科指導要領について |
| 7 算数教育の歴史 (2) | 15 定期試験 |
| 8 算数教育の歴史 (3) | |

〔テキスト〕

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕講義・演習・発表

〔成績評価の方法〕定期試験 60%、演習、レポート等を含む平常点 40%

31661

㊦算数科教育研究Ⅳ

W 川口隆雄

〔授業題目〕数量関係の領域

〔概要〕小学校算数科の「数量関係」領域に関連した数学的内容を発展させる。受講者が深く理解できるように、授業形式として、講義、演習の他、発表・討議を取り入れ、受講者の理解の程度を把握しながら実施する。

〔到達目標〕これまでに学修している「算数」授業の内容を基にして、算数教育をより専門的に理解するために必要になる数学的な考え方や柔軟な知識を得る。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1 古代の方程式 | 9 確率 (コイン投げ・サイコロ投げ) |
| 2 ともなって変わる (三角数・四角数) | 10 パスカルの確率 |
| 3 多角形の分割数 | 11 統計図表 (表・グラフの作成) |
| 4 ブラックボックスとしての関数 | 12 度数分布と正規分布 |
| 5 折り紙四角形の状態変化 | 13 学生研究発表 (2) |
| 6 学生研究発表 (1) | 14 学生研究発表 (3) |
| 7 文字の変換 (暗号) | 15 定期試験 |
| 8 図形の変換 (図形消滅) | |

〔テキスト〕プリントを配布する。

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕講義・演習

〔成績評価の方法〕定期試験 60%、平常点 40%

31661

㊦算数科教育研究Ⅳ

W 寺田幹治

〔授業題目〕算数教育と数学の歴史

〔概要〕算数教材または算数教材に関連ある内容について分析・考察する。数と計算の領域を中心とする。各時代ごとに関連のある具体的なものを取り上げる。教育研究Ⅱと同時展開の講義であるが、Ⅳの受講生には、一段内容を深くとらえられるように構成する。

〔到達目標〕テーマに関する理解を確実にし、レポートや討論の中で発表できるようになったか。

〔授業計画〕

- | | | |
|------------------|-------------------|-------------------|
| 1 和算における数と計算 (1) | 6 昭和初期の算数教育 (3) | 11 現代化時代の算数教育 (1) |
| 2 和算における数と計算 (2) | 7 算術から算数へ (1) | 12 現代化時代の算数教育 (2) |
| 3 和算における数と計算 (3) | 8 算術から算数へ (2) | 13 現在の算数教育 (1) |
| 4 昭和初期の算数教育 (1) | 9 生活単元における算数 (1) | 14 現在の算数教育 (2) |
| 5 昭和初期の算数教育 (2) | 10 生活単元における算数 (2) | 15 定期試験 |

〔テキスト〕

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕講義・演習・発表

〔成績評価の方法〕定期試験 60%、演習、レポート等を含む平常点 40%

31662

㊦理科教育研究Ⅰ

S 羽多野隆美

〔授業題目〕基礎的な科学的思考能力を養う

〔概要〕これまでに習得された理科の基礎的素養をもとにさらに広い視野でより専門的な科学的知識を身につけるとともに科学的思考能力を養う。また、種々の実験を通して小学校における理科教育の授業と実験の進め方についての基礎的能力を獲得させる。

〔到達目標〕自然科学的事業の基礎的知識を身につけさせ、科学的思考能力を養う。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 自然界の諸現象 2 (解説) |
| 2 自然科学の探求と方法 | 10 自然界の諸現象 2 (実験) |
| 3 生物に関する実験機器、器具の構造と取り扱い | 11 自然界の諸現象 3 (解説) |
| 4 物理に関する実験機器、器具の構造と取り扱い | 12 自然界の諸現象 3 (実験) |
| 5 化学に関する実験機器、器具の構造と取り扱い | 13 自然界の諸現象 4 (解説) |
| 6 地学に関する実験機器、器具の構造と取り扱い | 14 自然界の諸現象 4 (実験) |
| 7 自然界の諸現象 1 (解説) | 15 定期試験 |
| 8 自然界の諸現象 1 (実験) | |

〔テキスト〕講義の際に印刷資料を配布する。

〔参考文献〕講義の際に随時、紹介する。

〔授業形態〕講義・実習・実験

〔成績評価の方法〕定期試験 80%、レポート、小テスト、受講中の態度等 20%

31663

㊦理科教育研究Ⅱ

W 羽多野隆美

〔授業題目〕 理科における実験と観察の基礎

〔概要〕 理科教育研究Ⅰで獲得した理科的能力と実験、観察を通して理論だった科学的な研究方法を獲得させる。また、実験、観察を通してその教育方法と技術を習得させる。

〔到達目標〕 実験観察を通してより高度な自然科学的な知識を獲得するとともに小学校教員としての高度な教育方法と教育技術を習得させる。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 自然科学の課題 3 (実験) |
| 2 理科に関する実験機器の構造と取り扱い (1) | 10 小学校理科教科書に見られる課題 1 (解説) |
| 3 理科に関する実験機器の構造と取り扱い (2) | 11 小学校理科教科書に見られる課題 1 (実験) |
| 4 自然科学の課題 1 (解説) | 12 小学校理科教科書に見られる課題 2 (解説) |
| 5 自然科学の課題 1 (実験) | 13 小学校理科教科書に見られる課題 2 (実験) |
| 6 自然科学の課題 2 (解説) | 14 自然科学的思考と理科教育への応用 |
| 7 自然科学の課題 2 (実験) | 15 定期試験 |
| 8 自然科学の課題 3 (解説) | |

〔テキスト〕 講義の際に印刷資料を配布する。

〔参考文献〕 講義の際に随時、紹介する。

〔授業形態〕 講義・実習・実験

〔成績評価の方法〕 定期試験 80 %、レポート、小テスト、受講中の態度等 20 %

31664

㊦理科教育研究Ⅲ

S 羽多野隆美

〔授業題目〕 実験を通して科学的思考能力を育てる

〔概要〕 理科教育研究Ⅱで学習した自然科学的基盤をもとに、さらに広い視野でより高いレベルの科学的素養を育成することに主眼を置き、科学分野における実験を主体とした基礎的研究方法を体得する。また、幅広い実験、観察を行うことにより、小学校における興味ある理科教育の進め方、実験、観察の実施方法とも関連させながらより高度な理科的教育方法を養う。

〔到達目標〕 実験、観察を通してその方法と自然科学上の知識を習得するとともにその思考過程を小学校の理科教育に活用できるようにする。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 自然界の諸現象 2 (解説) |
| 2 理科の実験機器の構造と取り扱い | 10 自然界の諸現象 2 (実験) |
| 3 自然科学の研究手法 | 11 自然界の諸現象 3 (解説) |
| 4 研究に関する資料の収集 | 12 自然界の諸現象 3 (実験) |
| 5 学生の研究テーマの発表 (1) | 13 自然界の諸現象 4 (解説) |
| 6 学生の研究テーマの発表 (2) | 14 自然界の諸現象 4 (実験) |
| 7 自然界の諸現象 1 (解説) | 15 定期試験 |
| 8 自然界の諸現象 1 (実験) | |

〔テキスト〕 講義の際に印刷資料を配布する。

〔参考文献〕 講義の際に随時、紹介する。

〔授業形態〕 講義・実習・実験

〔成績評価の方法〕 定期試験 80 %、レポート、小テスト、受講中の態度等 20 %

31665

㊦理科教育研究Ⅳ

W 羽多野隆美

〔授業題目〕より高度な科学的知識と能力の獲得のために

〔概要〕これまでに習得した自然科学的な知識と思考方法を実験や実習を通してさらに発展させ、系統的だてられた科学的で理論的な考証ができるようにする。また、種々の実験を通して、小学校教員が身につけることが必要な自然科学的知識、理科教育的技術と能力を身につけさせる。また、最近の急速に発展する自然科学的事象に関する話題や研究成果についても学習しその理解を深めさせる。

〔到達目標〕未知の自然科学的事象の解明のために自らが実験、観察を企画立案し、解決する能力を養う。さらに、この能力を小学校における理科教育に応用できるようにする。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 自然科学の課題 3 (実験) |
| 2 理科の実験機器の構造と取り扱い | 10 学生研究発表と討論 (1) |
| 3 自然科学論文の書き方 | 11 学生研究発表と討論 (2) |
| 4 自然科学の課題 1 (解説) | 12 学生研究発表と討論 (3) |
| 5 自然科学の課題 1 (実験) | 13 学生研究発表と討論 (4) |
| 6 自然科学の課題 2 (解説) | 14 学生研究発表と討論 (5) |
| 7 自然科学の課題 2 (実験) | 15 定期試験 |
| 8 自然科学の課題 3 (解説) | |

〔テキスト〕講義の際に印刷資料を配布する。

〔参考文献〕講義の際に随時、紹介する。

〔授業形態〕講義・実習・実験

〔成績評価の方法〕定期試験 80 %、レポート、小テスト、受講中の態度等 20 %

31668

㊦体育科教育研究Ⅲ

S 赤松喜久

〔授業題目〕学校体育と家庭、地域との連携

〔概要〕体育科の目標をよりよく実現していくためには、家庭や地域との連携が不可欠となることを理解し、そこでの連携を深めていくために、学校として、あるいは、体育・スポーツの指導者としてどのような役割を果たすことができるか実践的に考究する。

〔到達目標〕体育の目標をよりよく実現していくために、家庭や地域との連携が不可欠となることを理解し、そこでの連携を深めていくためにどのような方策が必要となるか具体的に見通すことができるようになることを目指す。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------------|------------------------|
| 1 子どもの体力の向上方策の必要性 | 8 運動遊びの開発 (個人的運動遊び) |
| 2 子どもの体力を向上させるために必要となる社会の支援策 | 9 運動遊びの開発 (個人的運動遊び) |
| 3 子どもの体力向上に有意な運動実践 | 10 運動遊びの開発 (集団的運動遊び) |
| 4 「毎日の生活と健康」の考え方・進め方 | 11 運動遊びの開発 (集団的運動遊び) |
| 5 子どもの生活実態について | 12 子どもの生活改善の評価方法 |
| 6 子どもの遊び環境確保に向けた社会的支援策 | 13 子どもの生活改善にかかわる仕組みづくり |
| 7 子どもが喜んで取り組むことができる運動遊び | 14 子どもの生活改善にかかわる仕組みづくり |
| | 15 試験 |

〔テキスト〕授業中紹介する

〔参考文献〕

〔授業形態〕演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕レポートの提出を求めそれを平常点 (6割) とし、期末試験 (4割) との総合評価とする。

31669

㊤体育科教育研究Ⅳ

W 赤松喜久

〔授業題目〕 体育とスポーツ 人間にとっての意味

〔概要〕 遊びとしてのスポーツを学習の内容とする体育、あるいは、地域におけるスポーツ活動の活性化、充実方策について考究する。

〔到達目標〕 遊びとしてのスポーツをよりよく理解するとともに、遊びの要件を損なわない環境づくりをどのように進めていくかについて具体的に見通すことができるようになることを目指す。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1 体育・スポーツをめぐる研究分野と研究の動向 | 8 社会調査の技法 |
| 2 スポーツを目的的に捉える諸条件整備 | 9 先行研究や資料の活用方策 |
| 3 地域におけるスポーツ振興方策の実際 | 10 論点の整理 |
| 4 「スポーツ振興基本計画」の政策目標 | 11 論点ごとのグループワーク |
| 5 運動を目的的に捉える諸条件整備 | 12 グループ発表 |
| 6 「健康日本21」の政策目標 | 13 問題点の明確化に向けたグループワーク |
| 7 運動・スポーツによるトータルな人間発達 | 14 グループ発表 |
| | 15 試験 |

〔テキスト〕 授業中紹介する

〔参考文献〕

〔授業形態〕 演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕 レポートの提出を求めそれを平常点（6割）とし、期末試験（4割）との総合評価とする。

31690

㊤教育学特殊講義 教職教養研究Ⅰ（2人ローテーション）W

谷本哲郎 植田義幸

〔概要〕 小学校教員として身につけておかなければならない教育法規を取り上げ具体的に解説する。また教育実習の反省に立って、教育内容・教育技術に関する考えを、討論及び論作文等によって深める。

〔到達目標〕 小学校教員としての使命感、教職教養に関する専門的知識等を基盤とした実践的指導力を育成する。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1 教育法規の意義と構造 | 9 「3分間スピーチ」を考える |
| 2 教育の理念に関する法規 | 10 論作文の書き方（1） |
| 3 学校の性格と基準に関する法規 | 11 論作文の書き方（2） |
| 4 教育課程に関する法規 | 12 集団討論の進め方（1） |
| 5 児童生徒に関する法規 | 13 集団討論の進め方（2） |
| 6 教職員に関する法規 | 14 模擬授業の進め方 |
| 7 教育行政に関する法規 | 15 定期試験 |
| 8 自己の考えをいかに相手に伝えるか | |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 適宜指示する

〔授業形態〕 講義・演習・実習・発表・対話

〔成績評価の方法〕 定期試験70%、平常点等30%

31691

㊤教育学特殊講義 教職教養研究Ⅱ（2人ローテーション）S

谷本哲郎 坂口 豊

〔授業題目〕 自己表現の方法に関する研究

〔概要〕 児童表現能力を豊かに育む必要のある教師として、まず自己をどのように表現するのかを、演習形式で個人・集団面接・集団討論、模擬授業、小論文という方法により実際の場面に即して学習する。

〔到達目標〕 自己表現する力を高めることを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1 オリエンテーション | 8 集団討議場面での自己表現Ⅰ |
| 2 自己表現の意義とそのあり方 | 9 集団討議場面での自己表現Ⅱ |
| 3 性格分析 | 10 模擬授業場面での自己表現Ⅰ |
| 4 筆記による自己の表現方法 | 11 模擬授業場面での自己表現Ⅱ |
| 5 論作文による自己表現 | 12 ロールプレイングⅠ |
| 6 1対1の対人関係場面での自己表現 | 13 ロールプレイングⅡ |
| 7 「3分間スピーチ」による自己開示 | 14 社会的スキル訓練Ⅰ |

〔テキスト〕 適宜指示する。

〔参考文献〕 講義の中で指示する。

〔授業形態〕 演習・実習・発表・対話・討論・双方向授業

〔成績評価の方法〕 定期試験に替わるレポート70%、小論文などの平常点30%（なお、各先生で評価が35%と15%の計50%となる）